

太田市内遺跡 3

——平成18年度調査——

2008

群馬県太田市教育委員会

序

昨年の5月に市内の天良町で実施された市内遺跡確認調査で、古代新田郡の郡庁跡が見つかりました。地権者の方々のご協力をいただき全域に及んだ調査により、この遺構は全国でも最大の規模をもち、上野国交替実録帳という古文書の内容にも一致していることから、国指定史跡の申請にまで至りました。調査当初は、新田郡の郡衙があると推定されていた場所でしたが、50mにもおよぶ長大な掘立柱建物跡の発見をきっかけとして、その全体を確認することができたことが、このような成果となったことは言うまでもありません。また、4月から開発申請の扱いが変更となり、本来開発できなかったこの地に調査が入ったことも重要な要因の一つであったと言えます。合併3年目にして、「市内遺跡発掘調査」事業がこのような大きな成果を挙げたことは大変うれしいかぎりです。当教育委員会では、今後も市内における開発行為に対しては、「市内遺跡発掘調査」として事前の試掘・立会い・確認調査を実施し、埋蔵文化財の保護につとめていく所存です。

本書には平成18年度に実施した市内遺跡発掘調査の成果をまとめてあります。今まで知りえなかった数々の遺跡についての報告が載せてありますので、市内の遺跡の様子や埋蔵文化財に対する理解や保護、また地域の歴史を知る資料としてご活用いただければ幸いです。

おわりに、調査に当たり発掘調査にご協力いただきました方々、また寒暖の中発掘調査に参加していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

平成20年3月

太田市教育委員会
教育長 相澤 邦 衛

例 言

- 1 本報告書は、太田市教育委員会が文化財保存事業費国庫補助金と県費補助金を得て実施した「市内遺跡発掘調査」をまとめた報告書である。
- 2 発掘調査は、太田市教育委員会が平成18年度に実施し、整理作業は平成19年度に実施した。
- 3 試掘調査において、遺構が確認された主な遺跡についてはその調査概要を掲載し、その他に調査を実施したすべての遺跡について、調査地点の位置と概要を示した。
- 4 太田市教育委員会の調査組織は下記の通りである。

平成18年度（発掘調査）

調査主体者 太田市教育委員会 教育長 相澤邦衛

調査担当者 太田市教育委員会 教育部文化財課 埋蔵文化財係 係長 須永光一

係長代理 小宮 豪、主任 小宮俊久

調査・整理事務局 太田市教育委員会 教育部長 岡島幸雄、教育副部長 諏訪和雄

文化財課課長 宮田 毅、課長補佐 手島昌代、荒井久志、文化財保護係長 小暮英司、史跡整備係長 高木武史、係長代理 原口芳典、主任 高橋之雄、空井 智、神保晴美、田島幸一、金澤 誠、新井喜昭、中村 渉、伏島 徹、遠坂純伸、関根圭介、荒井文夫、嘱託 鹿山くみ子、佐藤信孝

平成19年度（整理作業）

整理主体者 太田市教育委員会 教育長 相澤 邦衛

整理担当者 太田市教育委員会 教育部文化財課 埋蔵文化財係 係長代理 小宮 豪

整理事務局 太田市教育委員会 教育部長 竹吉 弘、教育副部長 諏訪和雄

文化財課参事 茂木博光、課長補佐 荒井久志、須永光一 高木武史 文化財保護係長 栗原正幸、小暮英司、係長代理 原口芳典、有本陽子、小宮俊久、主任 高橋之雄、空井 智、神保晴美、田島幸一、城代富美江、新井喜昭、中村 渉、伏島 徹、遠坂純伸、関根圭介、荒井文夫、嘱託 鹿山くみ子、佐藤信孝

- 5 本稿の編集・執筆は、小宮豪が担当した。
- 6 本書に掲載した遺構の写真は調査担当者が撮影した。
- 7 本書に掲載した地図は太田市都市計画図を用いた。
- 8 発掘調査および本書の作成にあたっては下記の方々、機関より御教授、御協力を賜った。記して感謝を表したい（アイウエオ巡、敬称略）。
群馬県教育委員会文化課埋蔵文化財グループ、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 9 本書に係わる資料、遺物は太田市教育委員会で保管している。
- 10 発掘調査ならびに整理作業に携わった作業員は、下記のとおりである。(敬称略、順不同)
保坂あき子、福島貞雄、福島清野、小此木克己、小川和栄、高橋 章、木村美江子、佐藤裕美、須永純子

凡 例

- 1 遺構平面図、遺構配置図等に示す北は断りのない限り座標北を意味する。
- 2 第5章の調査地点位置図の縮尺は1/5000、遺跡の範囲図の縮尺は1/10000とし、それ以外の縮尺についてはスケールを付した。

目 次

序 文

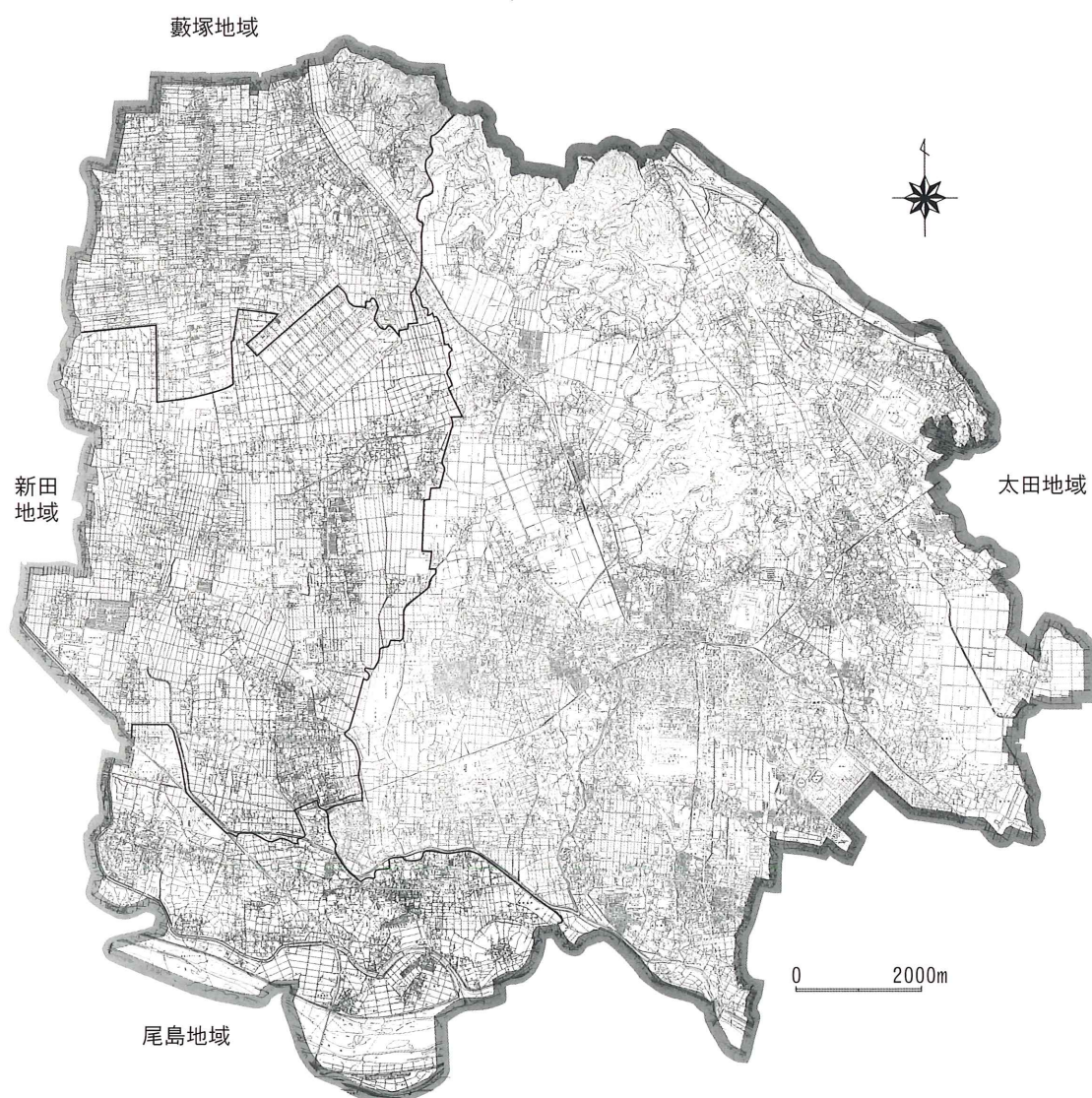
例 言

凡 例

第1章 調査に至る経過	1
第2章 調査の方法および経過	2
第3章 遺跡の位置と歴史的環境	5
第4章 調査を実施した遺跡の概要	8
1. 茶臼山古墳 (No.6)	8
2. 東部地区遺跡群 (No.7)	9
3. 上遺跡 (No.8)	11
4. 牛沢稻荷山古墳 (No.9)	12
5. 上強戸古墳群 (No.10)	13
6. 境ヶ谷戸遺跡 (No.15)	14
7. 塚井遺跡 (No.16)	15
8. 村田・本郷遺跡 (No.19)	17
9. 杉ノ下遺跡 (No.22)	18
10. 大日山古墳群 (No.24)	21
11. 上江田城館跡 (No.26)	23
12. 北明泉寺遺跡 (No.27)	25
13. 安良岡古墳群 (No.28)	26
第5章 試掘調査の概要	28
第6章 ま と め	55

第1章 調査に至る経緯

太田市は、平成17年3月28日に、旧太田市と旧新田町、旧尾島町、旧藪塚町の1市3町の合併によって人口が22万人近くとなり、面積も176.49km²となる大都市へと変貌しました。史跡や指定される文化財の数、埋蔵文化財包蔵地も圧倒的に増え、開発に伴う試掘・確認・本調査の件数も増えてきました。太田市では、前年度から引き続き公共事業に関しては前年度に関係各課に事業内容についての照会を行い、遺跡に該当する箇所については新年度事業の試掘調査対象とし、民間開発については事前問い合わせの窓口を通して事業照会を行い、工事着手前に立会・試掘調査が実施できるように文化財保護の体制を統一してきました。試掘調査においては、国庫補助や県費補助を受けて「市内遺跡発掘調査」として実施し、個人住宅において遺構が確認された場合については本調査を実施することで開発事業との調整を図ることとしました。



太田市の全体図

第2章 調査の方法および経過

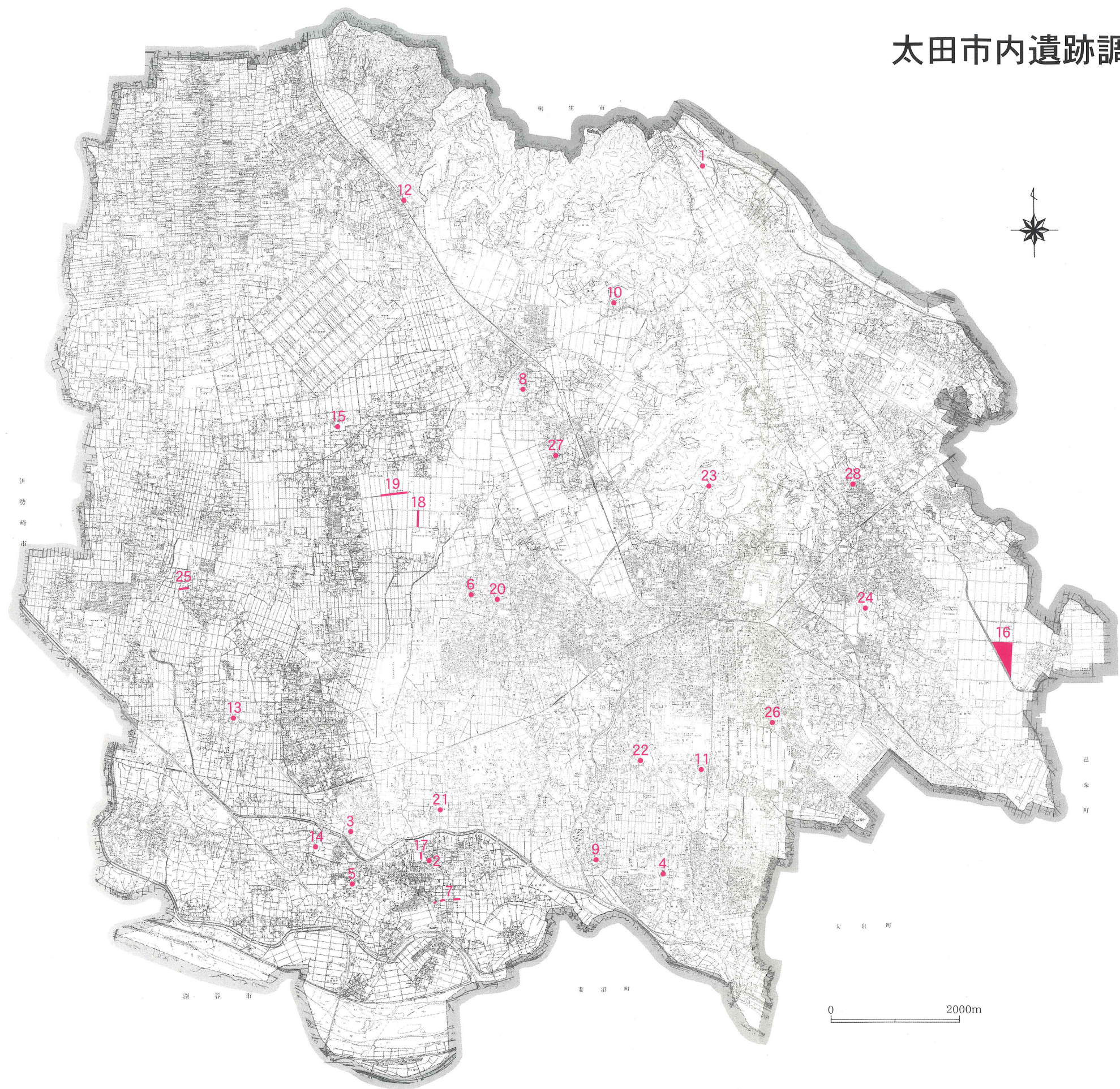
前述したとおり、公共・民間の開発については市内遺跡発掘調査の対象とし、開発の事前申請時に太田市内の遺跡地図をもとに遺跡地内であるかの判断を実施し、遺跡地内に該当する場合は開発事業者に事業内容について確認を行った後、試掘調査が必要な場合については試掘調査依頼書の提出を受けて調査を実施している。なお、平成18年度の遺跡地の照合に当たっては、太田市で作成した新遺跡分布地図を基にして、旧町の分布地図も参考にして、遺跡該当の取扱いを実施してきた。

試掘調査の内容は、対象となる土地の地形・形状や開発計画を考慮してトレンチを設定し、遺構確認面まで掘削して遺構の所在を確認している。確認された遺構については、平面形を実測し、写真撮影を行っている。また、鉄塔建設等の狭い面積の開発においても、地下に影響を及ぼす工事については試掘調査の対象とし、柱状改良等が伴う個人住宅建設については県文化課と取扱いを協議して試掘実施の決定をしてきた。いずれの場合にせよ、遺構が確認された場合については本調査の対象としている。(個人住宅における本調査は市内遺跡で対応している)

太田市内遺跡平成18年度確認調査一覧表

№	所在地	遺跡名	開発原因	調査面積 (開発面積)	調査期間	調査結果	備考
1	太田市原宿町597他	原宿川向遺跡	ドライブイン	480㎡ (14,000)	平18.5.15-17	遺物・遺構なし。	
2	太田市尾島町240番1ほか	FP泥流下遺跡群(尾島)	コンビニ	155㎡ (3,262)	平18.6.5	遺物・遺構なし。	
3	太田市下田島町1563-8	西田島遺跡	集合住宅	110㎡ (379)	平18.6.8	遺物・遺構なし。	
4	太田市高林南町605-6	高林鶴巻古墳	集合住宅	70㎡ (997)	平18.6.26	溝1条、遺物なし。	
5	太田市亀岡町568-1、569-1	FP泥流下遺跡群(亀岡経浜)	土地分譲	350㎡ (2,314)	平18.8.1-2	土坑1基(平安時代)。	
6	太田市別所町388番2	茶臼山古墳	学校建設	80㎡ (308.6)	平18.7.31	周堀1条。	確認調査で終了
7	太田市岩松町159番ほか地内	東部地区遺跡群	区画整理	420㎡ (4,446)	平18.8.31-9.8	住居10軒(古墳～平安時代)、土坑17基、溝3条	確認調査後、一部本調査
8	太田市鳥山上町2249番1ほか地内	上遺跡	土地分譲	160㎡ (2,303.7)	平18.9.5-11	住居12軒(古墳～平安)、土坑4基、土師器片。	確認調査後、一部本調査
9	太田市牛沢町138番1地内	牛沢稲荷山古墳	宅地造成	100㎡ (801.6)	平18.9.28-10.2	住居6軒(古墳前期)、土師器片。	工事の際に会い調査。
10	太田市上強戸町2028-1ほか	上強戸古墳群 (北部スボーツ公園内遺跡群)	公園建設	111㎡ (4,000)	平18.10.18	直径約30mの円墳であることを確認。円筒埴輪片数点出土。	確認調査で終了
11	太田市西矢島町358番4ほか地内	西矢島遺跡	土地分譲	105㎡ (999.3)	平18.10.25	発見遺構・遺物なし。	
12	太田市藪塚町2764番1地内	西野東中遺跡	集合住宅	110㎡ (1,007)	平18.10.26	発見遺構・遺物なし。	
13	太田市新田中江田町1126番2地内	赤仏遺跡	介護施設建設	180㎡ (1,418)	平18.11.1	長方形土坑4基。	確認調査で終了
14	太田市粕川町154番1地内	FP泥流下遺跡群(粕川)	土地分譲	40㎡ (2,473)	平18.11.2	発見遺構・遺物なし。	
15	太田市新田市野井町1989番3地内	境ヶ谷戸遺跡	鉄塔建設	48㎡ (96)	平18.11.6	住居3軒、溝1条、土師器片。	確認調査後、工事箇所を変更。
16	太田市沖之郷町984番ほか地内	塚井遺跡	遊水池建設	735 (85,900)	平18.11.9-12.15	住居9軒(古墳前期)、土坑5基、溝5条、ビット40、土師器片。	新発見の遺跡。確認後本調査。
17	太田市尾島町250番1ほか	FP泥流下遺跡群(尾島)	道路建設	18㎡ (850)	平18.11.10	発見遺構・遺物なし。	
18	太田市新田小金井町地内	中溝II遺跡	道路建設	200㎡ (3,500)	平18.12.11-12	発見遺構・遺物なし。	
19	太田市新田村田町	村田・本郷遺跡	道路建設	200㎡ (7,300)	平18.12.15-18	住居2軒、土坑9基、溝9条、堀4箇所。遺物なし。	試掘後本調査を実施。
20	太田市由良町1558番1ほか地内	大門遺跡	土地分譲・道路建設	43㎡ (1,700)	平18.12.15	土坑1基(近世)	
21	太田市下田島町530番1地内	下田島遺跡	鉄塔建設	19㎡ (96)	平18.11.16	発見遺構・遺物なし。	
22	太田市岩瀬川町53番1ほか	杉ノ下遺跡	集合住宅	290㎡ (2,615)	平19.1.10-12	住居5軒(古墳時代)、土坑20基、溝5条、ビット17。土師器片。	確認調査で終了。
23	太田市金山町40番281地内	金山城跡縄張り	金山ガイダンス	74㎡ (1,650)	平18.12.4-12	発見遺構・遺物なし。	
24	太田市石原町118番2	大日山古墳群	ドライブイン	410㎡ (3,292.1)	平19.1.16-19	住居1軒(縄文時代)、古墳4基。縄文土器片、埴輪片。	確認調査後、一部本調査
25	太田市新田上江田町	上江田城館跡	道路建設	200㎡ (700)	平19.2.1-3.15	古墳2基、土坑2基、溝2条。円筒埴輪1点。	確認調査で終了。
26	太田市飯塚町759-1	北明泉寺遺跡	集合住宅	45㎡ (1,031.4)	平19.2.5	住居1軒(古墳時代)、土坑2基、溝2条、土師器片。	確認調査で終了。
27	太田市鳥山中町817番1ほか地内	鳥ヶ谷戸遺跡	個人住宅	25㎡ (327.8)	平19.3.2	発見遺構・遺物なし。	
28	太田市台之郷町1550番	安良岡古墳群	集合住宅	600㎡ (5,249.2)	平19.3.15-3.16	方形周溝墓1基、溝1条	試掘後本調査を実施。

太田市内遺跡調査地位置図



平成 18 年度調査地

- 1 原宿川向遺跡
- 2 F P 泥流下遺跡群（尾島）
- 3 西田島遺跡
- 4 高林鶴巻遺跡
- 5 F P 泥流下遺跡群（亀岡軽浜）
- 6 茶臼山古墳
- 7 東部地区遺跡群
- 8 上遺跡
- 9 牛沢稲荷山古墳
- 10 北部スポーツ公園内遺跡群（上強戸古墳群）
- 11 西矢島遺跡
- 12 西野東中遺跡
- 13 赤仏遺跡
- 14 F P 泥流下遺跡群（粕川）
- 15 境ヶ谷戸遺跡
- 16 塚井遺跡
- 17 F P 泥流下遺跡群（尾島）
- 18 中溝Ⅱ遺跡
- 19 村田・本郷遺跡
- 20 大門遺跡
- 21 下田島遺跡
- 22 杉ノ下遺跡
- 23 金山城跡縄張り
- 24 大日山古墳群
- 25 上江田城館跡
- 26 北明泉寺遺跡
- 27 鳥ヶ谷戸遺跡
- 28 安良岡古墳群

整理作業においては、これらの調査より出土した遺物の整理や図面の整理を実施し、翌年度にその成果を「太田市内遺跡」としてまとめて調査報告書を刊行している。平成18年度の整理作業は、平成17年度に実施した調査について整理を行い、「太田市内遺跡2」として報告書を刊行した。

平成18年度の調査 試掘調査を実施した28箇所における開発事業の内訳は、民間事業21件、公共事業6件、範囲確認調査1件を数える。民間開発事業のうち6件は土地分譲、6件は集合住宅、ドライブイン2件、その他が7件であった。公共事業は、道路建設が4件で、残りはその他の事業に該当した。範囲確認調査としては、北部スポーツ公園造成に伴い緑地として保存されてる古墳の範囲について確認調査等を実施した。以上、実施した調査地の概要について一覧表にまとめ、その位置を同番号で調査区位置図として図上に示した。調査によって得られた資料の整理は、平成19年度に実施し、太田市教育委員会にて保管している。

第3章 遺跡の位置と歴史的環境

太田市は北東部に八王子丘陵があり、それが南東方向に連なっている。また、その南側には金山がそびえ立ち、市域全域を望むことができる。八王子丘陵の西側の藪塚地域には大間々扇状地が広がり、その端部に位置する新田地域からは湧水が流れ出し、河川を形成し古くより生活の水脈として利用されてきた。市中央部には広大な平地部分が広がり、台地や沖積地を形成している。利根川と面している南西部の尾島地域は、旧利根川の流路にあたる部分であり、遺跡が泥流によって覆われている区域が広がっている。旧1市3町の範囲については、現在の所、太田地域、新田地域、尾島地域、藪塚地域の4区域に分けられているため、各地域ごとの遺跡数と時代区分について一覧表にまとめてみた(地域別遺跡数一覧表)。各地区の遺跡数の合計を見ると、太田市全体としては965の遺跡が所在しており、これらを時代区分ごとに分け、数の多い順に並べると古墳時代が圧倒的に多く、ついで奈良・平安時代、中世、縄文時代、近世、弥生時代、旧石器時代となっていることがわかる。今回の調査地点でも古墳時代の遺跡が19を占め、奈良時代が12、平安時代が11、縄文時代・中世が7、弥生時代が6、近世が3、旧石器時代が2であった。

以下、調査した遺跡の位置と歴史的環境について一覧表にまとめてみた。

時代区分 \ 地域	太田地域	新田地域	尾島地域	藪塚地域	時代区分数	時代区分数の順序		
旧石器時代	16	12	0	3	31	1	古墳時代	632
縄文時代	51	48	4	35	138	2	中世	181
弥生時代	13	12	7	10	42	3	平安時代	178
古墳時代	340	169	84	39	632	4	奈良時代	158
奈良時代	78	49	16	15	158	5	縄文時代	138
平安時代	97	42	21	18	178	6	近世	101
中世	61	62	45	13	181	7	弥生時代	42
近世	12	57	26	6	101	8	旧石器時代	31
合計	668	451	203	139	1,461			
遺跡数合計	453	330	117	65	965			



平成18年度に試掘調査を実施した遺跡の概要

番号	遺 跡 名	遺跡番号	位 置 お よ び 歴 史 的 環 境	調 査 歴
1	はらじゆくかわむかい 原宿川向遺跡	T0336 古墳	太田地域の毛里田地区に位置する。市内でも北東部にあたり、北東部には渡良瀬川が流れている。遺跡の時代区分は、古墳時代で、散布地として登録されている。	無し
2	エフピーでいりゅうした FP泥流下遺跡群 (尾島)	J0065 弥生～近世	尾島地域の世良田・尾島地区に広がる。尾島地域特有の洪水によって埋もれている遺跡の範囲。試掘調査を実施しないと古墳時代以前の遺跡は確認できない。発掘調査は広範囲に及んで実施されている。	
3	にしたじま 西田島遺跡	T0135 古墳・平安	太田地域の宝泉地区に位置する。市内でも中央部南側にあたり、県立フレックス高校の西側に位置する。遺跡の時代区分は、古墳時代・平安時代が主体的で、集落や城館跡が確認されている。昭和61年・63年に群馬県教育委員会で、平成16年に市教委において発掘調査を実施している。西田島遺跡発掘調査報告書(昭和62年)、西田島遺跡II-下田島城跡の調査(平成3年)	2回 群馬 県教委 1回 市教委
4	たかはやしつるまき 高林鶴巻古墳群	T0028 古墳	太田地域の沢野地区に位置する。本地区は市内でも南端部にあたり、南側では利根川と対面する。遺跡の範囲は、県立がんセンターの東側に南北に長く広がっている。昭和63年に市教委において発掘調査を実施している。	1回 市教委
5	エフピーでいりゅうした FP泥流下遺跡群 (亀岡軽浜)	J0065 弥生～近世	尾島地域の世良田・尾島地区に広がる。尾島地域特有の洪水によって埋もれている遺跡の範囲。試掘調査を実施しないと古墳時代以前の遺跡は確認できない。発掘調査は広範囲に及んで実施されている。	
6	ちやうすやま 茶白山古墳	T0132 古墳	太田地域の宝泉地区に位置する。市内でも中央部南側にあたり、古墳の墳丘部分は史跡新田荘遺跡円福寺境内に含まれてる。遺跡の時代区分は、古墳時代・中世が主体的で、平成3・4年度に市教委において発掘調査を実施している。太田市史、埋蔵文化財発掘調査年報3(平成5年)、埋蔵文化財発掘調査年報4(平成6年)	2回 市教委

7	とうぶちく 東部地区遺跡群	J0112 弥生～近世	尾島地域の尾島地区に位置する。市内でも南部にあたり、南側では利根川と対面する。遺跡の時代区分は、弥生時代から近世にかけて遺構が所在するが、平安時代・中世が主体的である。平成13年度～16年度に旧尾島町教委、平成17年度には市教委において発掘調査を実施している。	5回 市教委
8	かみ 上遺跡	T0263 古墳・奈良・平安	太田地域の鳥之郷地区に位置する。市内でもほぼ中央部にあたる。遺跡の時代区分は、古墳時代で散布地として登録されている。今回の調査で遺構密度の高い古墳～平安時代にかけての集落跡であることが判明した。	無し
9	うしざわいなりやま 牛沢稲荷山古墳	T0031 古墳	太田地域の沢野地区に位置する。本地区は市内でも南端部にあたり、南側では利根川と対面する。昭和46年の群馬県遺跡台帳（東毛編）では前方後円墳として記録されている。	無し
10	かみごうど 上強戸古墳群 (北部スポーツ公園内遺跡群)	T0109 古墳	太田地域の強戸地区に位置する。市内でも中央の北部にあたる。北部スポーツ運動公園の造成に伴い、市教委にて一部発掘調査を実施している。	1回 市教委
11	にしやじま 西矢島遺跡	T0021 古墳・奈良・平安	太田地域の九合地区に位置する。市内でも南東部にあたる。遺跡の時代区分は、古墳時代から奈良・平安時代が主体的で、平成4年・6年・17年に市教委において発掘調査を実施している。	3回 市教委
12	にしひがしなか 西野東中遺跡	Y0049 縄文～平安	藪塚地域の藪塚東部地区に位置し、市内でも北東部にあたる。遺跡の時代区分は、縄文時代から平安時代の遺物の散布地及び古墳が所在する遺跡として登録されている。平成17年度に市教委において発掘調査を実施し、古墳2基が確認されている。	1回 市教委
13	あかぼとけ 赤仏遺跡	N0084 古墳・奈良・平安	新田地域の木崎地区に位置し、市内でも南西部にあたる。遺跡の時代区分は、古墳時代から平安時代の遺物散布地として登録されている。	無し
14	エフビーでいりゅうした FP泥流下遺跡群 (粕川)	J0065 弥生～近世	尾島地域の世良田・尾島地区に広がる。尾島地域特有の洪水によって埋もれている遺跡の範囲。試掘調査を実施しないと古墳時代以前の遺跡は確認できない。発掘調査は広範囲に及んで実施されている。	
15	さかいがやと 境ヶ谷戸遺跡	N0024 古墳・奈良・平安	新田地域の生品地区に位置し、市内でも西部にあたる。遺跡の時代区分は、奈良・平安時代が主体的で、平成6年度の発掘調査では、全国的にも極めて出土例の少ない唐三彩が出土している。そのほかに巡方や円面硯、仏教的な色彩の強い遺物が確認されている。周辺では大型の掘立柱建物跡も検出しており、官衙関連の遺跡と考えられている。 新田町誌、第13集境ヶ谷戸・原宿・上野井Ⅱ遺跡（平成6年）、第19集新田町内遺跡Ⅰ（平成11年）、第24集新田町内遺跡Ⅱ（平成12年）、第27集境ヶ谷戸遺跡Ⅱ（平成13年）、第26集新田町内遺跡Ⅲ（平成13年）	7回 新田町教委
16	つかい 塚井遺跡	T0454 古墳～平安	太田地域の休泊地区に位置する。遺跡の周辺は水田地帯で、洪水によって埋没した塚廻古墳などが南西部に所在していたため、今回の試掘調査で新発見の遺跡として確認された。	無し
17	エフビーでいりゅうした FP泥流下遺跡群 (尾島)	J0065 弥生～近世	尾島地域の世良田・尾島地区に広がる。尾島地域特有の洪水によって埋もれている遺跡の範囲。試掘調査を実施しないと古墳時代以前の遺跡は確認できない。発掘調査は広範囲に及んで実施されている。	
18	なかみぞ 中溝Ⅱ遺跡	N0067 古墳～中世	新田地域の生品地区に位置する。県指定史跡「中溝・深町遺跡」の北西部にあたる。南側では利根川と対面する。遺跡の時代区分は、古墳時代から中世で、平成3～4年に旧新田町教委において発掘調査を実施している。 第11集新田東部遺跡群（平成5年）	1回 新田町教委
19	むらた ほんごう 村田・本郷遺跡	N0029 古墳	新田地域の生品地区に位置する。市内でも中心部よりやや西側にあたる。遺跡の時代区分は、古墳時代で集落跡として登録されている。昭和59年に旧新田町教委において発掘調査を実施している。 第11集新田東部遺跡群（平成5年）、新田町史	1回 新田町教委
20	だいまん 大門遺跡	T0281 中世	太田地域の宝泉地区に位置する。市内では中心部よりやや南側にあたる。遺跡の時代区分は、中世で城館跡として登録している。発掘調査歴は無い。	無し
21	しもたじま 下田島遺跡	T0249 縄文・古墳	太田地域の宝泉地区に位置する。市内では中心部よりやや南側にあたる。遺跡の時代区分は、縄文時代と古墳時代で、平成15・16年に市教委において発掘調査を実施している。 市内遺跡ⅩⅩ、市内遺跡20、市内遺跡21	3回 市教委
22	すぎのした 杉ノ下遺跡	T0352 古墳	太田地域の沢野地区に位置する。本地区は市内でも南端部にあたり、南側では利根川と対面する。遺跡の時代区分は、古墳時代で散布地として登録されている。発掘調査歴が無いため、今回の調査で初めて集落跡であることが判明した。	無し
23	かなやまじょうあとなわば 金山城跡縄張り	T0006 中世	太田地域の太田地区に位置する。史跡金山城の本拠地部分について推定した区域である。今後、新たな開発に際して遺構の所在を検証していく必要性がある。	無し
24	だいにちやま 大日山古墳群	T0087 古墳	太田地域の葦川地区に位置する。市内でも中心部からやや東側にあたる。1号墳は現存しており、東側には中世の下小林館跡が所在する。発掘調査歴は無い。昭和10年の古墳調査台帳には、当時の古墳のスケッチや出土品等の記録が詳細に残されている。	無し
25	かみえだじょうかんし 上江田城館跡	N0429 中世	新田地域の木崎地区に位置する。史跡新田荘遺跡江田館跡に隣接する城館跡で民地には現在でも土塁が残されている。目立った開発もない所から発掘調査歴は無い。今回の調査では、埋もれていた古墳が確認されている。	無し
26	きたみょうせんじ 北明泉寺遺跡	T0202 古墳・奈良	太田地域の九合地区に位置し、中心部から南東部にあたる。遺跡の時代区分は、古墳時代から奈良・平安時代が主体的で、平成9年に市教委において発掘調査を実施している。	1回 市教委
27	とりがやと 鳥ヶ谷戸遺跡	T0267 古墳	太田地域の鳥之郷地区に位置し、市内でもほぼ中心部にあたる。遺跡の時代区分は、古墳時代で散布地として登録されている。今回の発掘調査で古墳時代の集落であることが明らかになった。	無し
28	やすらおか 安良岡古墳群	T0246 古墳	太田地域の葦川地区に位置し、市の中心部から東側にあたる。古墳群としての登録はあるが、その現況は会社の寮や住宅地化されており、実態はつかめていなかった。発掘調査歴も無い。今回の調査で方形周溝墓が所在していたことが確認された。	無し

第4章 調査を実施した遺跡の概要

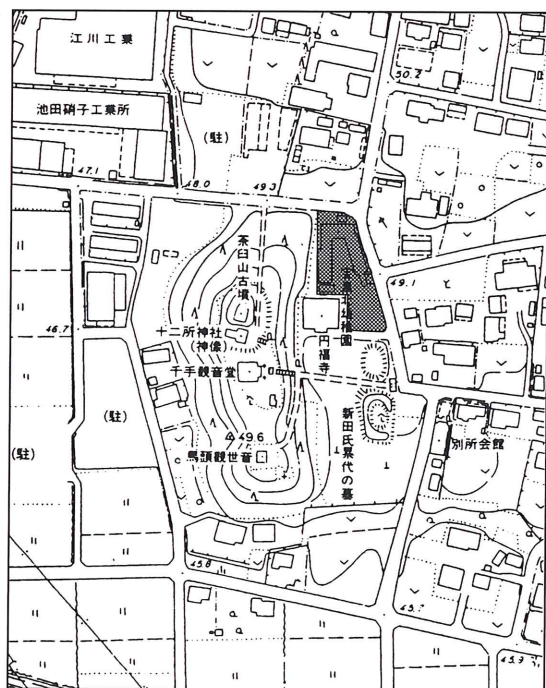
1. 茶臼山古墳 (No. 6)

茶臼山古墳は、宝泉台地の西端部に位置する大形の前方後円墳として知られており、「円福寺茶臼山古墳及び伝新田氏累代の墓附石幢」として県指定史跡に指定されている。古墳の規模は、墳丘の全長が約168m、後円部直径96m、前方部前端史幅42m、高さ14mである。周辺の遺跡としては北西1.1kmに古墳時代前期の豪族居館で知られる県指定史跡中溝・深町遺跡があり、北東部に大門遺跡・「新田義貞・脇屋義助生誕地」とされている台源氏館跡、南東部には由良の砦跡・北之庄遺跡などが所在する。古墳の西側と南側には沖積地が広がり他の遺跡は所在しない。発掘調査は昭和37年の群馬大学の発掘調査にはじまり、平成3年には南東部の墓地拡幅工事、平成4年には円福寺本堂建設に伴う発掘調査を太田市教育委員会で実施している。平成4年の調査区は今回の対象地の南側にあたり、周堀の立ち上がり部分が確認されている。

今回の調査は幼稚園建設に伴う確認調査であり、強度のある建築構造を要する工事であった。敷地は南北に長く、対象となる周濠は同じ方向に造られているため、東西方向のトレンチを4本設定し、調査を行なった。その結果、1トレンチでは、東側で周堀の立ち上がりと思われるローム面が確認され、周堀より外側と

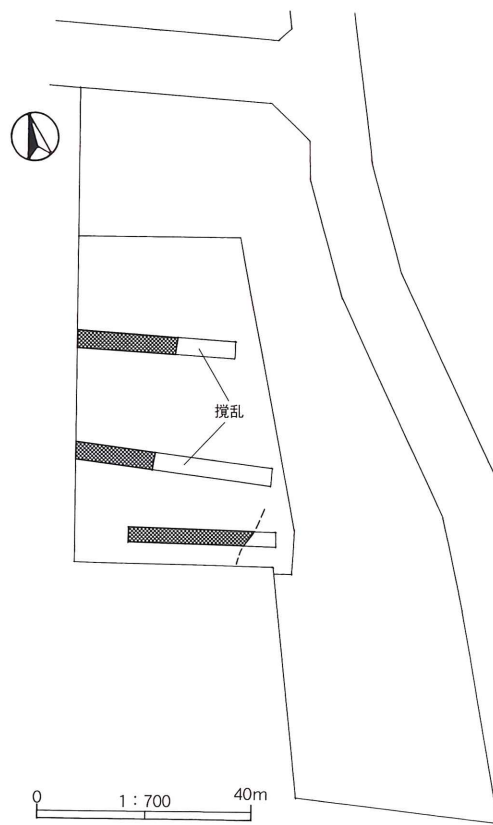


調査区全景（北より）



調査区位置図

なる覆土下層部では、五輪塔の空・風輪や火輪、水輪等が確認された。その他のトレンチでは東側が攪乱によって壊されており、周堀の外周ラインは確認できなかった。なお、建物の基礎工事深度は周堀の確認面にまで及ばない工事であったため、確認調査で終了とした。

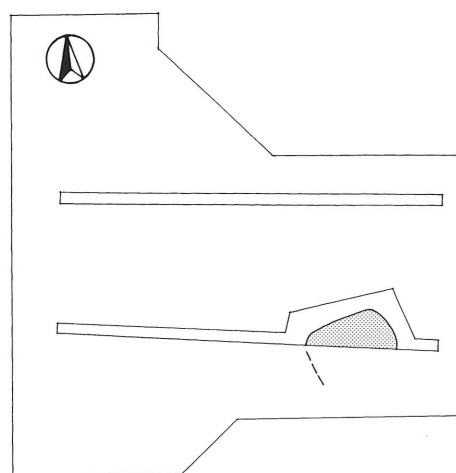


トレンチ配置図

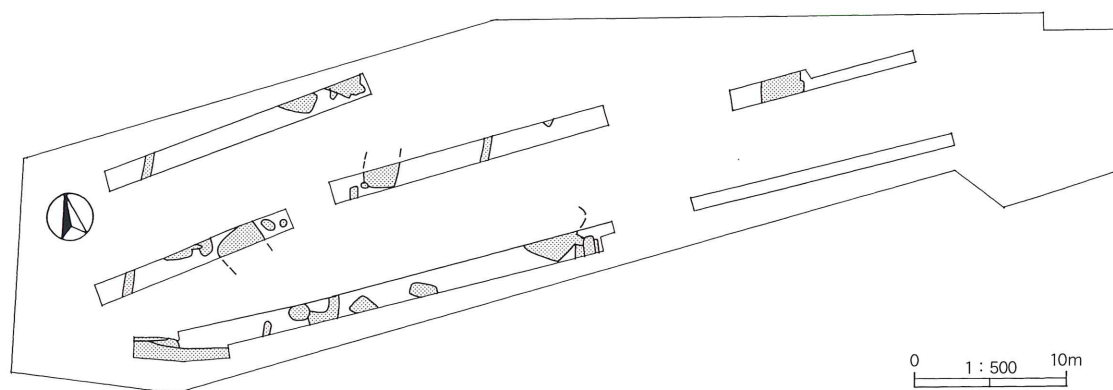
2. とうぶちく 東部地区遺跡群 (No. 7)

東部地区遺跡群は、市内でも一番南側の尾島地区の東側に位置し、尾島東部土地区画整理事業に伴い道路・水路計画地を対象として平成13年度から調査を実施してきた遺跡群である。その中では平安時代の集落が確認された岩松千歳Ⅰ遺跡や、堀口駒形遺跡などの遺跡が確認されている。この遺跡群は、6世紀中頃の榛名山二ツ岳を起源とした火砕流によって起こされたFP泥流によっておおわれている区域であることがわかってきている。

今回の調査も道路として拡幅、新設する部分の調査であり、①～③の調査箇所のうちすべてにおいて遺構が確認された。①の調査区では、東西方向に2本トレンチを設定して遺構の確認調査を実施したが、西側において1軒住居跡が確認されたものの、それより東側については遺構確認面となるFP泥流層の堆積が認められず、遺物・遺構は確認できなかった。②地点については、道路拡幅部分であったため、東西の2か所にトレンチ1本を入れるのが精一杯であった。この地点の調査では西側のトレンチで溝・住居等の遺構が確認され、東側のトレンチでは地形が現況より2mほど低くなっていることが確認された。③地点は一番広い計画道路の一角で、東西方向にトレンチを5本設定し、FP泥流面で遺構確認を実施した。その結果、西側での遺構検出数が多く、住居跡8軒、溝・土坑などが確認された。対象地はいずれも道路建設地であるため、確認調査後協議して平成19年度に本調査を実施した。



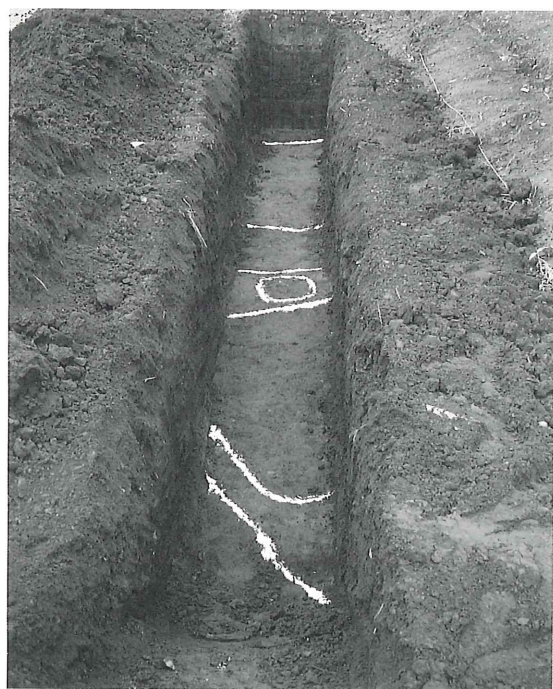
①地点トレンチ西側の遺構配置図



③地点トレンチ・遺構配置図



調査地点位置図



②地点遺構確認状況（西から）

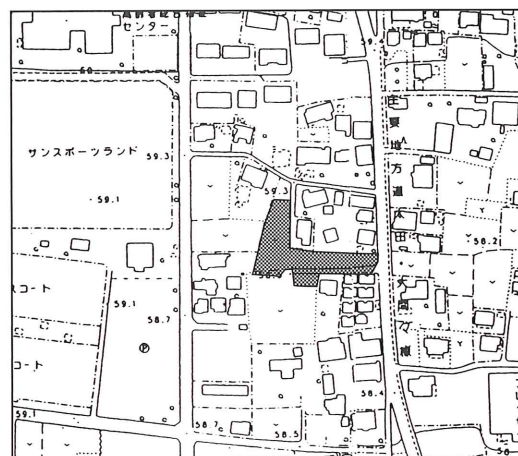


③地点遺構確認状況（東から）

3. 上^{かみ}遺跡 (No.8)

上遺跡は鳥之郷地区に所在し、古墳時代の散布地として遺跡台帳に登録されている。遺跡の位置は県道足利伊勢崎線の石橋交差点の南側に位置し、東西300m、南北600mの細長い楕円形の範囲に広がる。遺跡地内には、東西方向に推定東山道駅路が2本通過するものと推定されているが、現在のところまだその位置は確認されていない。また、遺跡中央部南側には5世紀後半の前方後円墳である亀山古墳（全長58m）が所在する。遺跡の西側には県指定史跡である鶴山古墳（全長120mの前方後円墳）が所在する。隣接する遺跡としては西側に久保遺跡、北側に寺裏遺跡、東側には鳥山寺中遺跡、南側には上泉開戸遺跡があり、遺構密度の高い遺跡といえる。

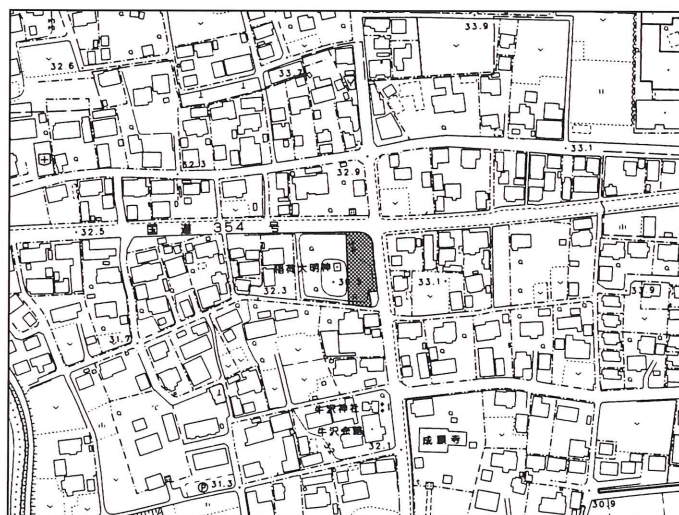
今回の調査は宅地分譲に伴う確認調査であり、宅地に接するための道路が50mにも及ぶ工事計画であった。そのため、本調査対象となる東西道路部分に3本、宅地となる対象地に南北方向のトレンチ2本を設定しローム面まで重機による掘削を行った。その結果、1・2トレンチで住居跡2軒、3トレンチでは溝1条、4トレンチでは住居跡3軒、5トレンチでは住居跡4軒が確認された。道路部分で確認された住居跡については、事業者と協議して本調査を実施した。



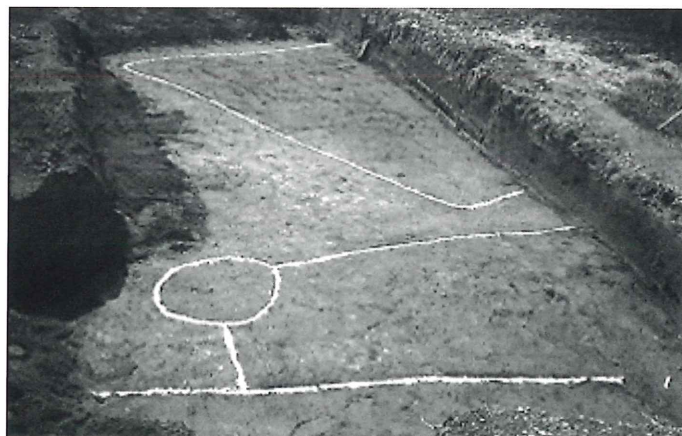
4. ^{うしざわいなりやまこふん}牛沢稲荷山古墳 (No. 9)

牛沢稲荷山古墳は澤野地区の国道354沿いに所在する古墳で、牛沢の交差点の南西部に位置する。過去の調査歴は無く、現在では直径40mほどの墳丘が残されている。この古墳は群馬県の遺跡台帳Ⅰでは前方後円墳として登録されており、東500mの所には県指定の前方後円墳である朝子塚古墳（全長123.5m）があり、西側には牛沢城跡（東西180m、南北180m）、北側には富沢遺跡や屋敷東遺跡が存在する。

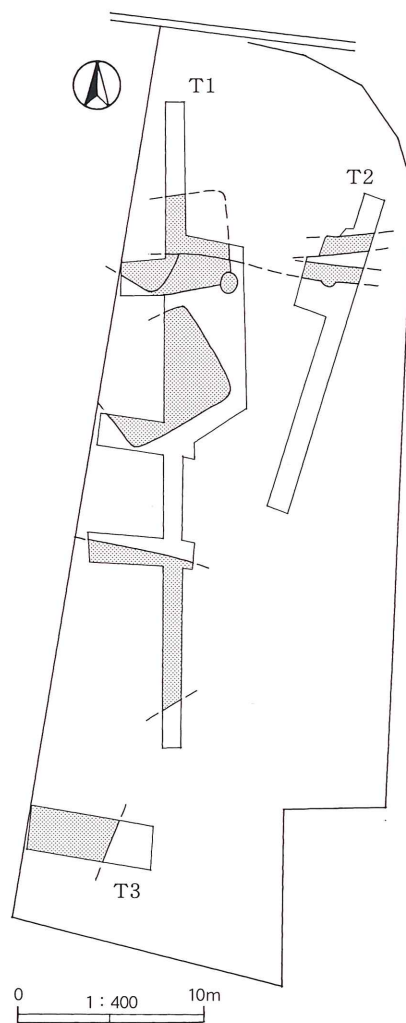
今回の調査は宅地分譲に伴う確認調査であり、申請地内には当初から墳丘の東側に高まりがあったため、申請地に3本のトレンチを設定しローム面まで重機による掘削を行った。その結果、高まり部分はトレンチ断面で確認したところ攪乱状に堆積しており、周堀も確認できなかった。前方後円墳として登録されていることから、前方部が壊されている可能性が高い。その他の遺構としては1トレンチで古墳時代前期の住居跡4軒、2トレンチでは溝2条、3トレンチでは住居跡1軒が確認された。事業者とは分譲地の造成に当たっては、擁壁工事を実施する際に職員が立ち会い、分譲地については保護層が確保できるように盛土を実施することで協議を行なった。



調査区位置図



T1 遺構確認状況（北より）



トレンチおよび遺構配置図

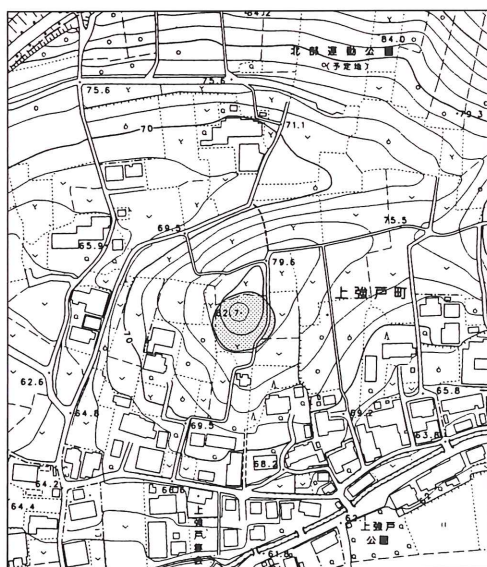
5. 北部スポーツ公園内遺跡群（上強戸古墳群）（No.10）

北部スポーツ公園内遺跡群は、平成17年度から19年度にかけてスポーツ公園造成に伴って発掘調査をしてきた遺跡群で、上強戸古墳群はこのスポーツ公園内遺跡群の中に位置している。古墳群の規模は東西400m、南北100mの細長い楕円形の範囲に広がっている。

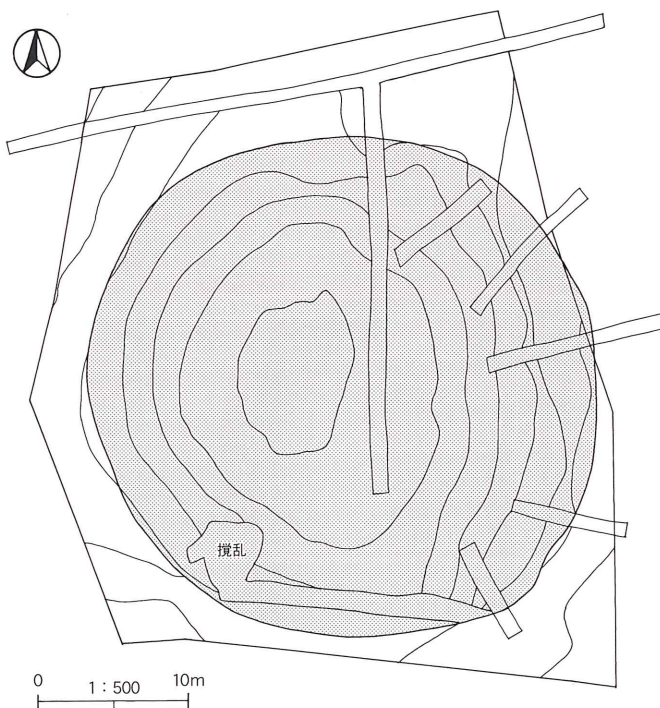
今回の調査は公園の造成に当たり、公園緑地として計画されていた南西部の区域について、そこに所在する古墳の形状や規模を確認するための範囲確認調査であった。トレンチは墳丘東部及び北部を中心に設定し、盛土や周堀の状況について確認した。調査の結果、古墳の周堀や埴輪列は確認されなかったが、墳丘盛土の中や東側トレンチ内で円筒埴輪片が確認されたことから、構築時には円筒埴輪が樹立されていた可能性があり、その他に礫が全く出土しなかったことから葺石はなかったものと推測された。地形測量から古墳の規模・形状は直径34m、残存高約3mの円墳であることが判明した。5世紀の古墳であることから竪穴系の主体部が存在すると考えられるが、今回の調査では主体部は確認されていない。



古墳全景



古墳位置図



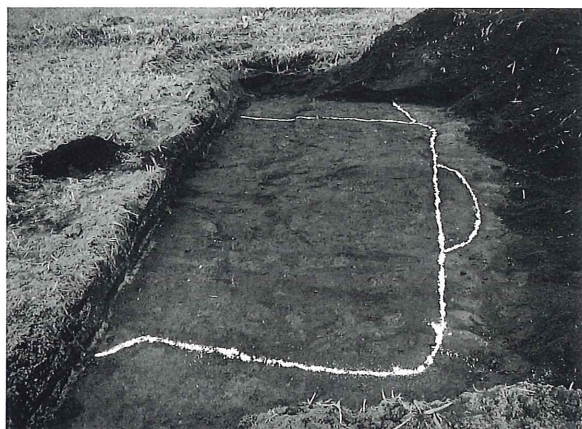
古墳の範囲とトレンチ配置図

6. 境ヶ谷戸遺跡 (No.15)

境ヶ谷戸遺跡は、生品地区に位置し、平成6年度の発掘調査で「唐三彩」が出土した遺跡として知られている。遺跡の規模は、東西方向に450m、南北方向に250mの逆台形の範囲に広がっている。北には推定東山道駅路（牛堀・矢ノ原ルート）があり、東側には上野井廃寺を含む上野井遺跡、南側には赤城南遺跡、大型の掘立柱建物跡が確認されている揚原遺跡、国指定史跡「新田荘遺跡生品神社境内」などが所在する。

境ヶ谷戸遺跡では、「唐三彩」の他に仏教的色彩の強い香炉形の遺物や円面硯、巡方など官衙的な遺物も検出され、大型の掘立柱建物跡が点在することから、推定東山道との関連を含め以前より注目されてきた。

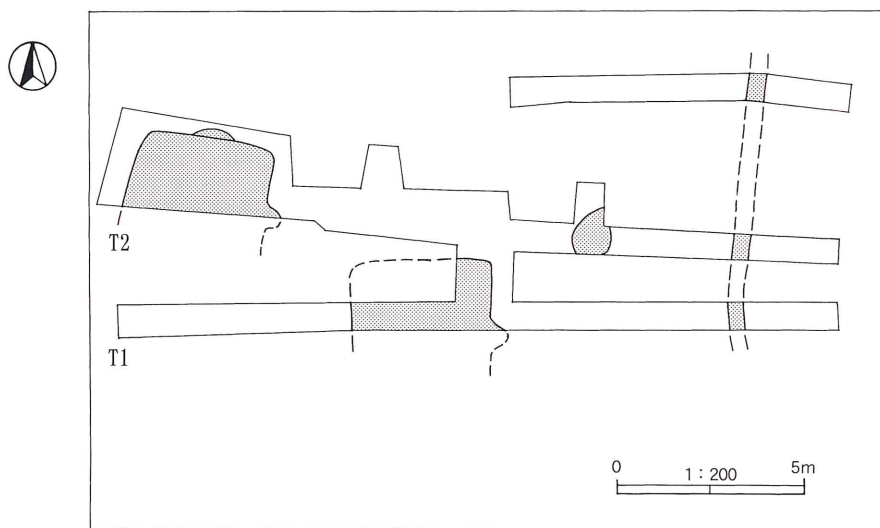
今回の調査は鉄塔建設に伴う確認調査であった。最初に西側に東西方向にトレンチを2本設定し調査を行った結果、1トレンチおよび2トレンチの西側では、住居跡が確認されたため、さらに東側へトレンチを伸ばしたところ、近世の溝しか確認されなかったため、工事位置を東側に変更してもらうことで協議し、確認調査で終了とした。



T2 遺構確認状況（東より）



調査区位置図

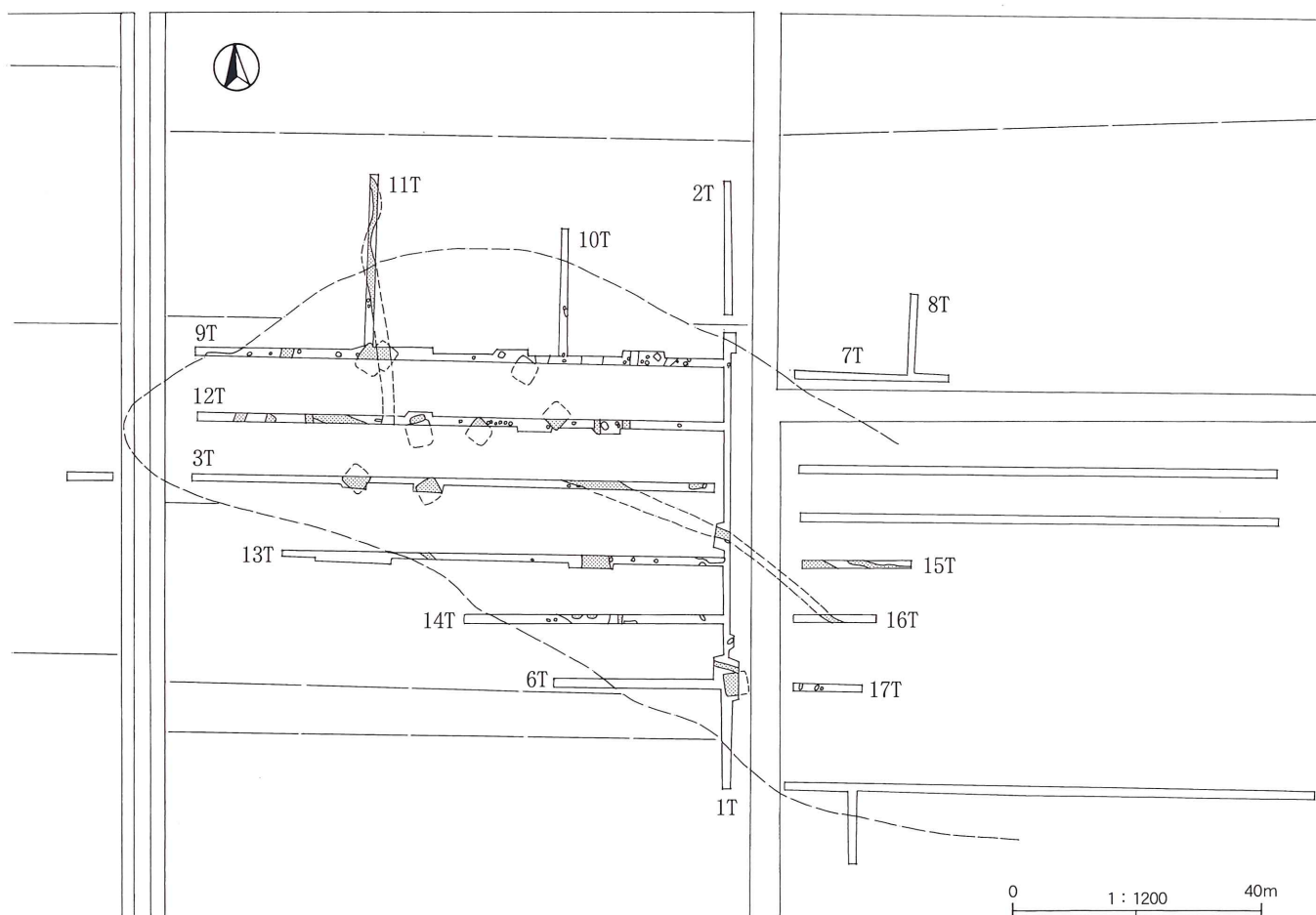


トレンチおよび遺構配置図

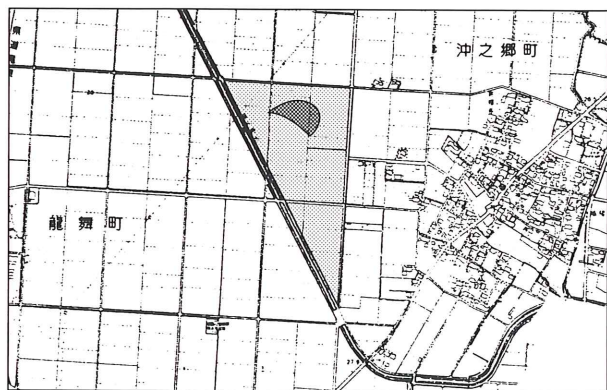
7. 塚井遺跡 (No.16)

今回調査した塚井遺跡は水田地帯に所在する遺跡であり、今回の確認調査までは遺跡として台帳に記載していない遺跡であった。このあたりの遺跡は旧渡良瀬川氾濫原の微高地に立地するものが多いと考えられるため、隣接する遺跡は所在しないが、南西550mの所には洪水で埋もれてしまった県指定史跡の塚廻古墳(帆立貝形古墳)があり、西400mには塚井古墳群、北100mの所にはニノ堰遺跡が所在する。

以上のように、この周辺には依然として埋没している古墳や遺跡が所在する可能性が高いため、今回国営農地防災事業として計画された遊水地建設事業に際しても、試掘調査を実施することにした。南側から実施した試掘調査では水田直下において灰白色粘土が確認され、遺跡の所在は確認できなかったが、北東部において実施したトレンチでは西側に向かうにつれ、ロームが確認されたため、さらに西側へと試掘調査を実施したところ、溝や住居跡が確認された。埋没していた台地の範囲は東西100m、南北50mとなる不整形の範囲に広がることが確認できた。遺構確認面は水田として利用してきたこともあり耕作土の下層はかなり削平を受けていた。住居のほかには掘立柱建物跡もあり、古墳時代の前期から平安時代にかけての遺構が確認された。対象地は全面を掘削していく工事であるため、遺構が確認された範囲については「本調査」の対象として、確認調査後に本調査を実施した。



トレンチおよび遺構配置図



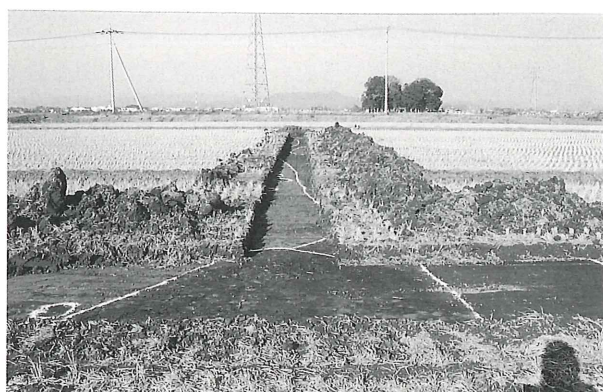
調査区位置図



9 トレンチ全景



9 トレンチ全景



11 トレンチ全景



12 トレンチ全景



13 トレンチ全景



14 トレンチ全景



15 トレンチ全景

8. 村田・本郷遺跡 (No.19)

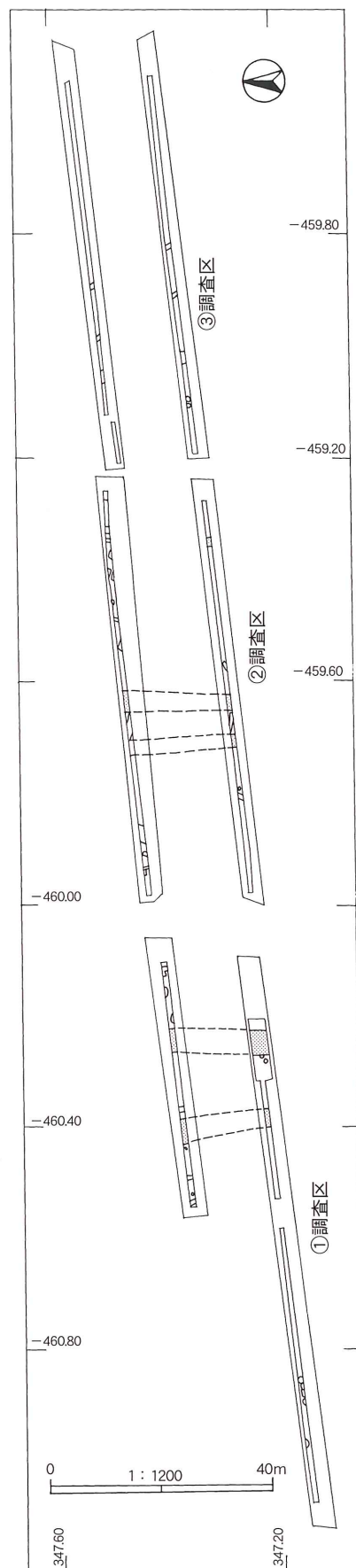
村田・本郷遺跡は、生品地区でも一面に水田の広がる地区に所在する。この一帯は県営ほ場整備に伴い、昭和61年から平成4年にかけて新田東部遺跡群として発掘調査を実施してきた地域である。この時発掘調査の対象となっていた道路部分の発掘調査によって、島状に形成された微高地上に集落が形成されていることが明らかになった。

村田本郷遺跡もこの当時に調査された遺跡で、その範囲は東西300m、南北380mに広がり、住居跡、掘立柱建物跡、井戸、中世の館堀などが確認されている。周辺の遺跡としては、南側に古墳時代の集落が確認された中溝遺跡、西側には古墳時代～平安時代の集落が検出された中屋敷東遺跡、北側には中世の村田本郷館が所在し、南東700mには、古墳時代前期の豪族居館が確認されたことで知られている県指定史跡の中溝・深町遺跡がある。

今回の調査は市道拡幅工事に伴う調査であり、道路の両側（南北）に広げる工事であったため、道路を挟んで南と北に東西方向のトレンチを入れて遺構確認を行なった。その結果、住居跡2軒、土坑9基、館堀4箇所と土師器数点、板碑1点が検出された。道路建設工事であるため、確認調査後、本調査を実施した。



①～③調査区位置図

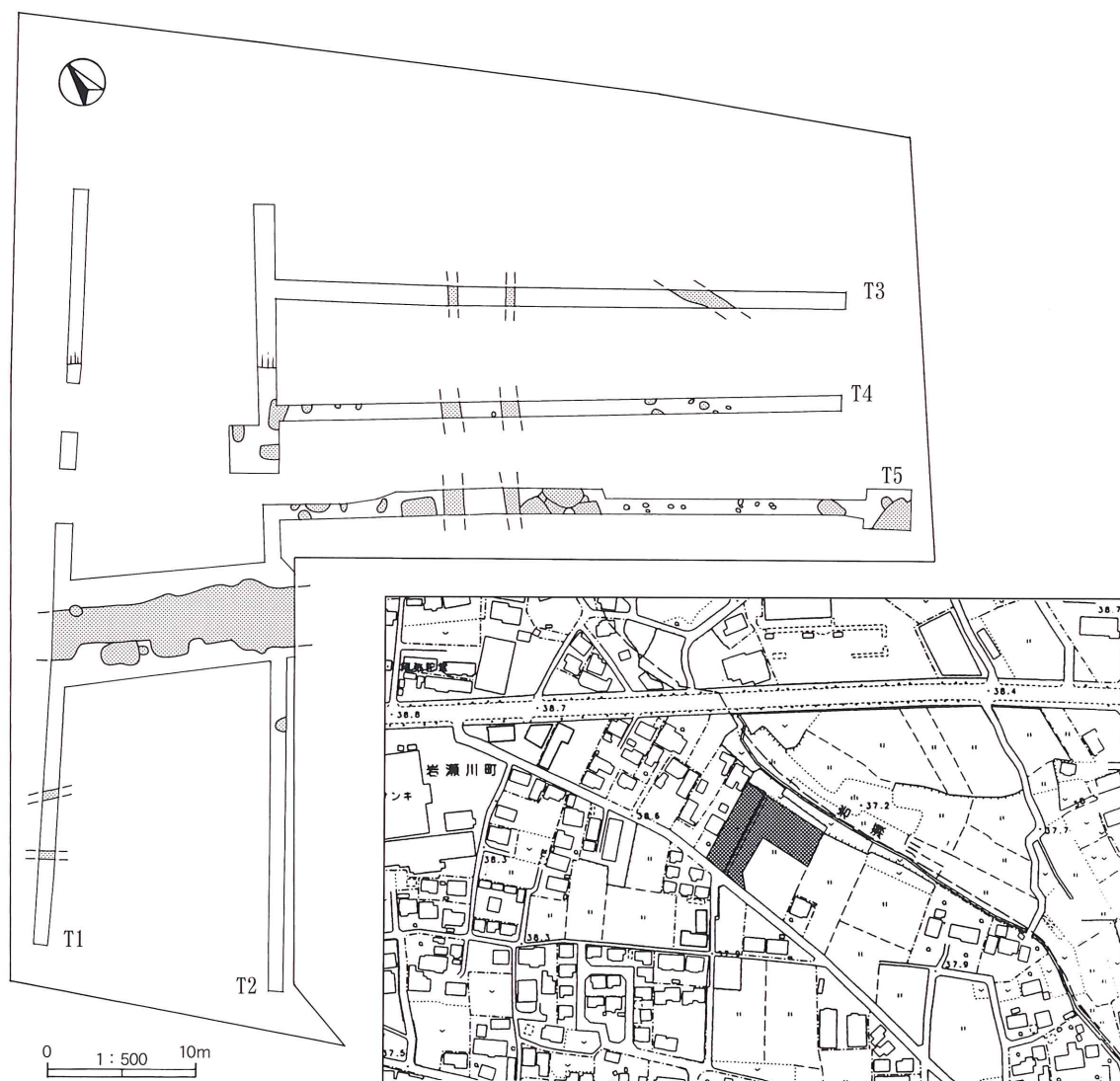


トレンチおよび遺構配置図

9. ^{すぎのした}杉ノ下遺跡 (No.22)

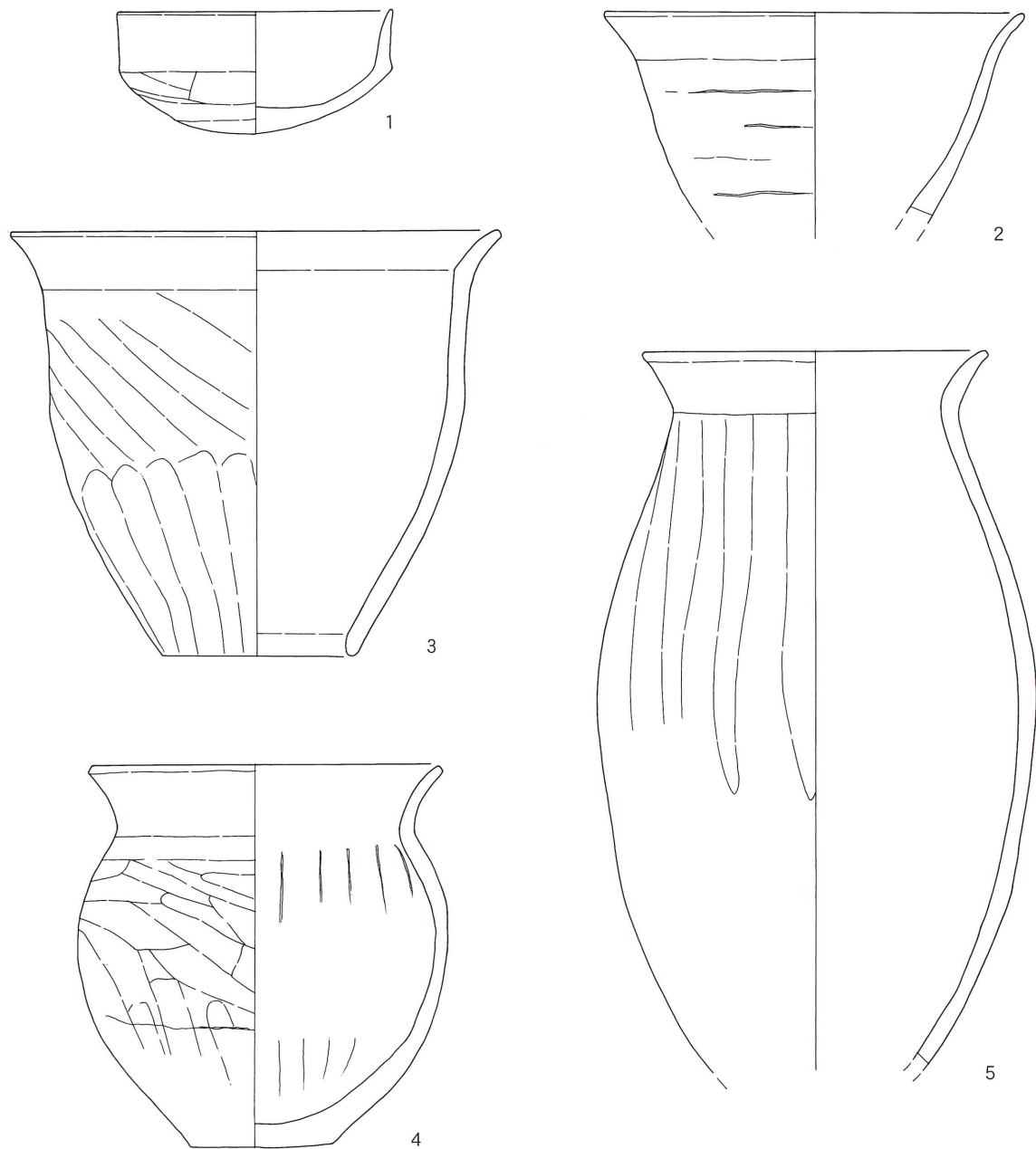
杉ノ下遺跡は、澤野地区の遺跡で古墳時代の散布地として知られている遺跡で、東西280m、南北100mほどの楕円形の範囲広がっている。北西には古墳時代の集落が確認されている家前遺跡があり、南東には八反田遺跡が所在し、南側には広大な範囲に条里制水田想定地がある。本遺跡地は調査歴がないため今まで散布地とされてきたが、今回の調査で遺跡の内容がより明確となってきた。

今回の調査は集合住宅・貸住宅建設に伴う調査であり、対象地全体にわたって確認調査を実施した。敷地は南北、東西へと長いL字状の形状をしていたため、南北に2本、東西に3本のトレンチを設定し、ローム面での遺構確認を実施した。その結果、1・2トレンチでは、幅の広い溝状遺構が東西方向で確認されたため拡張して溝の形状を確認した。それにより、数条の溝が重複していることが確認され、溝には多量の土師器片が廃棄されていることが判明した。また、5トレンチでは土坑・溝の他に住居跡が確認されたため、集落が形成された遺跡であることが確認できた。調査後、工事に際して保護層が確保できるよう事業者と協議し、確認調査で終了とした。



トレンチおよび遺構配置図

調査区位置図



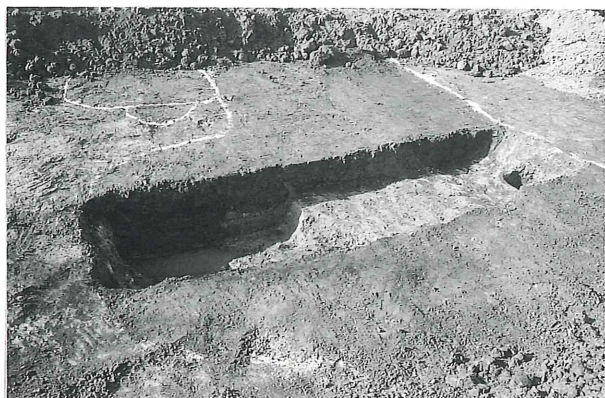
杉の下遺跡出土土器

1号溝遺物観察表

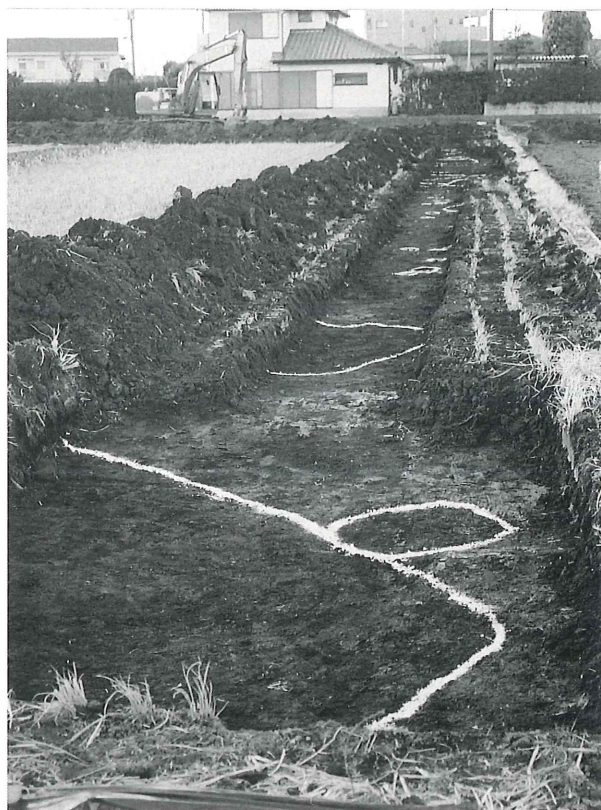
番号	種類	器種	残存状況	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	特徴（形成・調整技法）
1	土師器	坏	1/3	14	—	5.3	細砂粒	良好	にぶい橙色	底面ヘラ削り。口縁部横ナデ。稜は明瞭。
2	土師器	鉢	2/3	18.4	—	—	中砂粒少量	良好	にぶい褐色	口縁部横ナデ。内面ナデ。
3	土師器	甗	2/3	21.3	8.4	18.5	中砂粒多量	良好	にぶい褐色	口縁部横ナデ。胴部ヘラ削り。
4	土師器	小甕	3/4	15.4	6.0	16.6	中砂粒多量	良好	にぶい褐色	口縁部横ナデ。胴部ヘラ削り。内面ヘラ磨き。
5	土師器	長胴甕	2/3	15.8	—	—	中砂粒多量	良好	にぶい褐色	口縁部横ナデ。胴部ヘラ削り。内面ヘラ磨き。



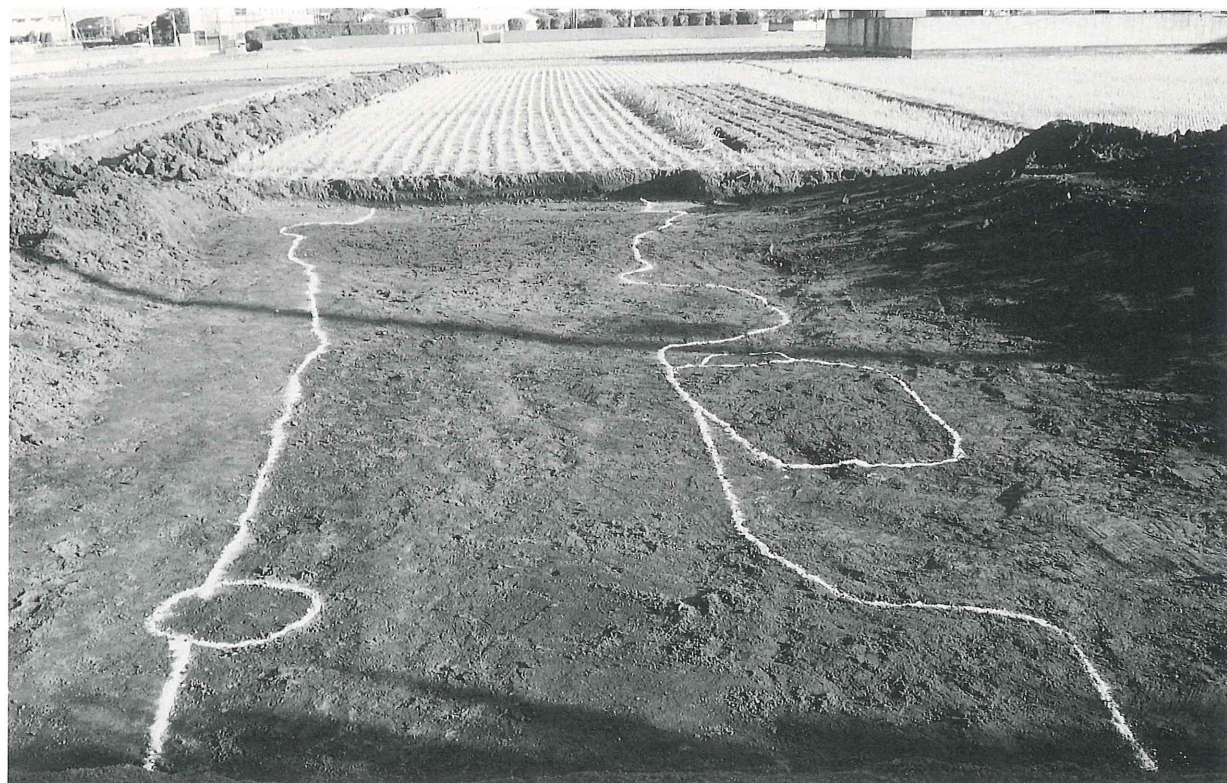
拡張区内溝確認状況（東より）



溝断面（東より）



T 5 遺構確認状況（西より）



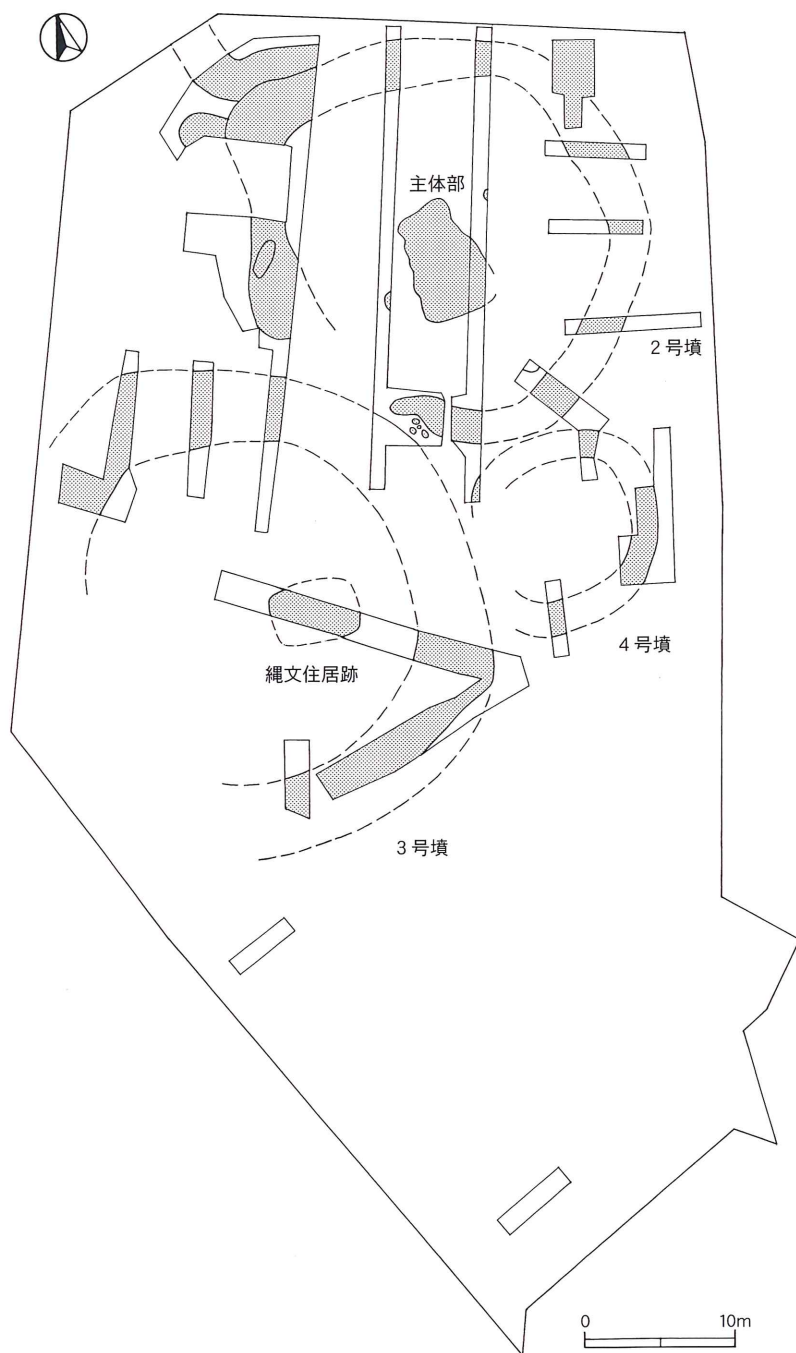
溝全景（西より）

10. だい に ちやま こ ふんぐん 大日山古墳群 (No.24)

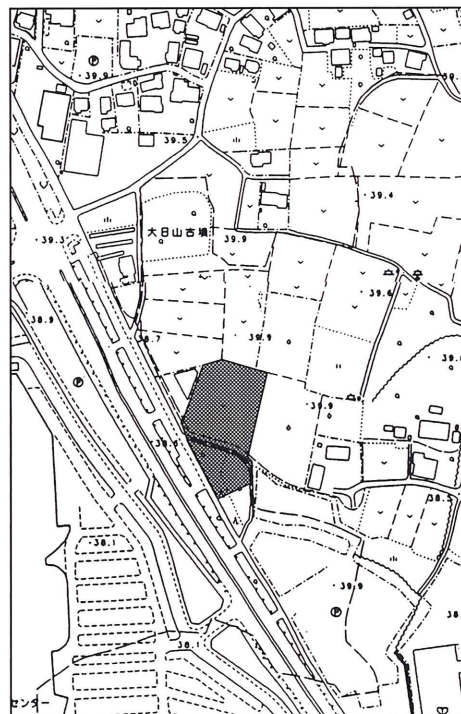
大日山古墳群は、韮川地区に所在する古墳群で、東日本最大と言われる天神山古墳と近接する女体山古墳の北東約1kmのところに位置する古墳群である。この古墳群の中には現在でも1基古墳が現存（1号墳）しており、墳丘の東南部は削られているものの、その規模・形状は直径36m、高さ5mの円墳となっている。大日山古墳群は長軸300m、短軸100mの楕円形の範囲に広がっている。隣接する遺跡としては昭和55年に調査された雷遺跡（縄文時代早期～中期の散布地）が南から西にかけて古墳群の範囲と重複しており、東側でも中世の館跡として知られている下小林館跡（大倉城）と重複している。

今回の調査はドライブイン建設に伴う調査であり、敷地が南北に長い形状であったため、南北方向のトレン

チを4本設定し、確認された遺構に合わせてトレンチを追加した。その結果、南側のトレンチでは、古墳の周堀や縄文時代の住居跡が確認され、北側についてもほぼ同規模の古墳2基が確認された。



トレンチおよび遺構配置図





2号墳南西部



2号墳南側



2号墳北西部（西より）



3号墳東側（東より）

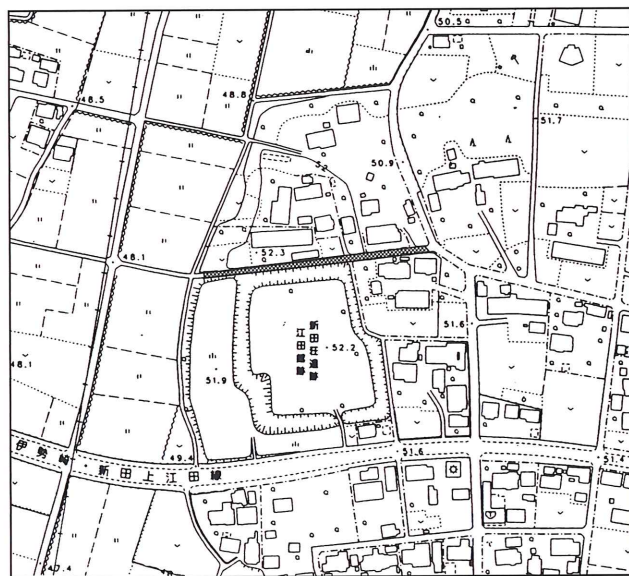


2号墳主体部（南より）

かみ え だじょうかん し
11. 上江田城 館跡 (No.26)

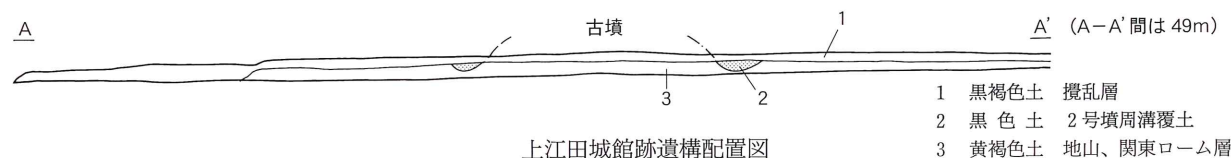
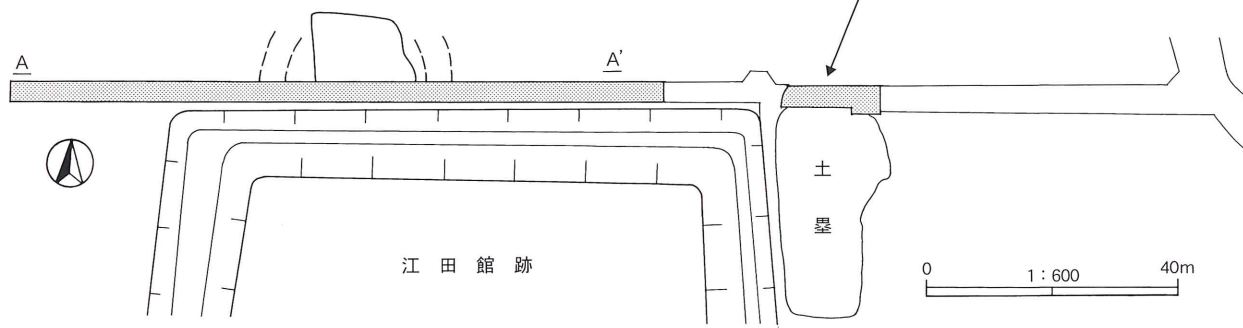
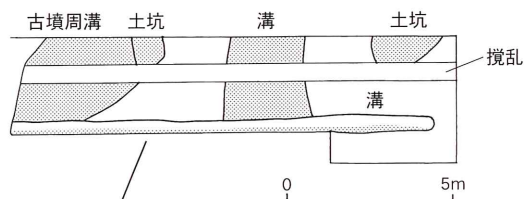
上江田城館跡は木崎地区の木崎台地の西端部に位置し、北宿遺跡の中に含まれる館跡で、史跡新田荘遺跡江田館跡の北側に隣接する。遺跡の範囲は東西500m、南北200mの逆台形状に広がり、民地内には現在でも部分的に土塁が残っている館跡として知られている。また、台地上の縁辺部という立地から、古墳が集中して造られてきた地域としても知られている。西側は沖積地となるため遺跡は所在しないが、大形の前方後円墳である兵庫塚古墳（現存しない）がある。また、南西部には沖積地内の微高地上の遺跡として古墳時代の集落である上江田西田遺跡が所在する。

今回の調査は市道拡幅工事に伴う調査であったが、工事計画は狭小な道路拡幅工事であったため、工事に際して立会い調査を実施した。その結果、工事区の西側では、掘削断面の精査の段階で、古墳の周堀が確認され、北側の敷地内にあった土塁状の高まりが古墳の墳丘部の残りであることが確認できた。また、周堀の断面より円筒埴輪が検出された。工事区の東側においても古墳の周堀と思われる遺構が確認された。その他に溝・土坑が確認されたが、中世に関係すると思われる遺構はなかった。



調査区位置図

〈円筒埴輪〉 口径(21cm)、底径(12cm)、高さ(34cm)を測る。2条の凸帯と円形の透孔をもち、凸帯の断面形は潰れた台形か三角形を呈す。外面の調整は、一次調整の縦ハケのみで二次調整はない。



上江田城館跡遺構配置図

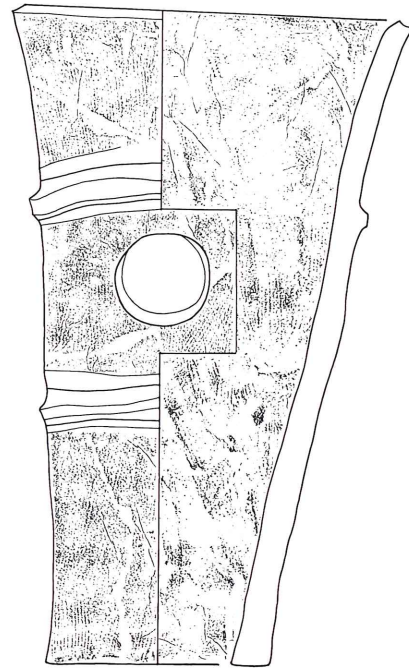
- 1 黒褐色土 攪乱層
- 2 黒色土 2号墳周溝覆土
- 3 黄褐色土 地山、関東ローム層



東側調査区



西側調査区



出土した円筒埴輪

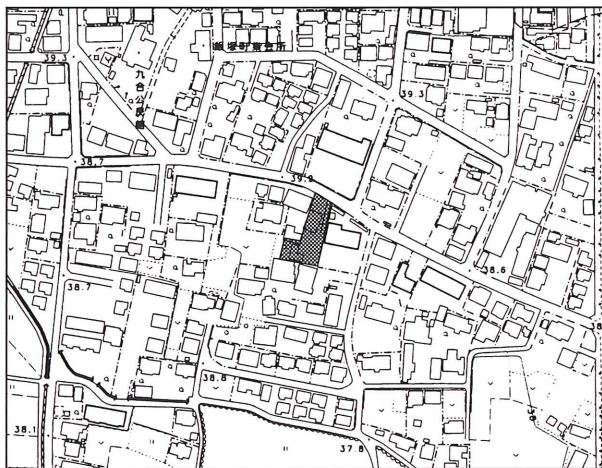


断面で確認された古墳の周堀

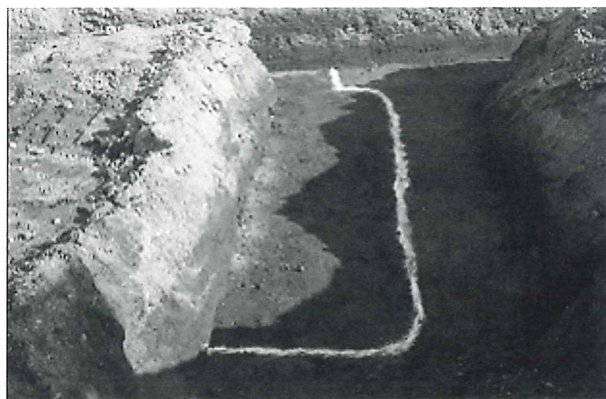
12. 北明泉寺遺跡 (No.27)

北明泉寺遺跡は九合地区に所属する遺跡で、古墳・奈良時代の集落として知られている。遺跡の南側には飯塚条里制水田跡が広がり、北側にも条里制水田想定地があることから、本遺跡が東西に続く微高地の上に立地していることが伺える。そのため、西側には古墳時代の集落である宮前遺跡、東側には平成元年の市道建設の本調査で方墳、円墳方形周溝墓などが調査された飯塚古墳群が所在する。遺跡の規模は、東西方向に250m、南北方向に250mの隅丸の方形状に広がっている。

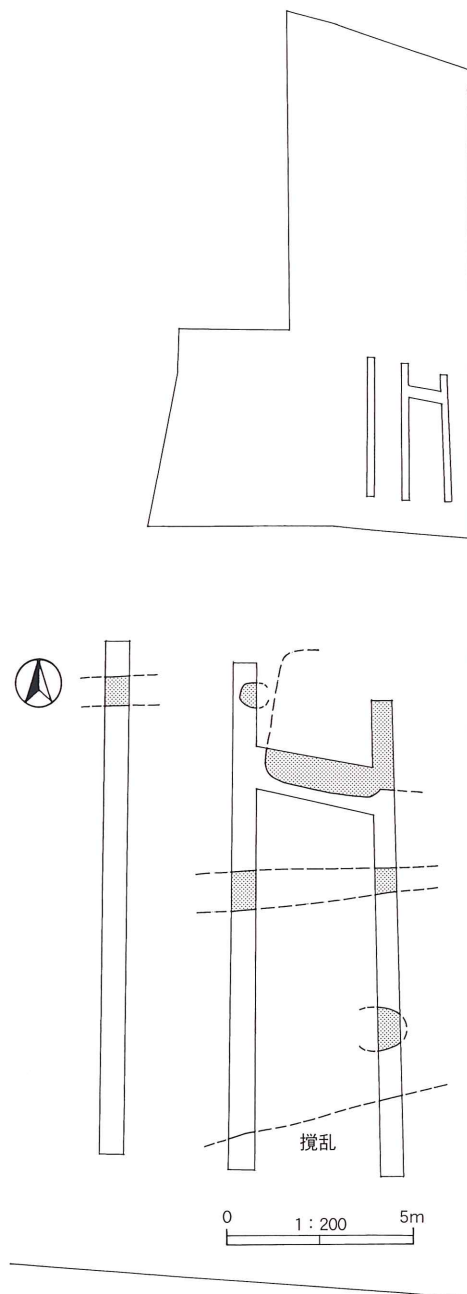
今回の調査は集合住宅建設に伴う調査であり、建物の予定範囲で確認できる範囲について南北のトレンチを3本設定し確認調査を実施した。その結果、南側は攪乱によって壊されており、土層断面では下層部において旧水田として利用されていた土層が確認され、北側に向かって土地が高くなり、ローム面で住居跡1軒と溝2条、土坑2基が確認された。基礎工事は確認面まで及ばない工事方法であったため盛土して保存することとし、確認調査で終了とした。



調査区位置図



住居跡確認状況（西より）

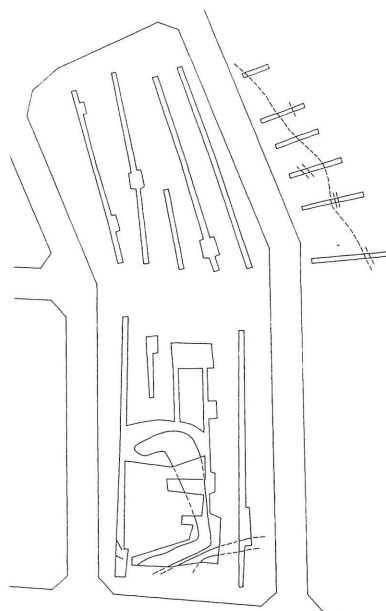


トレンチおよび遺構配置図

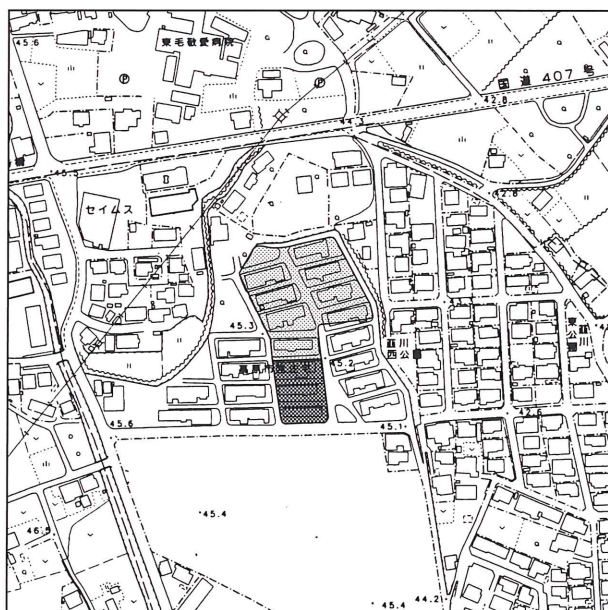
13. やすら おか こ ふんぐん 安良岡古墳群 (No.28)

安良岡古墳群は、葦川地区の葦川台地北部に所在する古墳群で、その規模は東西200m、南北200mの範囲に不整形に広がっている。周囲の地形より北から東にかけては一段低くなっているため、隣接する遺跡は無く、古墳群の南東部にのみ塚本遺跡が隣接している。塚本遺跡は、平成2年の発掘調査でわずか120㎡の調査区において8軒の住居跡が検出されており、その遺構密度の高さが知られている。安良岡古墳群については、過去の段階において会社寮が建設されており、その実態は確認されていなかった。

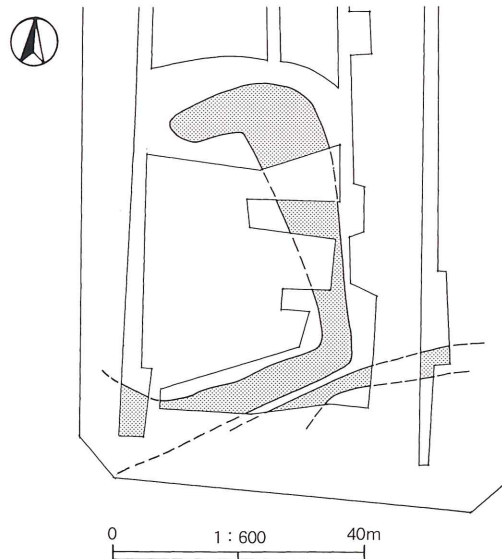
今回の調査は市営住宅の建替え工事に伴う調査であり、既存の住宅を撤去した後に確認調査を実施した。もともと、遺跡分布地図では今回の対象地の南側の一部が該当していたが、南側で古墳が所在することが確認されたため、遺跡の広がりを確認するために北側の工事区も調査の対象とし、トレンチを南北方向に10本、東西方向に6本設定しローム面まで掘削した。その結果、東西方向のトレンチを入れた北東部は台地の縁辺部にあたり盛土されており、南北方向のトレンチを入れた北側についても遺構は確認できなかった。結局確認された遺構は、一番最初に確認した南側の一辺24mほどの方形周溝墓1基と溝1条であった。確認面は比較的浅く、住宅建設に際しては遺構に影響が及ぶため確認調査後、本調査を実施した。



トレンチ位置図



調査区位置図



遺構配置図



北側の周堀確認状況（西より）

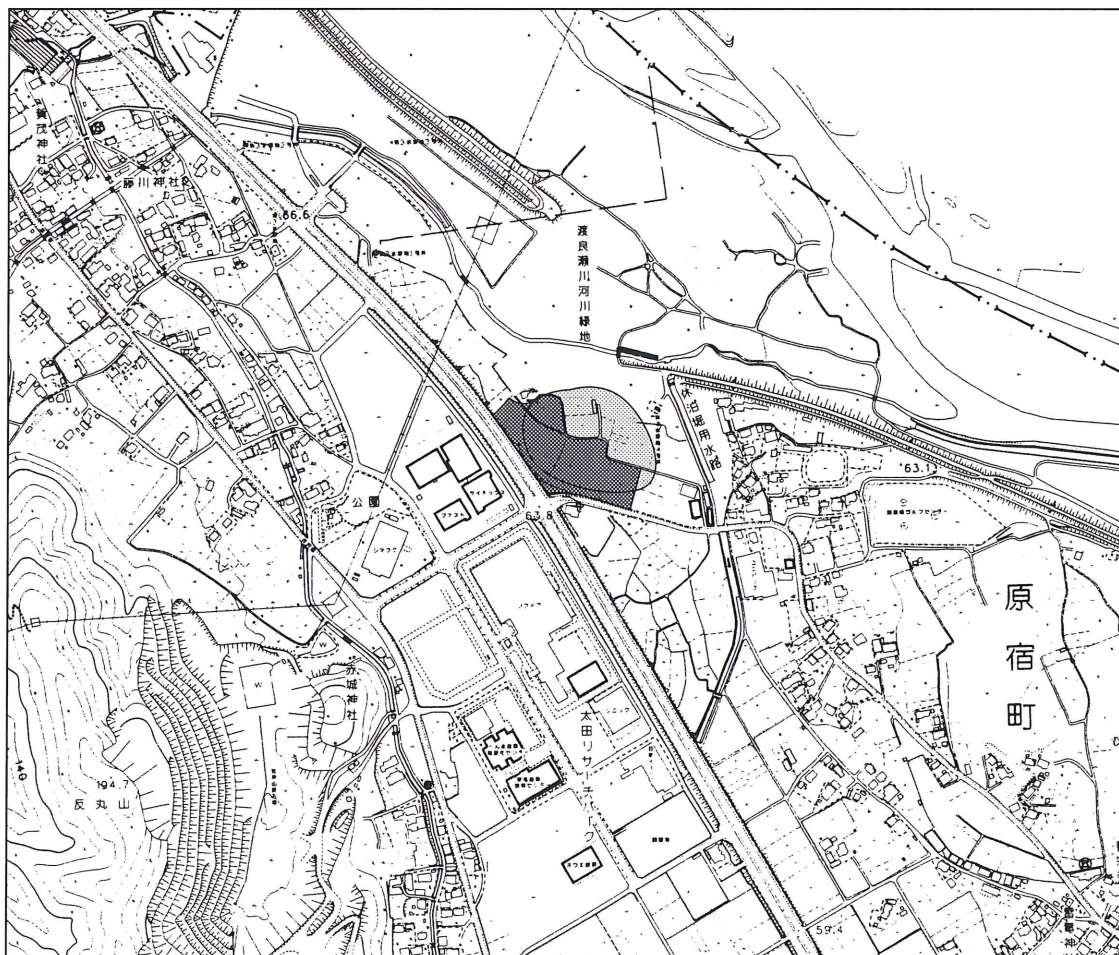
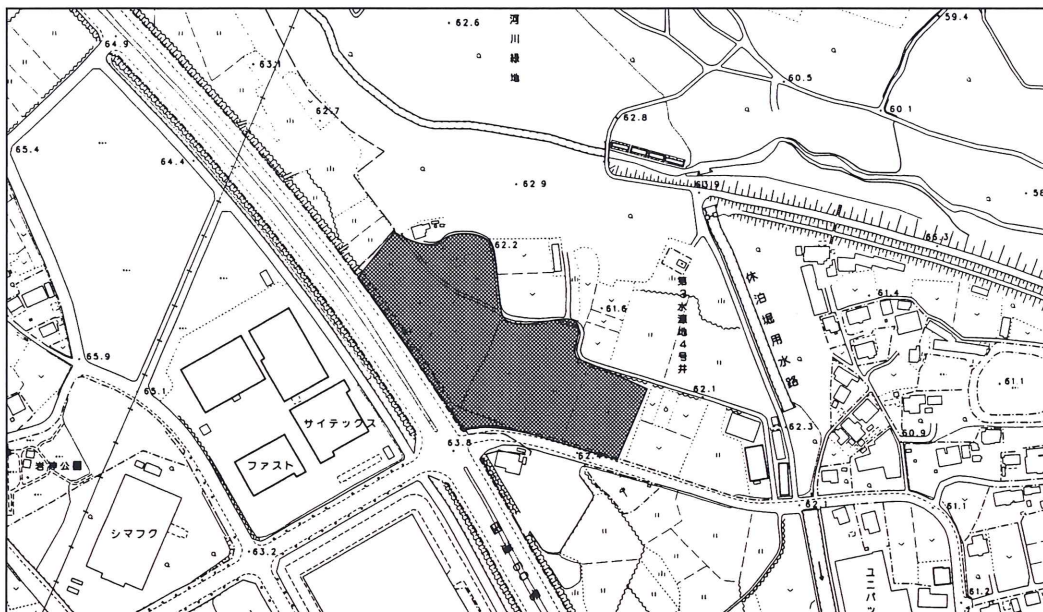


南西側の確認状況（西より）

第5章 試掘・確認調査の概要

1. 原宿川向遺跡

- ① 所在地 太田市原宿町597他
- ② 調査面積 480m² (対象面積14,000m²)
- ③ 調査原因 ドライブイン
- ④ 調査期間 平成18年5月15日～17日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向に19本のトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ30～50cm)遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 全面で礫層が確認。発見遺構・遺物なし。



原宿川向遺跡の範囲(下)と調査区位置図(上)

エフビーでいりゅうした
2. F P 泥 流 下 遺 跡 群 (尾 島)

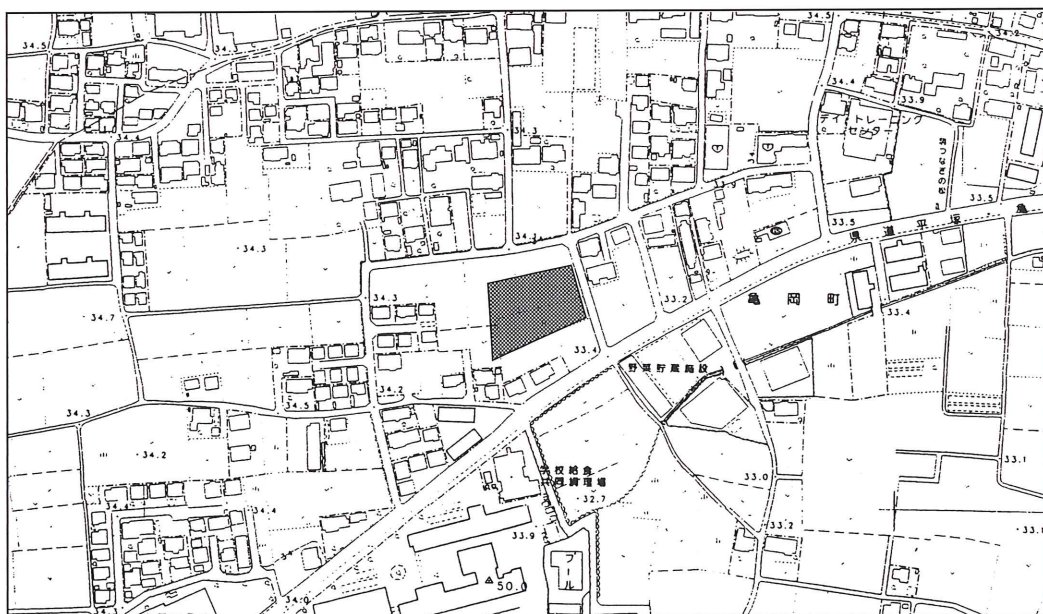
- | | | | |
|---------|--|--------|---|
| ① 所 在 地 | 太田市尾島町240番他 | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に東西方向にトレンチを4本設定し、重機により表土除去後(灰白色粘土面・深さ50~110cm)、遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 155m ² (対象面積3,262m ²) | ⑥ 調査結果 | FP泥流層は無く、遺構・遺物なし。 |
| ③ 調査原因 | コンビニ | | |
| ④ 調査期間 | 平成18年6月5日 | | |



調査区位置図

エフビーでいりゅうした
5. F P 泥 流 下 遺 跡 群 (亀岡軽浜)

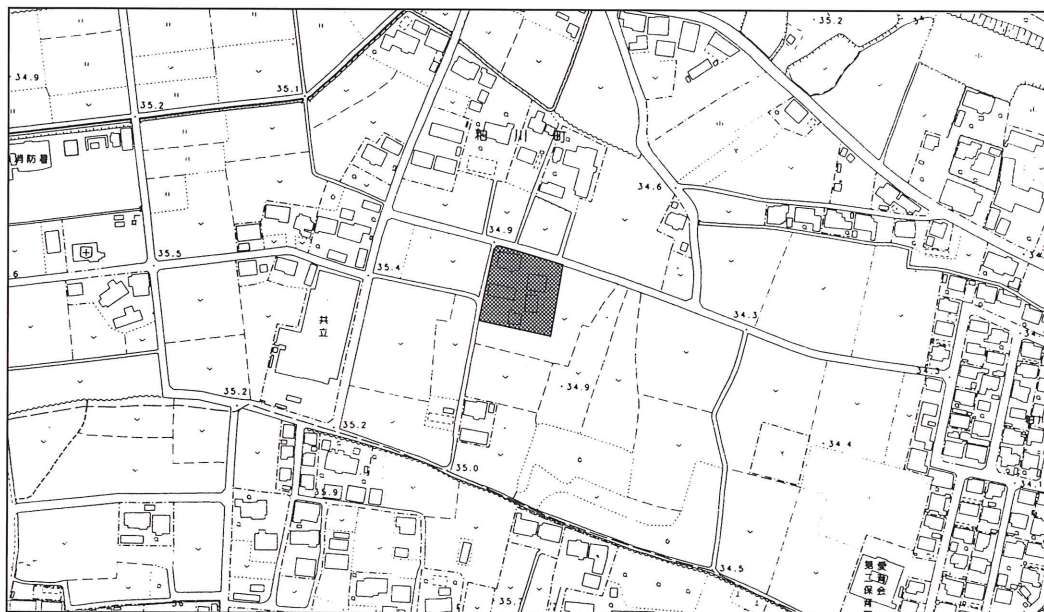
- | | | | |
|---------|--|--------|---|
| ① 所 在 地 | 太田市亀岡町568-1、569-1 | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に東西方向にトレンチを4本設定し、重機により表土除去後(FP泥流面・深さ70~80cm) 遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 350m ² (対象面積2,314m ²) | ⑥ 調査結果 | 土坑1基(平安時代)。 |
| ③ 調査原因 | 土地分譲 | | |
| ④ 調査期間 | 平成18年8月1日~2日 | | |



調査区位置図

エフピーでいりゅうした
14. F P 泥 流 下 遺 跡 群 (粕川)

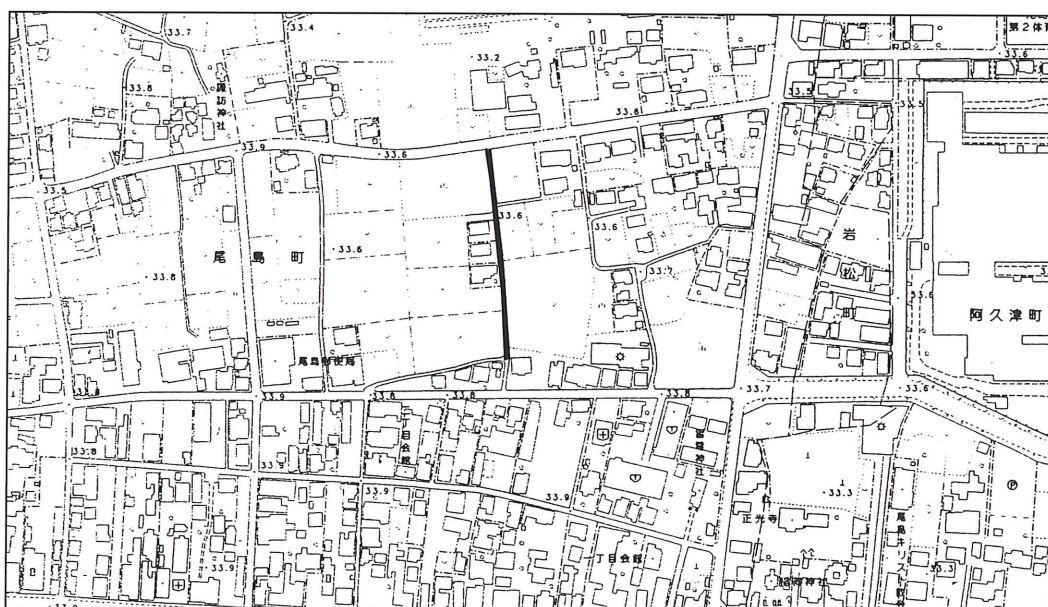
- | | | | |
|---------|-----------------|--------|--|
| ① 所 在 地 | 太田市粕川町154番1地内 | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に南北方向にトレンチを9本設定し、重機により表土除去後(深さ120~170cm)遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 40㎡(対象面積2,473㎡) | ⑥ 調査結果 | 発見遺構・遺物なし。 |
| ③ 調査原因 | 土地分譲 | | |
| ④ 調査期間 | 平成18年11月2日 | | |



調査区位置図

エフピーでいりゅう
17. F P 泥 流 遺 跡 (尾島)

- | | | | |
|---------|---------------|--------|--|
| ① 所 在 地 | 太田市尾島町250番1ほか | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に南北方向に3本のトレンチを設定し、重機により表土除去後遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 18㎡(対象面積850㎡) | ⑥ 調査結果 | 発見遺構・遺物なし。 |
| ③ 調査原因 | 道路建設 | | |
| ④ 調査期間 | 平成18年11月10日 | | |



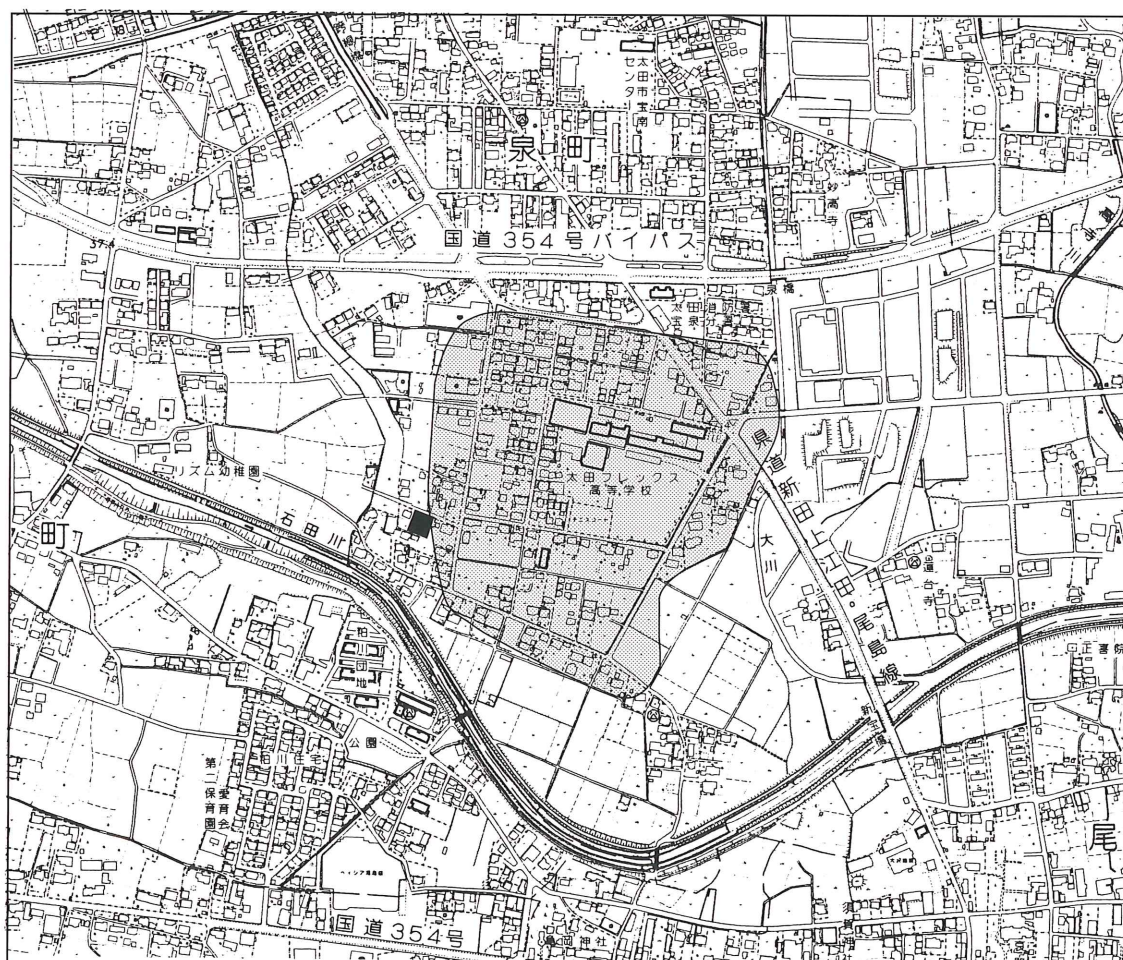
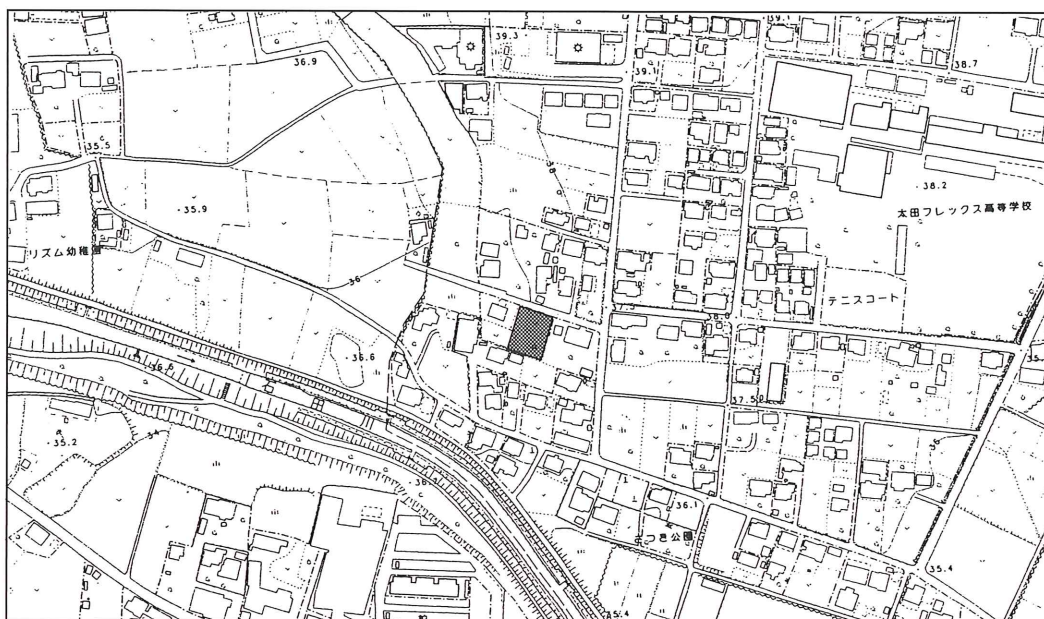
調査区位置図



FP泥流下遺跡群の範囲と調査区位置図 (2・5・14・17)

3. 西田島遺跡

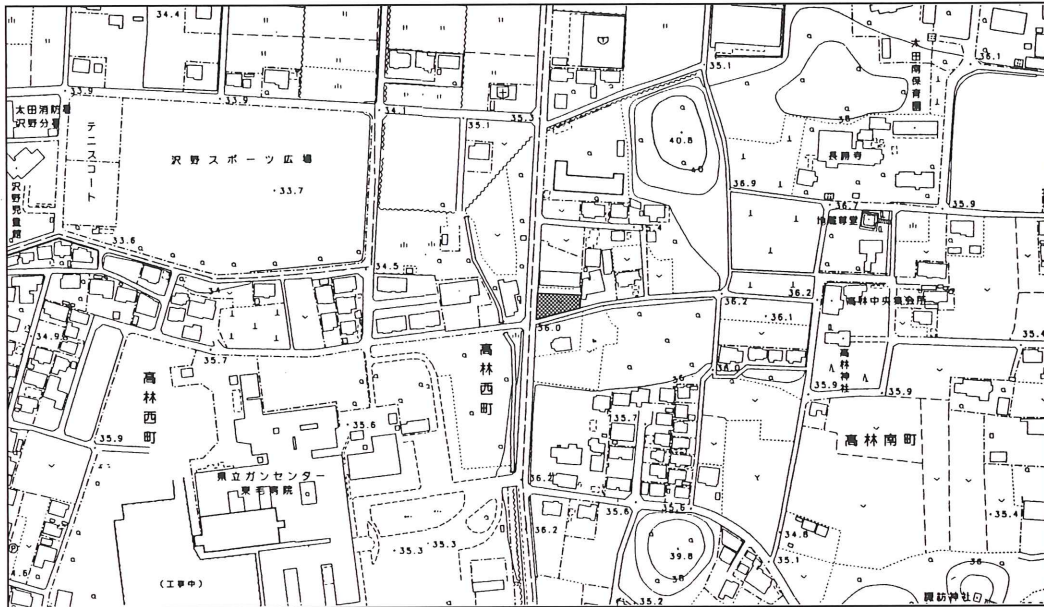
- ① 所在地 太田市下田島町1563-8
- ② 調査面積 110㎡ (対象面積379㎡)
- ③ 調査原因 集合住宅
- ④ 調査期間 平成18年6月8日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向にトレンチを4本設定し、重機により表土除去後(深さ20～40cm)遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。



西田島遺跡の範囲(下)と調査区位置図(上)

たかはやしつるまき
4. 高林鶴巻古墳

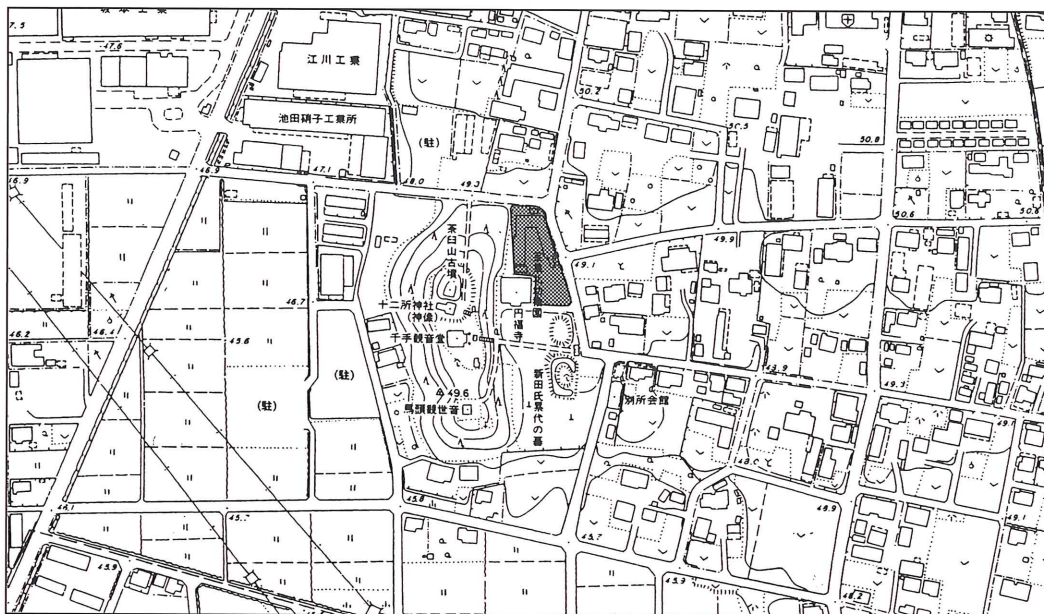
- ① 所在地 太田市高林南町605-6
 ② 調査面積 70m² (対象面積997m²)
 ③ 調査原因 集合住宅
 ④ 調査期間 平成18年6月26日
 ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向にトレンチを3本設定し、重機により表土除去後(深さ30~60cm)遺構の確認調査を行った。
 ⑥ 調査結果 溝1条、遺物なし。



高林鶴巻古墳の範囲(下)と調査区位置図(上)

ちゅうすやま
6. 茶臼山古墳

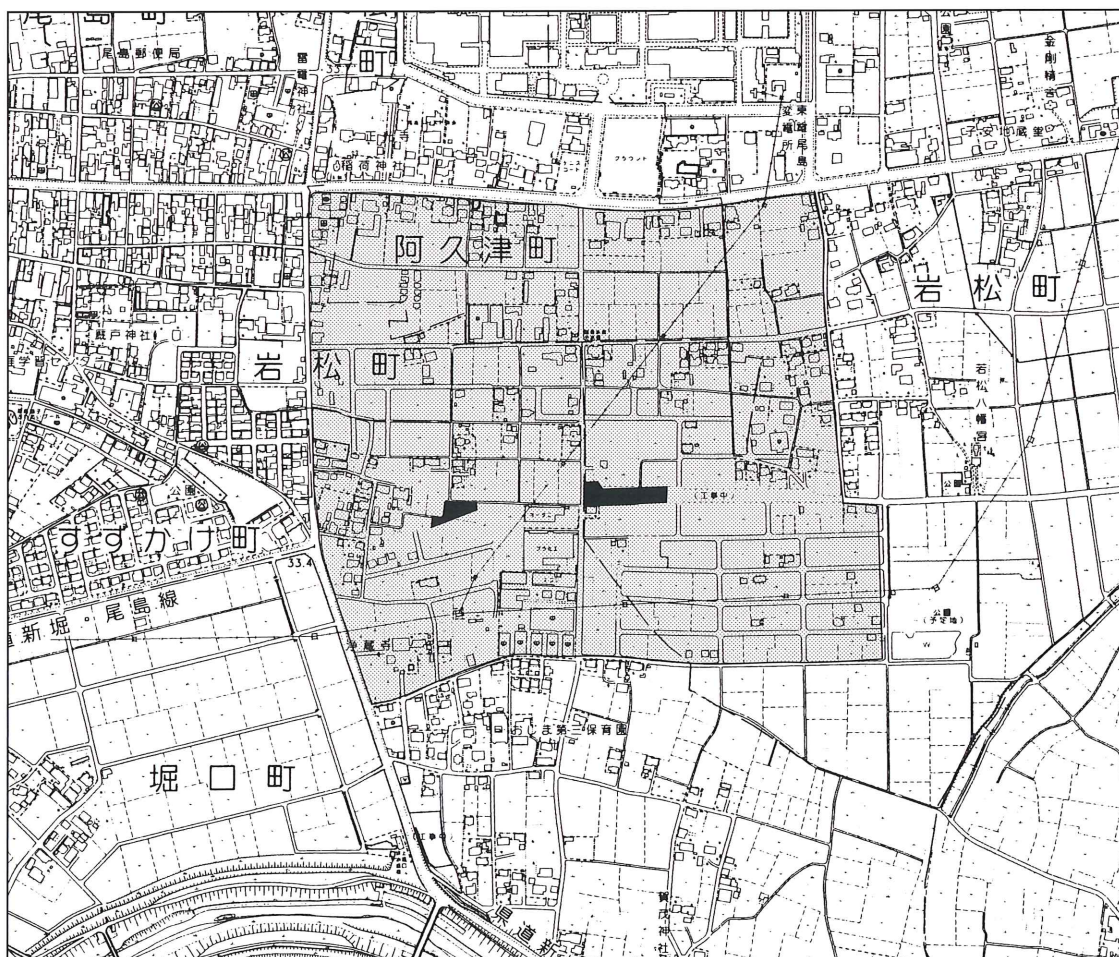
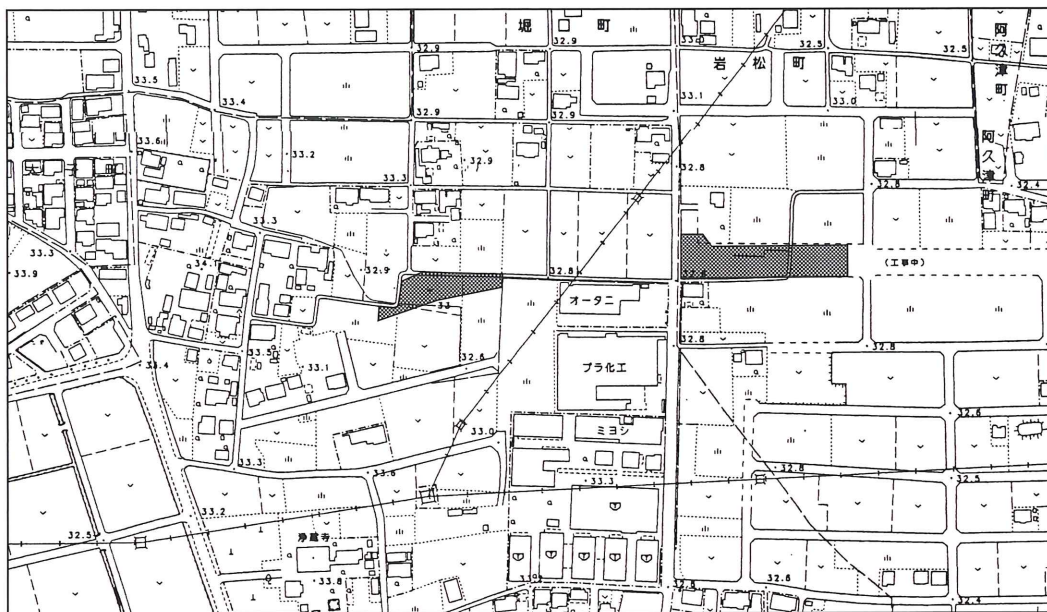
- | | | | |
|--------|-----------------|--------|---|
| ① 所在地 | 太田市別所町388番2 | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に東西方向にトレンチを3本設定し、重機により表土除去後（深さ80～100cm）遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 80㎡（対象面積308.6㎡） | ⑥ 調査結果 | 周堀1条。詳細は第4章。 |
| ③ 調査原因 | 学校建設 | | |
| ④ 調査期間 | 平成18年7月31日 | | |



茶臼山古墳の範囲(下)と調査区位置図(上)

7. とうぶちく 東部地区遺跡群

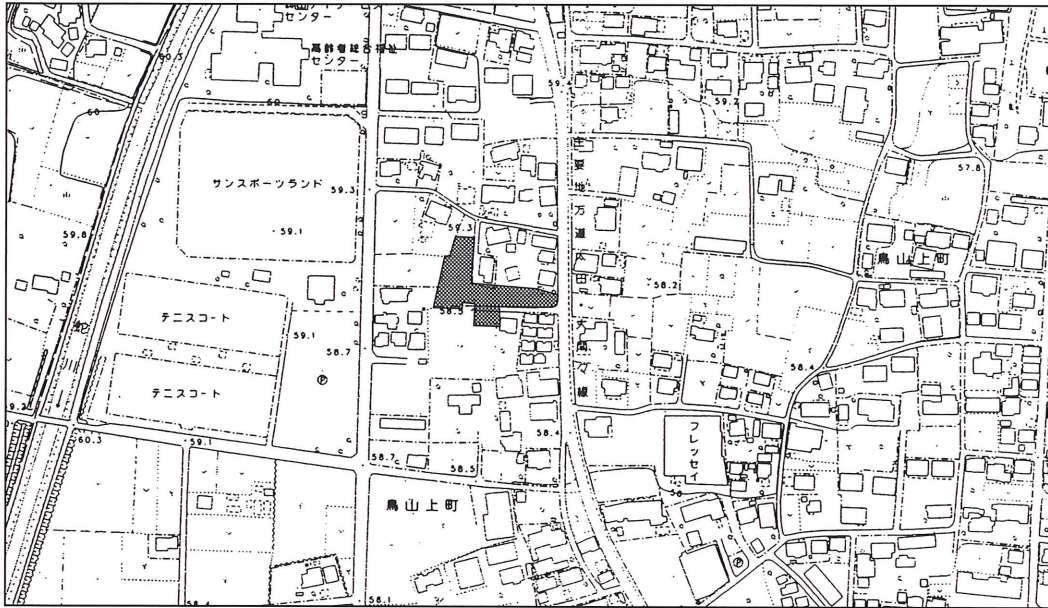
- ① 所在地 太田市岩松町159番他地内
- ② 調査面積 420㎡（対象面積4,446㎡）
- ③ 調査原因 区画整理
- ④ 調査期間 平成18年8月31日～9月8日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内3箇所において、東西方向に13本のトレンチを設定し、重機により表土除去後（深さ50～100cm）遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 住居10軒（古墳～平安時代）、土坑17基、溝3条。詳細は第4章。



東部地区遺跡群の範囲(下)と調査区位置図(上)

8. ^{かみ}上遺跡

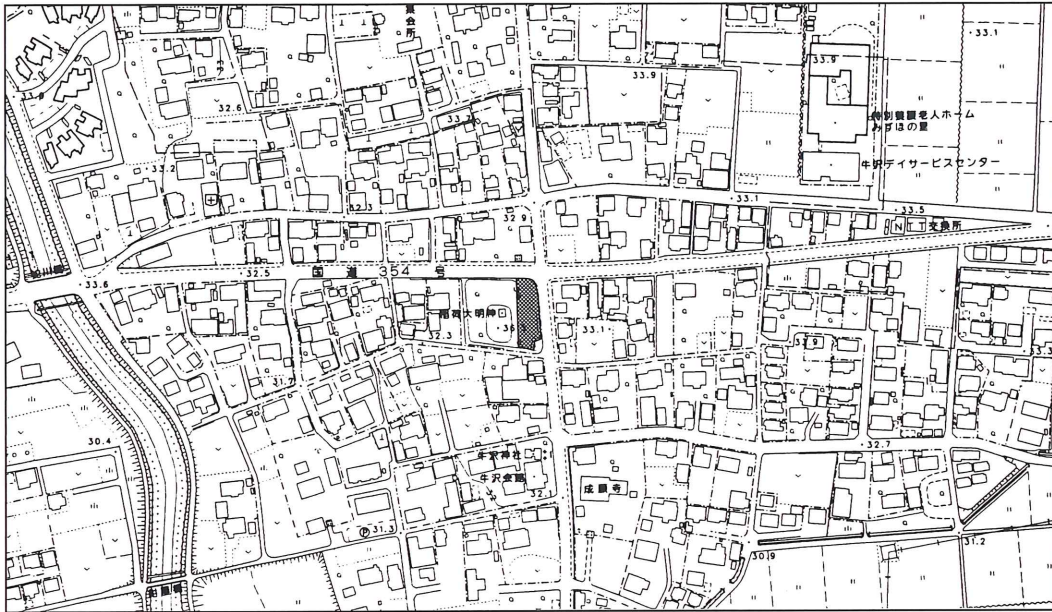
- | | | | |
|--------|---|--------|--|
| ① 所在地 | 太田市鳥山上町2249番1ほか地内 | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に東西方向に3本、南北方向に2本のトレンチを設定し、重機により表土除去後（ローム面・深さ30～40cm）遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 160m ² （対象面積2,303.79m ² ） | ⑥ 調査結果 | 住居12軒（古墳～平安）、土坑4基、土師器片。（確認調査と一部本調査を実施）詳細は第4章。 |
| ③ 調査原因 | 土地分譲 | | |
| ④ 調査期間 | 平成18年9月5日～11日 | | |



上遺跡の範囲(下)と調査区位置図(上)

うしざわいな り やま
9. 牛沢稲荷山古墳

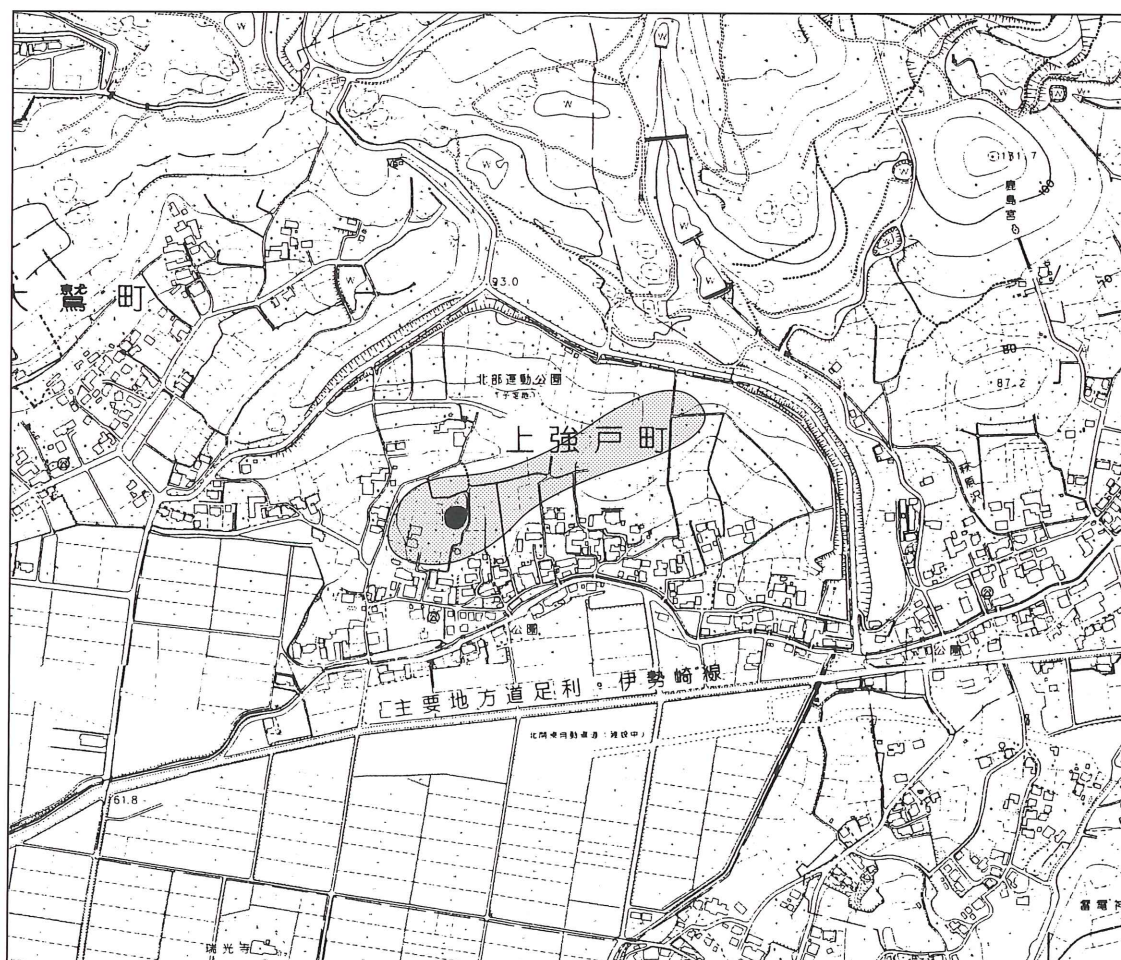
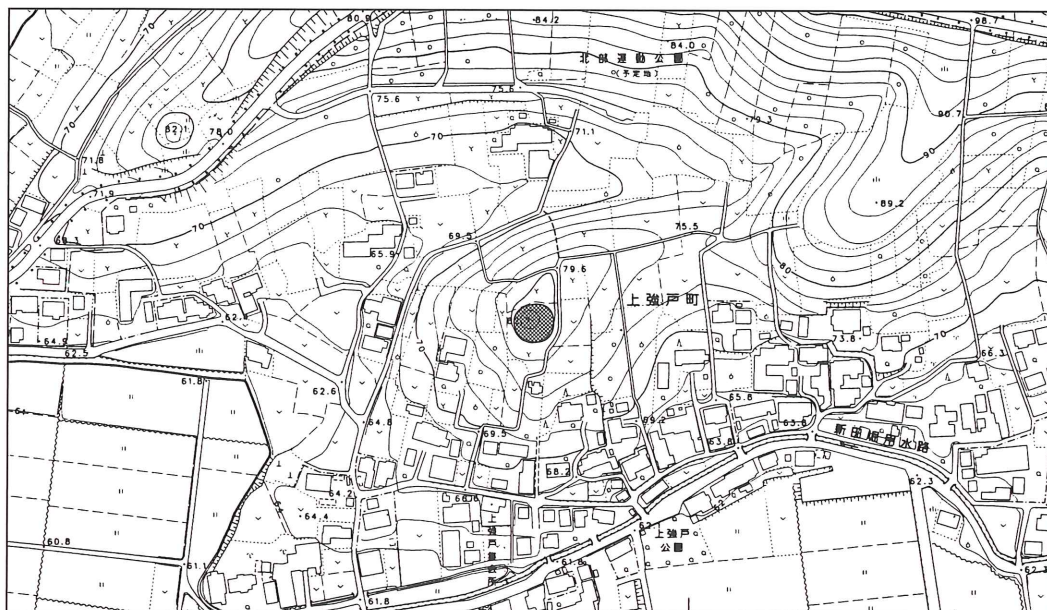
- ① 所在地 太田市牛沢町138番1地内
- ② 調査面積 100㎡ (対象面積801.6㎡)
- ③ 調査原因 宅地造成
- ④ 調査期間 平成18年9月28日～10月2日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内にトレンチを南北方向に2本、東西方向に1本設定し、重機により表土除去後(深さ30～100cm)遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 住居6軒(古墳前期)、土師器片。(確認調査で終了)詳細は第4章。



牛沢稲荷山古墳の範囲(下)と調査区位置図(上)

10. 上強戸古墳群（北部スポーツ公園内遺跡群）

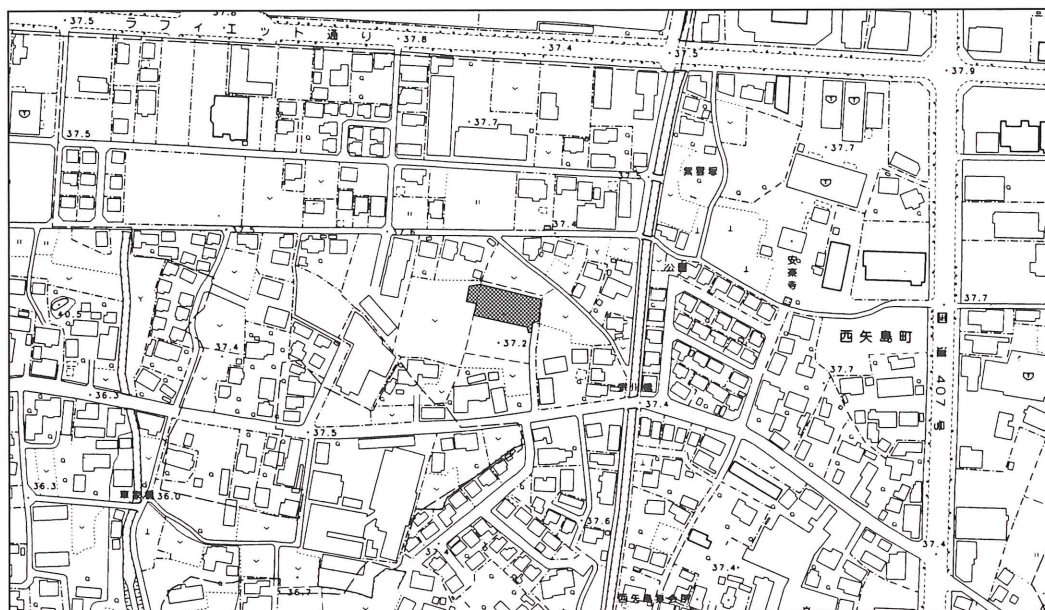
- | | | | |
|--------|--|--------|---|
| ① 所在地 | 太田市上強戸町2028-1ほか | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内にトレンチを放射状に7本設定し重機により表土除去後（深さ40～130cm）遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 111m ² （対象面積4,000m ² ） | ⑥ 調査結果 | 直径約30mの円墳であることを確認。円筒埴輪片数点出土。詳細は第4章。 |
| ③ 調査原因 | 公園建設 | | |
| ④ 調査期間 | 平成18年10月18日 | | |



上強戸古墳群の範囲(下)と調査区位置図(上)

11. ^{にしやじま}西矢島遺跡

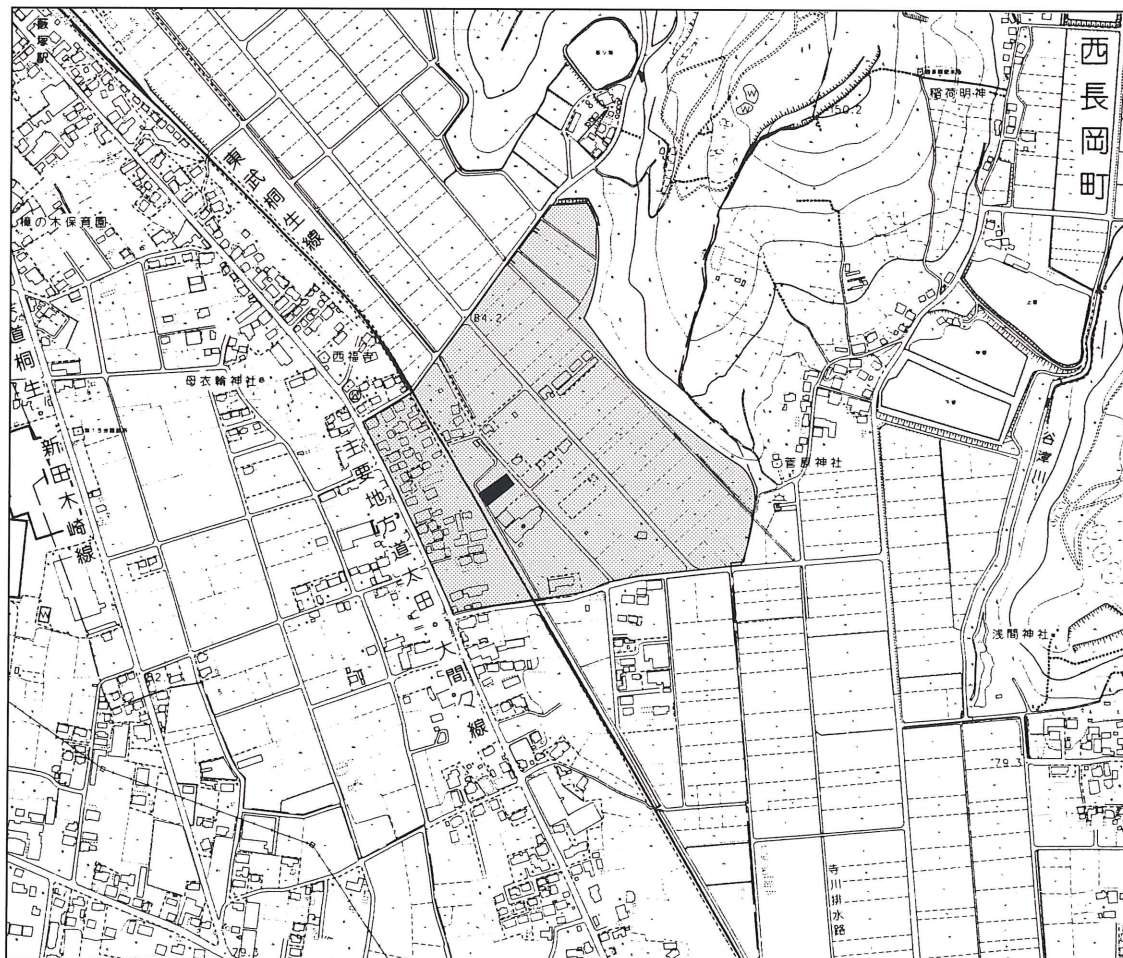
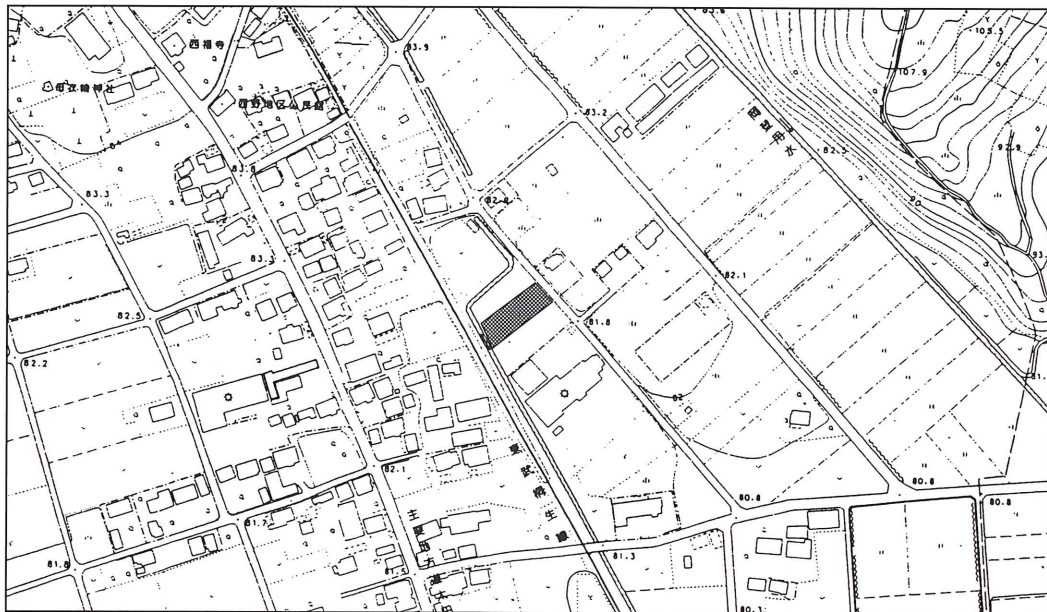
- | | | | |
|--------|-------------------|--------|--|
| ① 所在地 | 太田市西矢島町358番4ほか地内 | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に東西方向に3本、のトレンチを設定し、重機により表土除去後（深さ20～30cm）遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 105㎡（対象面積999.35㎡） | ⑥ 調査結果 | 発見遺構・遺物なし。 |
| ③ 調査原因 | 土地分譲 | | |
| ④ 調査期間 | 平成18年10月25日 | | |



西矢島遺跡の範囲(下)と調査区位置図(上)

ちし のひがしなか

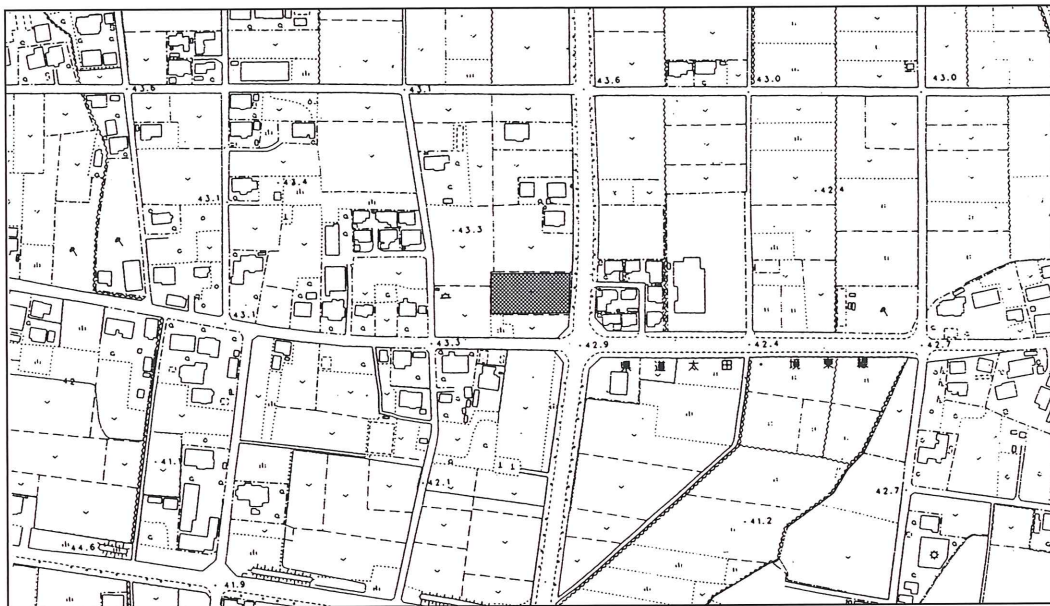
- ⑥ 調査結果 礫層が露出。遺構・遺物なし。



西野東中遺跡の範囲(下)と調査区位置図(上)

あかぼとけ
13. 赤仏遺跡

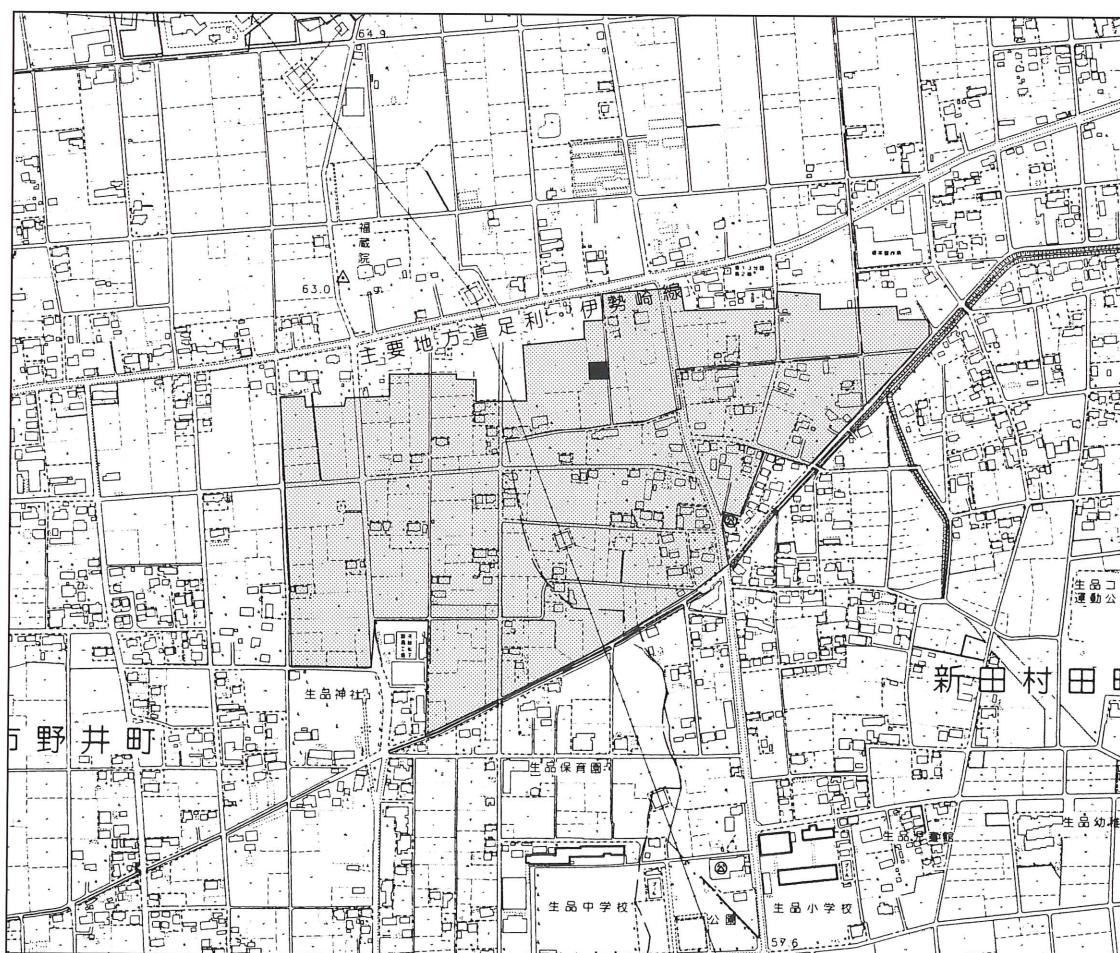
- ① 所在地 太田市新田中江田町1126番2地内 ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向に3本のトレンチを設定し、重機により表土除去後（深さ40～60cm）遺構の確認調査を行った。
- ② 調査面積 180m²（対象面積1,418m²） ⑥ 調査結果 長方形土坑4基。遺物なし。
- ③ 調査原因 介護施設建設
- ④ 調査期間 平成18年11月1日



赤仏遺跡の範囲(下)と調査区位置図(上)

15. 境ヶ谷戸遺跡 さかいがやと

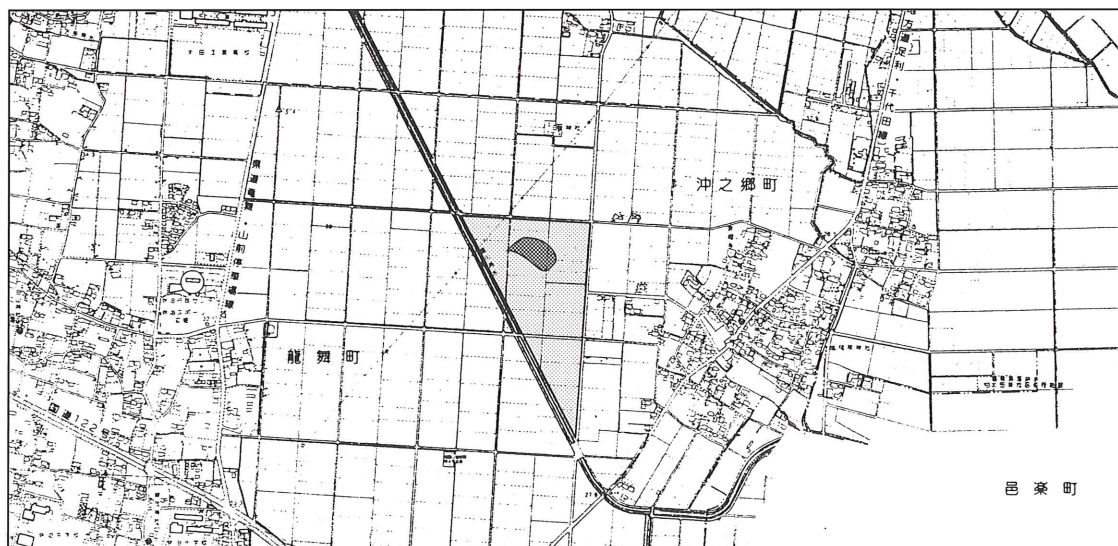
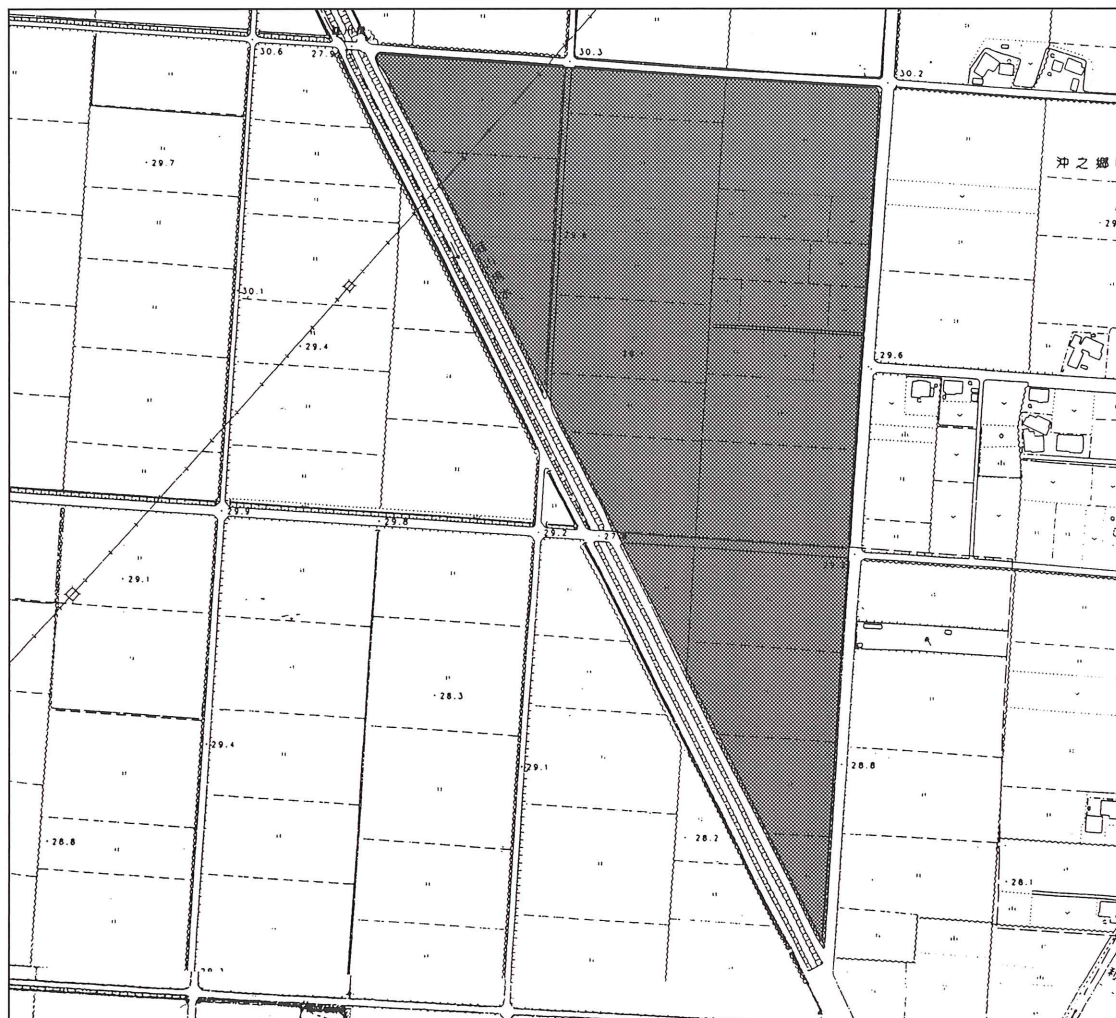
- | | | | |
|--------|--|--------|--|
| ① 所在地 | 太田市新田分野井町1989番3地内 | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に東西方向にトレンチを3本設定し、重機により表土除去後（深さ30～40cm）遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 48m ² （対象面積96m ² ） | ⑥ 調査結果 | 住居3軒、溝1条、土師器片。位置を変更して工事着手。詳細は第4章。 |
| ③ 調査原因 | 鉄塔建設 | | |
| ④ 調査期間 | 平成18年11月6日 | | |



境ヶ谷戸遺跡の範囲(下)と調査区位置図(上)

16. 塚井遺跡^{つかい}

- ① 所在地 太田市沖之郷町984番ほか地内
- ② 調査面積 735m² (対象面積85,900m²)
- ③ 調査原因 遊水池建設
- ④ 調査期間 平成18年11月9日～12月15日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向に13本、南北方向に6本のトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ15～30cm)遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 住居9軒(古墳前期)、土坑5基、溝5条、ピット40、土師器片。詳細は第4章。



塚井遺跡の範囲(下)と調査区位置図(上)

18. ^{なみぞ}中溝Ⅱ遺跡

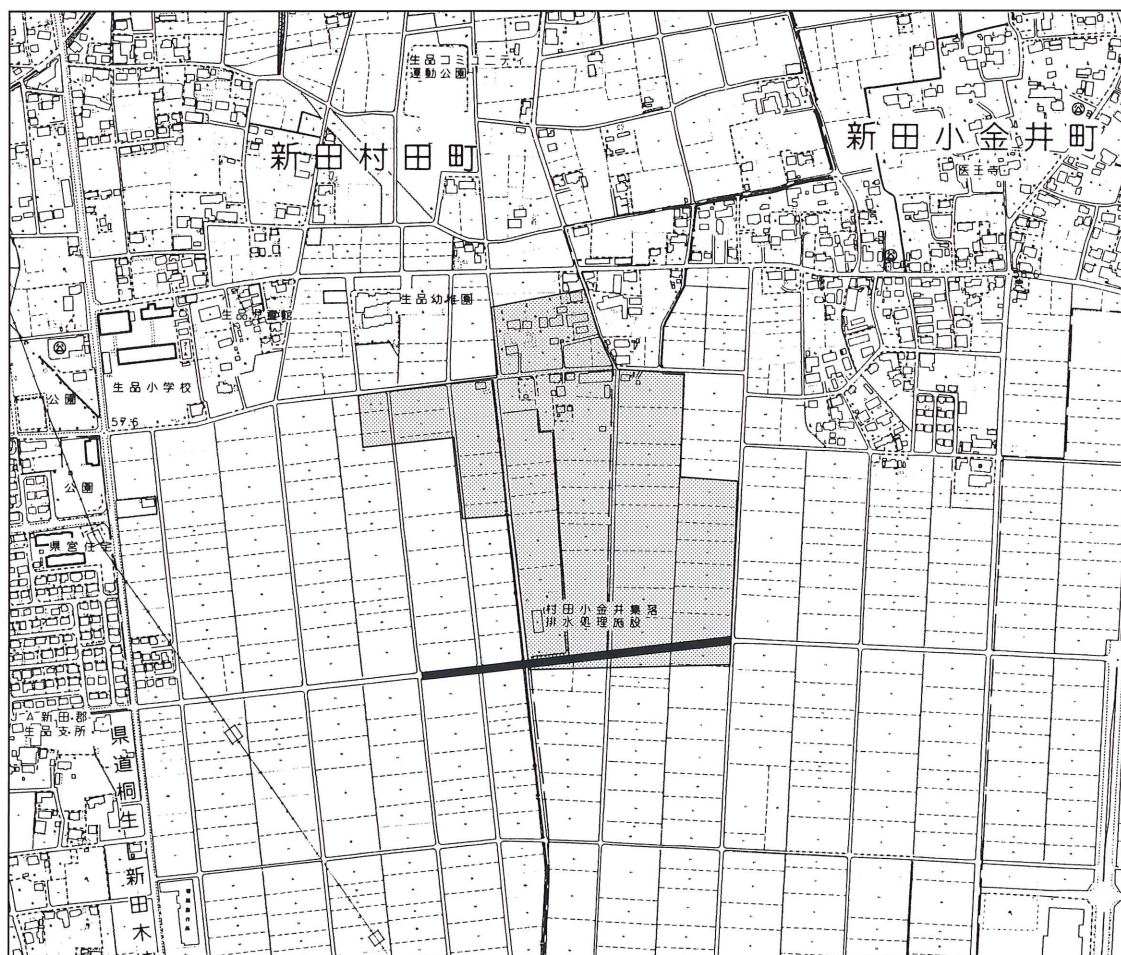
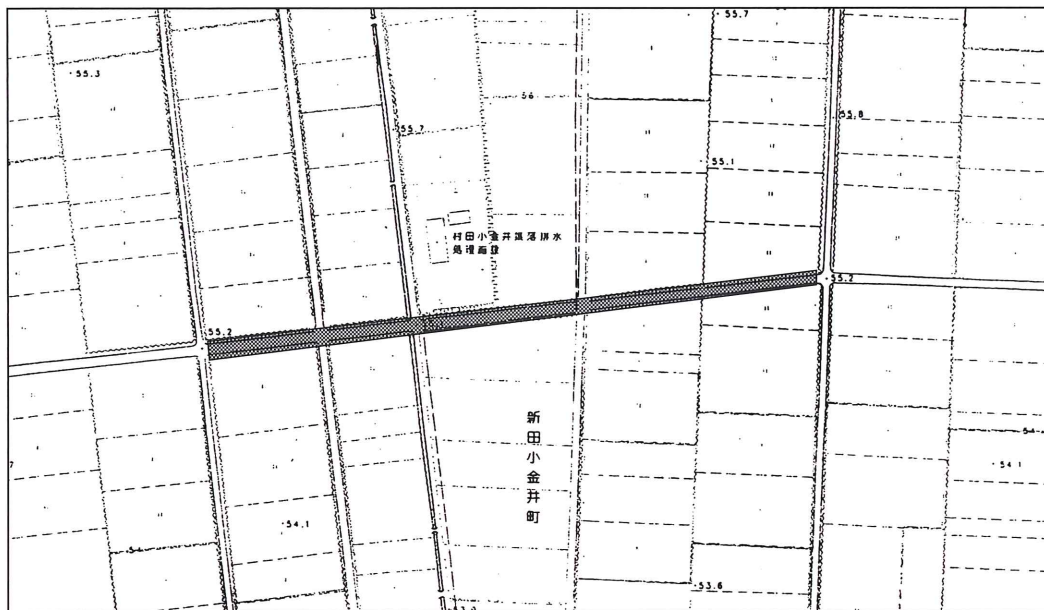
- ① 所在地 太田市新田小金井町地内
- ② 調査面積 200m² (対象面積3,500m²)
- ③ 調査原因 道路建設
- ④ 調査期間 平成18年12月11日～12日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向に1本のトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ50～60cm)遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。



中溝Ⅱ遺跡の範囲(下)と調査区位置図(上)

19. 村田・本郷遺跡

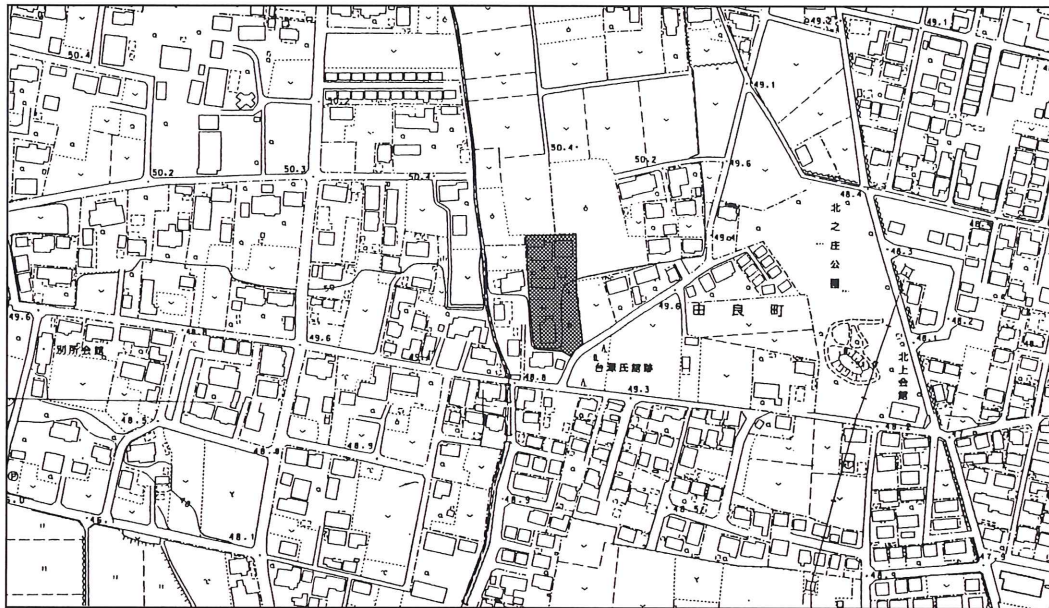
- ① 所在地 太田市新田村田町
- ② 調査面積 200㎡（対象面積7,300㎡）
- ③ 調査原因 道路建設
- ④ 調査期間 平成18年12月15日～18日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向に6本のトレンチを設定し、重機により表土除去後（深さ20～30cm）遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 住居2軒、土坑9基、溝9条、堀4箇所。遺物なし。詳細は第4章。



村田・本郷遺跡の範囲(下)と調査区位置図(上)

20. 大門遺跡^{だいもん}

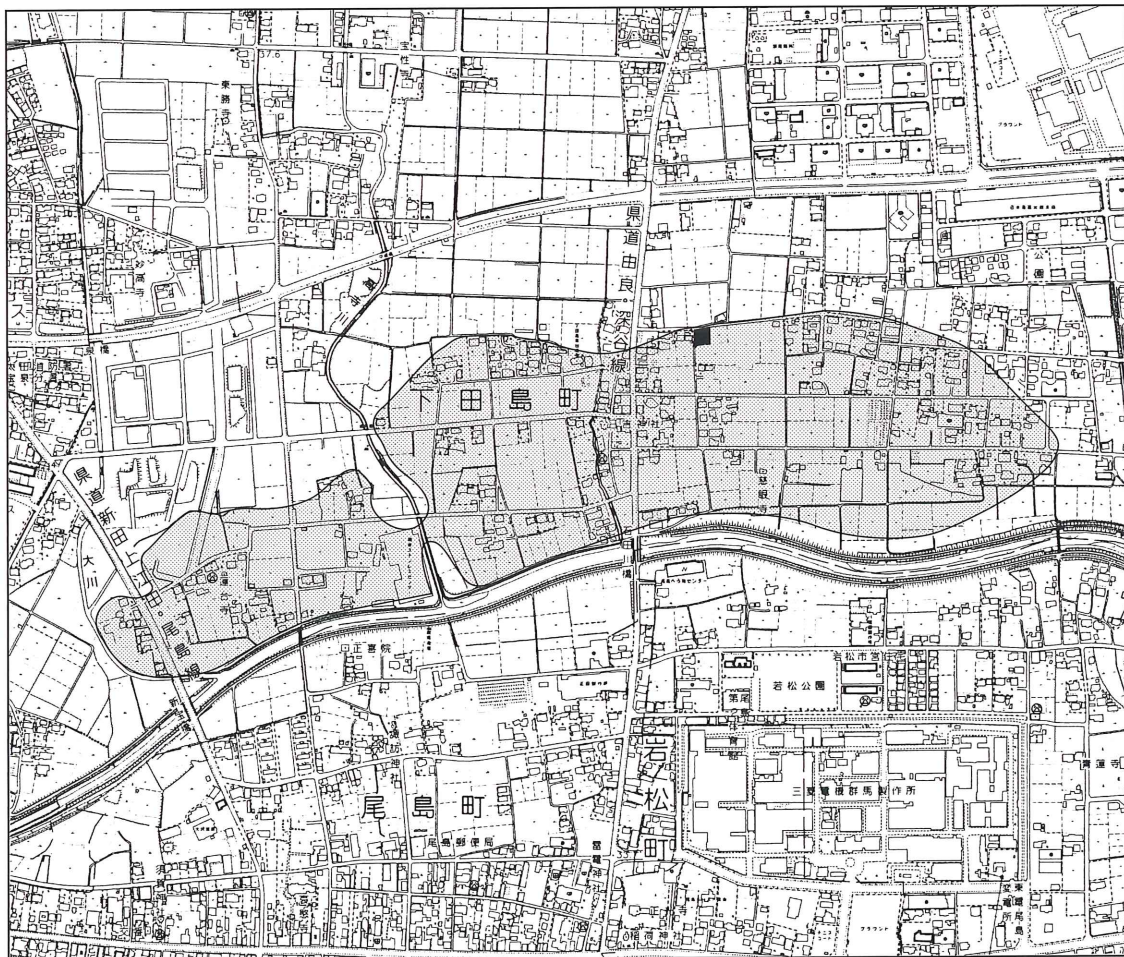
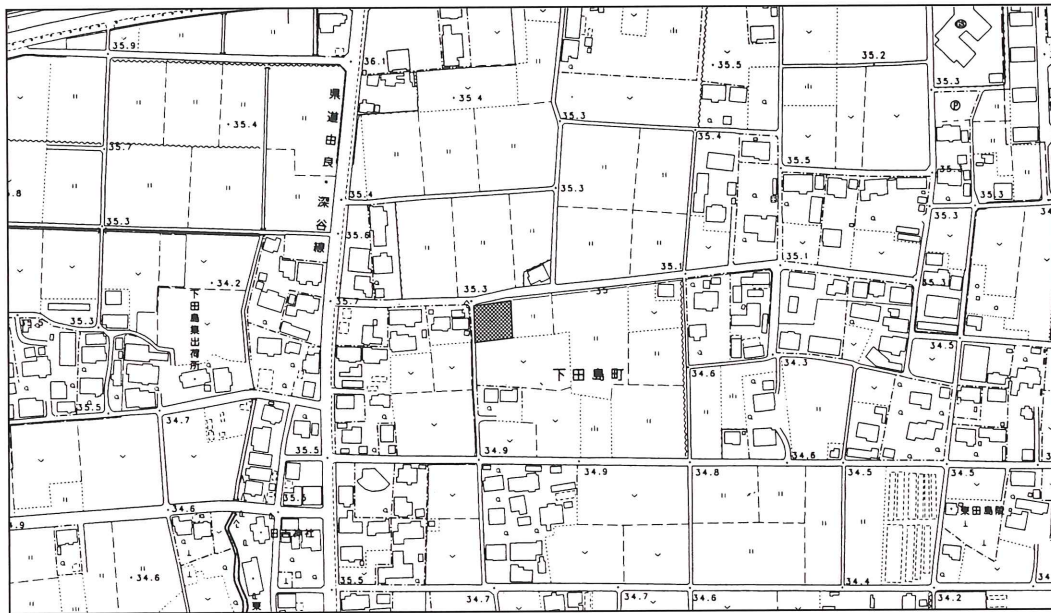
- ① 所在地 太田市由良町1558番1ほか地内
- ② 調査面積 43㎡（対象面積1,700㎡）
- ③ 調査原因 土地分譲・道路建設
- ④ 調査期間 平成18年12月15日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向に3本、東西1本のトレンチを設定し、重機により表土除去後（深さ20～40cm）遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 土坑1基、（近世）確認調査で終了。



大門遺跡の範囲(下)と調査区位置図(上)

しもたじま
21. 下田島遺跡

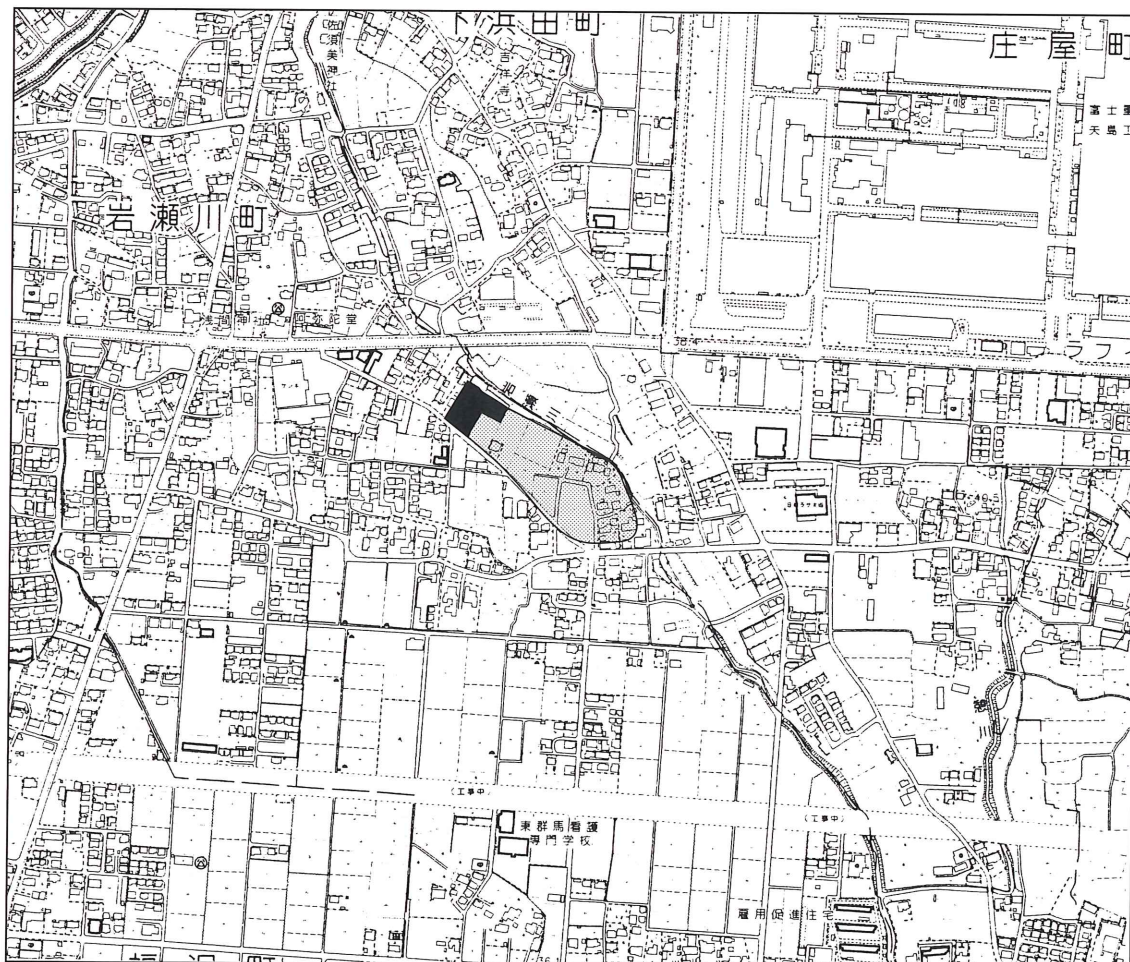
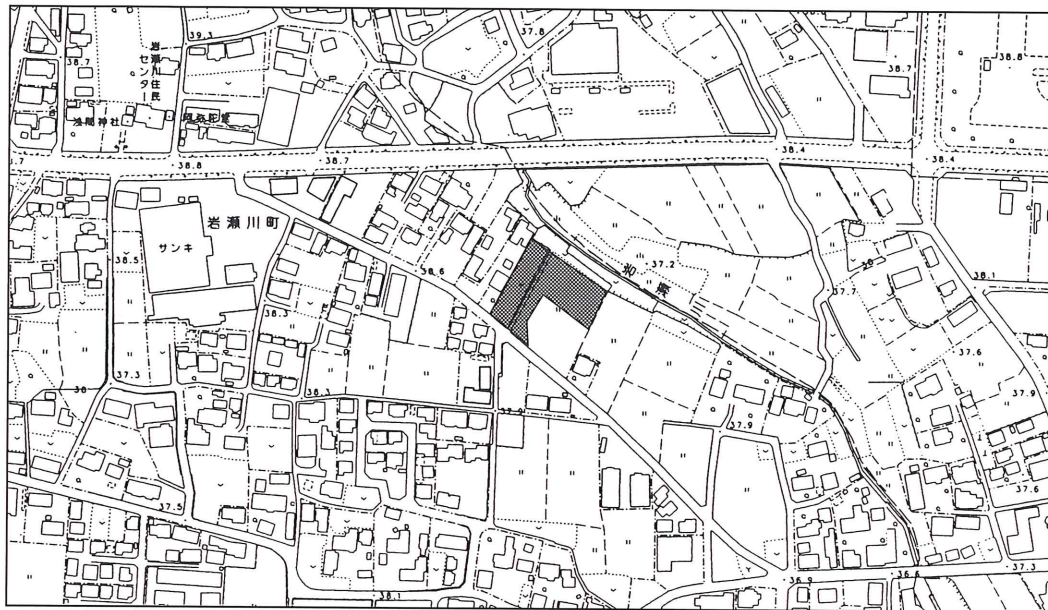
- | | | | |
|--------|--|--------|---|
| ① 所在地 | 太田市下田島町530番1地内 | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に南北方向に2本のトレンチを設定し、重機により表土除去後（深さ50～60cm）遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 19m ² （対象面積96m ² ） | ⑥ 調査結果 | 発見遺構・遺物なし。 |
| ③ 調査原因 | 鉄塔建設 | | |
| ④ 調査期間 | 平成18年11月16日 | | |



下田島遺跡の範囲(下)と調査区位置図(上)

22. ^{すぎのした}杉ノ下遺跡

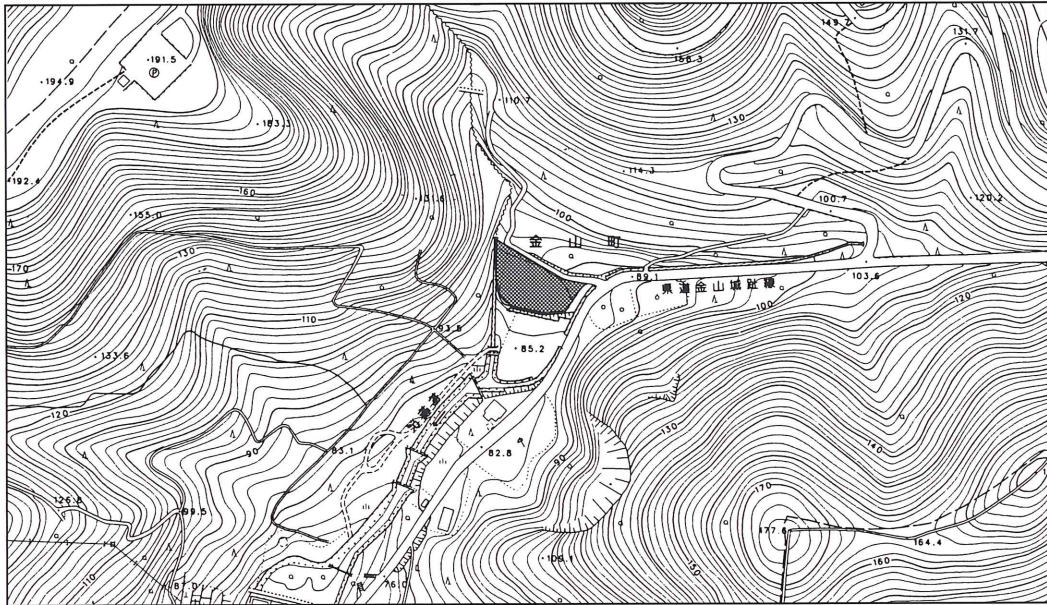
- ① 所在地 太田市岩瀬川町53番1ほか
- ② 調査面積 290㎡ (対象面積2,615㎡)
- ③ 調査原因 集合住宅
- ④ 調査期間 平成19年1月10日～12日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向に4本、東西方向に3本のトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ30～60cm)遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 住居5軒(古墳時代)、土坑20基、溝5条、ピット17。土師器片。詳細は第4章。



杉ノ下遺跡の範囲(下)と調査区位置図(上)

かなやまじょうあとなわ ば
23. 金山城跡縄張り

- ① 所在地 太田市金山町40番281地内
- ② 調査面積 74m² (対象面積1,650m²)
- ③ 調査原因 金山ガイダンス
- ④ 調査期間 平成18年12月4日～12日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向に4本のトレンチを設定し、重機により表土除去後遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。



金山城遺跡縄張りの範囲(下)と調査区位置図(上)

だいになちやま
24. 大日山古墳群

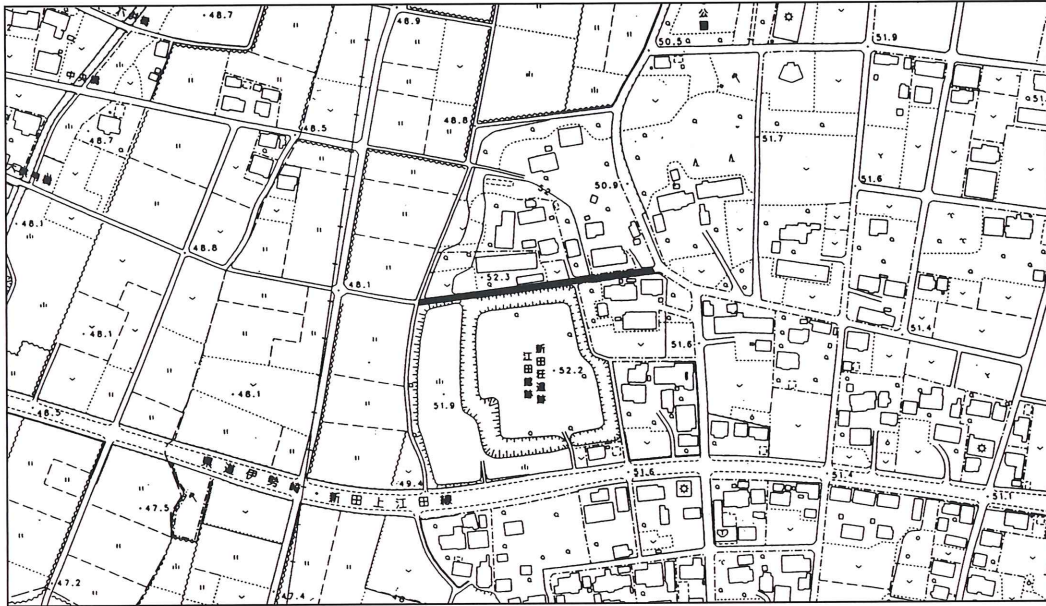
- | | |
|---|--|
| <p>① 所在地 太田市石原町118番2</p> <p>② 調査面積 410㎡ (対象面積3,292.19㎡)</p> <p>③ 調査原因 ドライブイン</p> <p>④ 調査期間 平成19年1月16日～19日</p> | <p>⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向に12本、東西方向に5本のトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ30～60cm)遺構の確認調査を行った。</p> <p>⑥ 調査結果 住居1軒(縄文時代)、古墳4基。縄文土器片、埴輪片。詳細は第4章。</p> |
|---|--|



大日山古墳群の範囲(下)と調査区位置図(上)

かみ え だじょうかん し
25. 上江田城 館跡

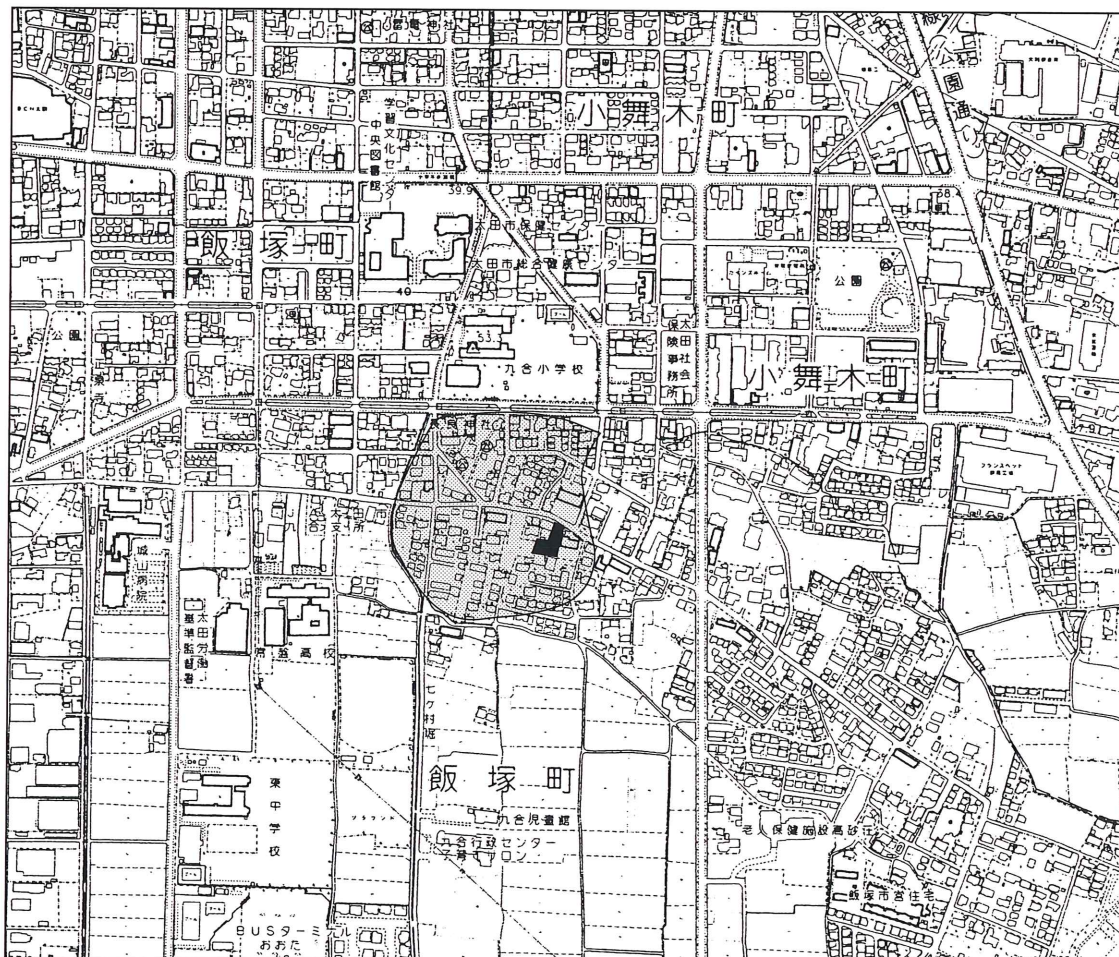
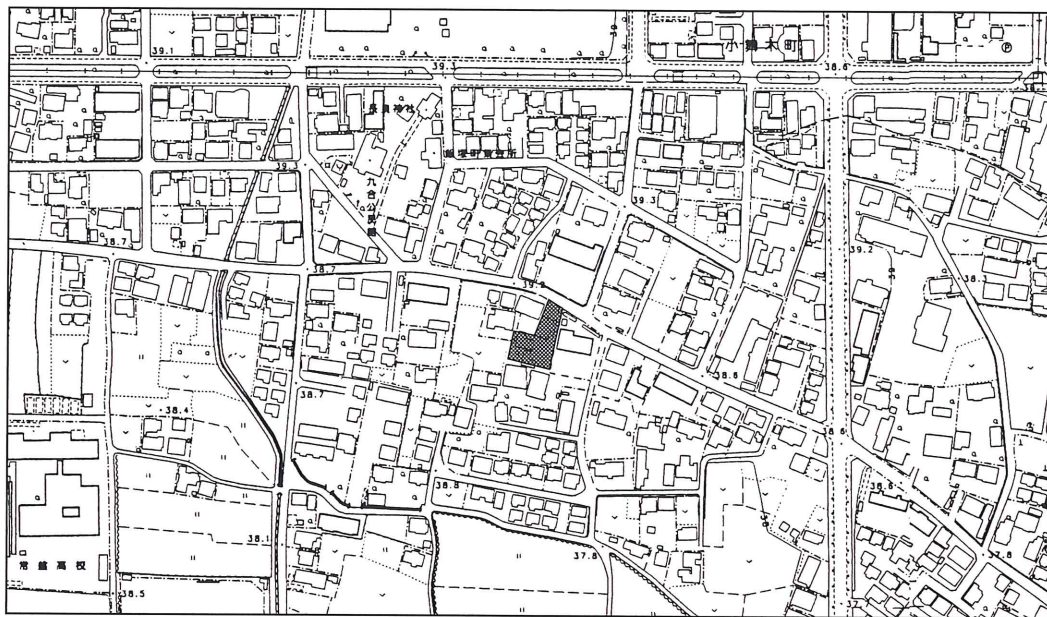
- ① 所在地 太田市新田上江田町
- ② 調査面積 200㎡（対象面積700㎡）
- ③ 調査原因 道路建設
- ④ 調査期間 平成19年2月1日～3月15日
- ⑤ 調査方法 市道拡幅部分が狭小であったため、掘削断面によって立会い調査を実施した。
- ⑥ 調査結果 古墳2基、土坑2基、溝2条。円筒埴輪1点。詳細は第4章。



上江田城館跡の範囲(下)と調査区位置図(上)

26. ^{きたみょうせん じ}北明泉寺遺跡

- | | | | |
|--------|--|--------|---|
| ① 所在地 | 太田市飯塚町759-1 | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に南北方向に3本のトレンチを設定し、重機により表土除去後（深さ30～50cm）遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 45m ² （対象面積1,031.47m ² ） | ⑥ 調査結果 | 住居1軒（古墳時代）、土坑2基、溝2条、土師器片。 |
| ③ 調査原因 | 集合住宅 | | 詳細は第4章。 |
| ④ 調査期間 | 平成19年2月5日 | | |



北明泉寺遺跡の範囲(下)と調査区位置図(上)

27. ^{とりがやと}鳥ヶ谷戸遺跡

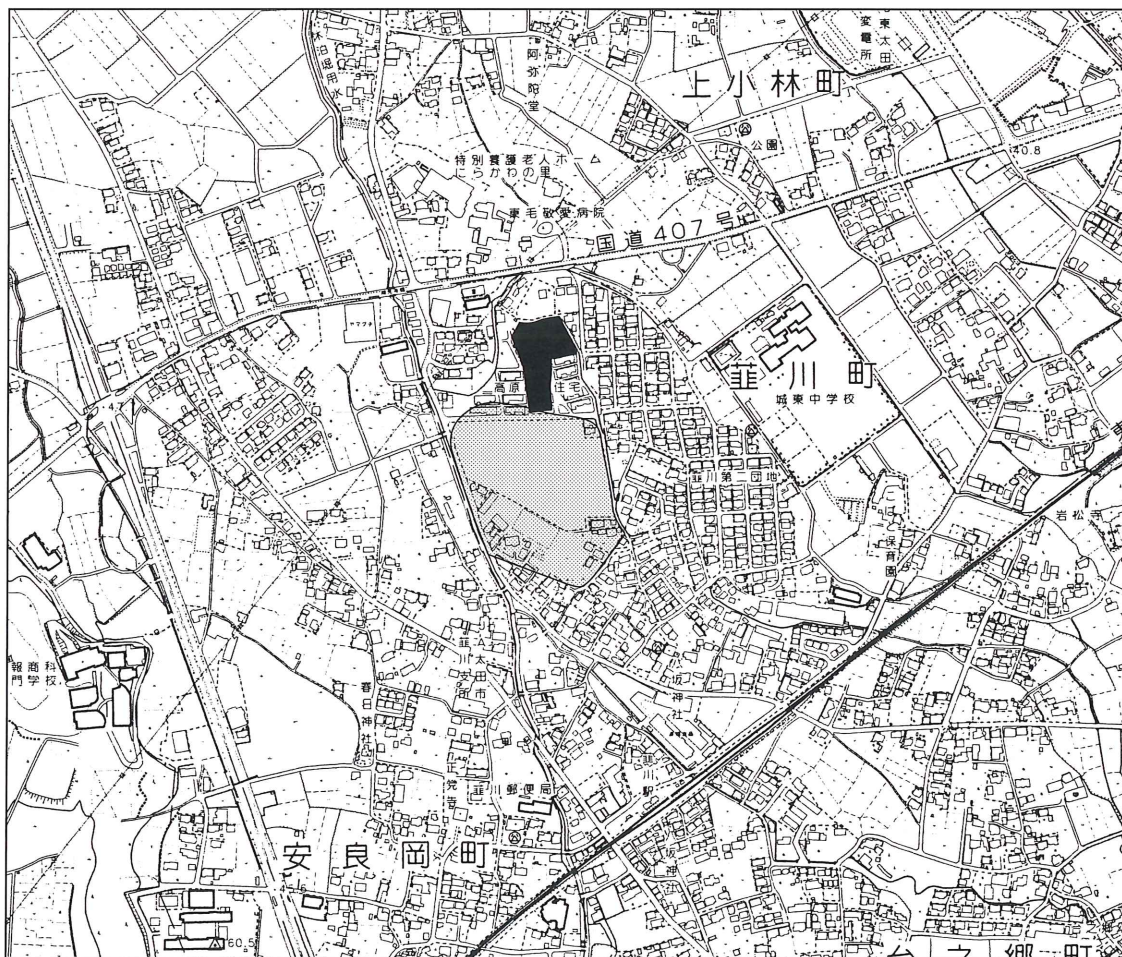
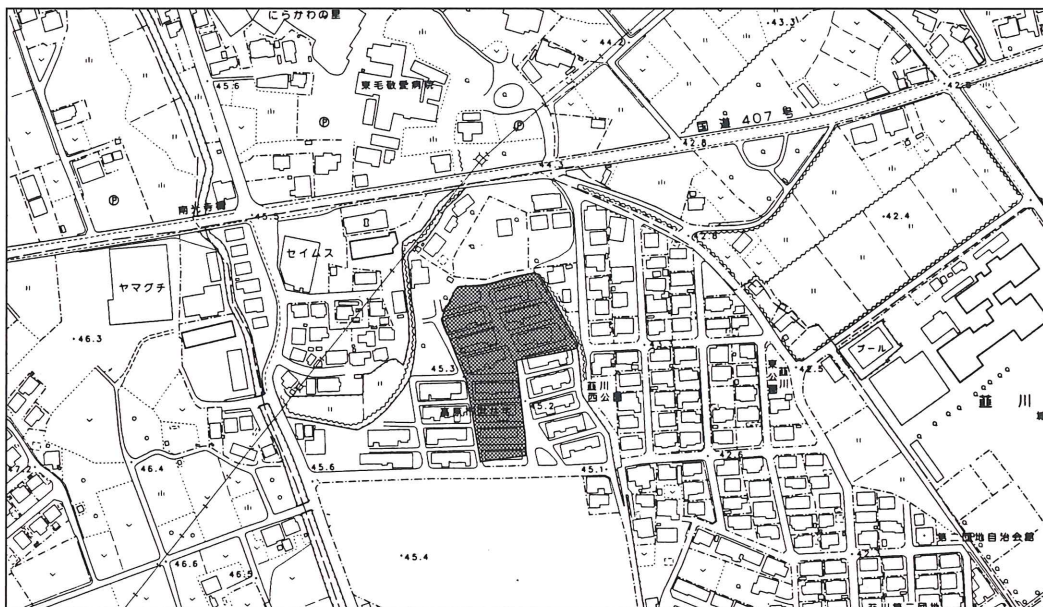
- ① 所在地 太田市鳥山中町817番1ほか地内 ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向に2本のトレンチを設定し、重機により表土除去後（深さ80～90cm）遺構の確認調査を行った。
- ② 調査面積 25m²（対象面積327.81m²）
- ③ 調査原因 個人住宅
- ④ 調査期間 平成19年3月2日
- ⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。



鳥ヶ谷戸遺跡の範囲(下)と調査区位置図(上)

やすらおか
28. 安良岡古墳群

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|--|
| ① 所在地 | 太田市台之郷町1550番 | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に南北方向に10本、東西方向に6本のトレンチを設定し、重機により表土除去後(深さ20～80cm)遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 600㎡(対象面積5,249.28㎡) | ⑥ 調査結果 | 方形周溝墓1基、溝1条。 |
| ③ 調査原因 | 集合住宅 | | |
| ④ 調査期間 | 平成19年3月15日～3月16日 | | |



安良岡古墳群の範囲(下)と調査区位置図(上)

第6章 ま と め

平成18年度に市内遺跡発掘調査の対象となった遺跡は全部で28件あり、地域別には太田地域で17箇所、新田地域で5箇所、尾島地域で5箇所、藪塚地域で1箇所に分けられる。このうち遺構が確認された遺跡は13箇所、太田地域が9箇所、新田地域が3箇所、尾島地域が1箇所であった。調査地点は市内全体に広がっており、藪塚地区、世良田地区を除いたすべての地域で調査が実施されており、平成18年度は太田地域の南側での調査が比較的多かった。

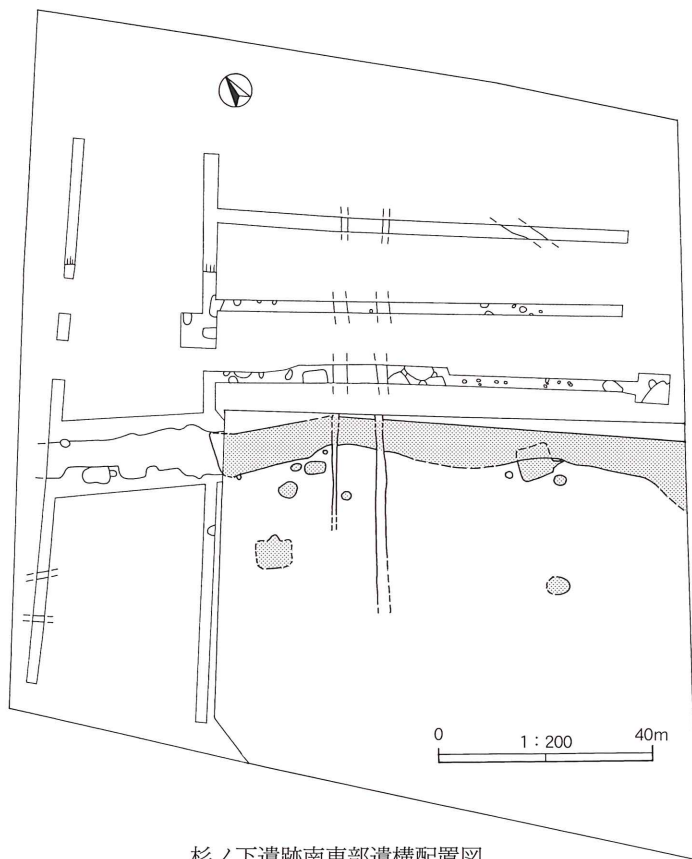
平成18年度に実施した確認調査では、遺跡としての範囲見直しを検討するものや周辺に広がりを見せる遺跡、特殊な遺構が確認された遺跡、また、近年まで残されていた古墳など、調査を実施したことによっていろいろと新しい見解を必要とする成果が見られた。以下、調査した遺跡について簡単に触れてみたい。

原宿川向遺跡（範囲見直しの遺跡）

今回調査した申請地は、ほぼこの遺跡全体に及ぶ範囲の調査であった。しかしながら、トレンチ調査の結果ではわずかに20cmで川原石の礫層が露出するところもあり、すべてのトレンチでこの礫層を確認するに至った。断面や確認した礫層から判断してこの区域は旧河川敷に該当するものと考えられ、申請地の隣接する畑でも遺物は全く確認できなかった。以上のようなことから、この遺跡の範囲を決定する段階では、以前に流れ込んでいた遺物があったのではないかと推定される。周辺には遺物の散布が全く見られないため、遺跡として登録された経緯等も踏まえて遺跡地から除外していく必要があると思われる。

塚井遺跡（新発見の遺跡）

確認された塚井遺跡は、二ノ堰遺跡の南側100mほどの所にあり、今回渡良瀬農地防災事業で計画された湧水池の範囲内で確認されている。当初は遺跡地図に載っていなかったが、このあたりの地区は洪水で埋もれてしまった塚廻古墳が所在するため以前から注目しており、今回の確認調査を実施することとなった。結果的には、遺構確認面はかなり削平されていたものの、微高地が所在し古墳時代前期から平安時代までの集落が形成されていたことが明らかになった。そのため、遺跡発見届けを提出し周知の遺跡として登録した。



杉ノ下遺跡南東部遺構配置図

杉ノ下遺跡（特殊遺構の遺跡）

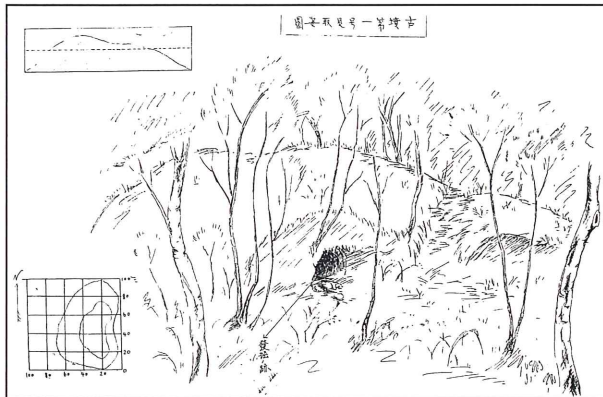
杉の下遺跡は、今回の確認調査を実施するまでは古墳時代の散布地として登録されていた遺跡である。南側で検出された東西に走行する溝は、覆土上層からも完形に近い遺物が出土したり、覆土中にも多量の土師器片や焼土などを含んでいるため、祭祀的な要素が強い遺構と考えられる。溝のセクションからは2条の溝があることがわかっており、6世紀代を中心とした土師器片が多量に確認されている。遺跡の北側には岩瀬川が流れているため、南側の区画で東側で北に折れる溝なのか、南に曲がってしまう溝なのか、その性格については確定できなかった。しかし、平成20年2月にこの申請地の南東の隣接地に開発が計画され、市単独の緊急発掘調査で確認調査を実施した所、左図のようにこの溝の続きが確認された。この調査で、溝は直線的な配置ではなく、波を打ったような形状で東へと続いており、土器は溝の中央底面部に30cm程度の幅で5cmほどの厚さで堆積していることが確認された。溝の形状や土器の堆積状況から見て水路としての可能性が高い溝だと思われるが、走行は引き続き岩瀬川と平行しているため、



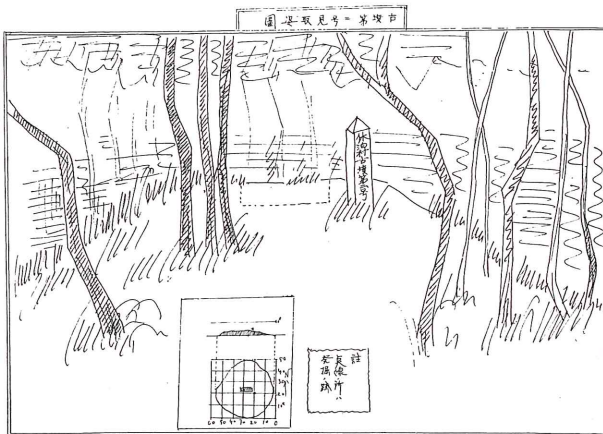
この先で南北のどちらへ曲がって行くかによって、その性格が決まってくるものと思われる。

大日山古墳群（近年まで残っていた古墳）

大日山古墳群は、国道122号と太田環状線の交差する石原南の交差点の東側に所在する。現在のところ1基だけ墳丘が残されており、一部削られてはいるものの周囲は畑として利用されており、今でもその形状を残している。今回申請のあった土地は、この古墳の南側に位置する。確認調査後、昭和十年八月に実施された古墳調査帳（山田郡休泊村）をもとに、これらの古墳について確認してみた。所在地の欄と左に図示された位置図とを照合したところ、現存する古墳が1号墳で、確認された古墳が2号墳と3号墳であることが明らかになった。台帳によれば、2号墳の平面形は円形で直径が50～55尺（15～16.5m）、高さが3.3尺（約1m）の規模であり、墳頂には「休泊村古墳第二号」という標柱が建てられていた（図参照）ことが判明した。また、

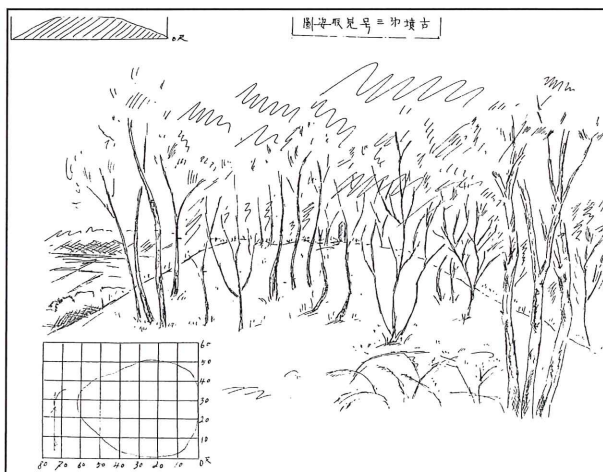


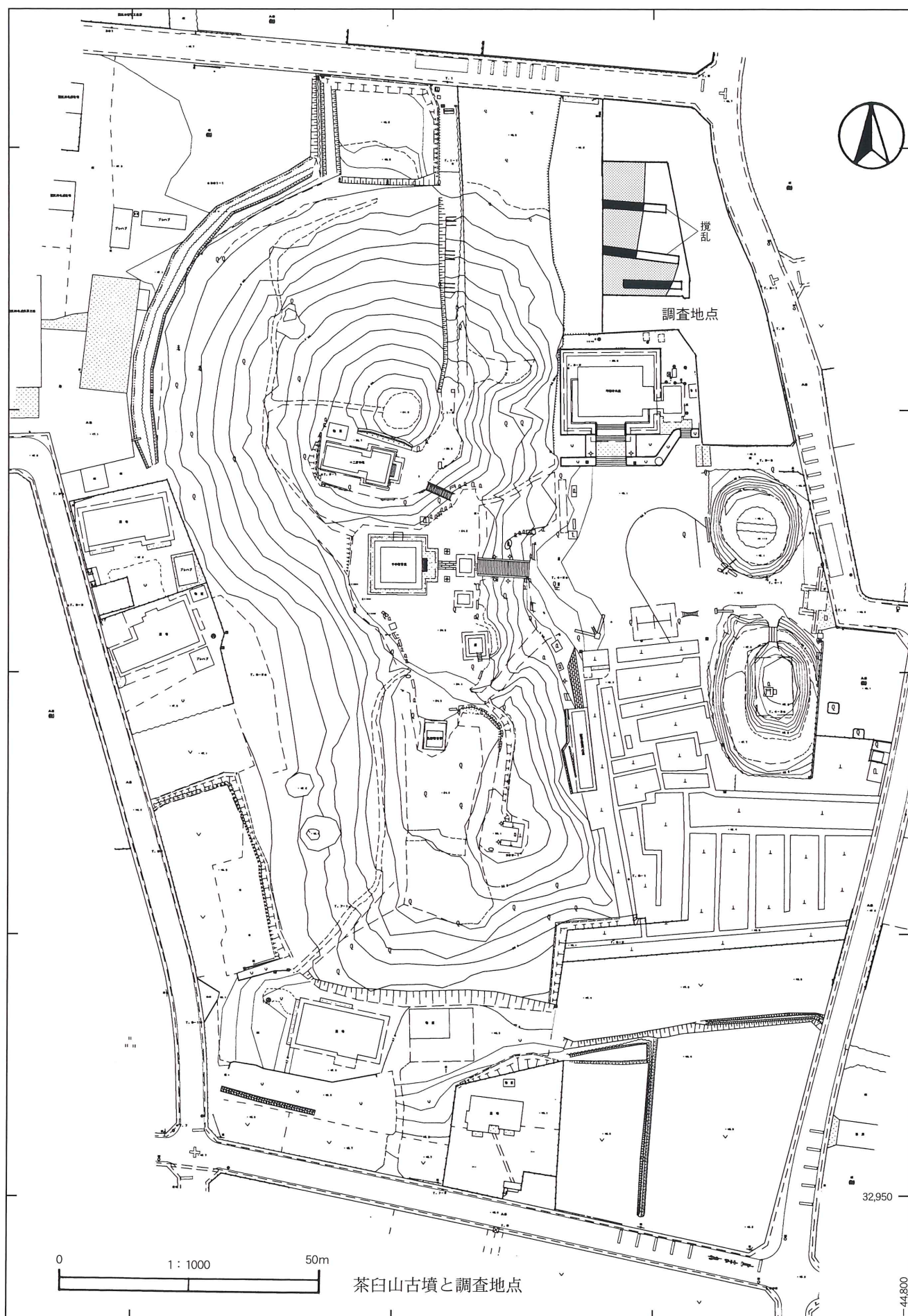
出土品の欄には「短剣ニ（ポロポロ）銅環一」の記録が見られた。2号墳については、平面で主体部の下層部を確認しているが、図の中にも中央部に主体部の位置が示されており、図との一致を見た。南西に位置した3号墳は平面形がやや楕円形をしており、長軸60尺（18m）、短軸50尺（15m）、高さ7.25尺（2.4m）と記載されていた（図参照）。1号墳については南北100尺（30m）、東西70尺（21m）で高さ19.8尺（約6m）の規模となっており、1号墳の発掘の有無の欄には「昭和三年十二月二十九日夜何者ニカ掘探るラレ其跡ニ古刀ニアリ、石棺長サ約二間一尺、石棺ニ朱多ク附着セリ 石棺ノ上ニ建武二年ト刻ミアリタリト（発掘者ハ後太田署ニ検挙セラレタル由）」と書かれていた。古い台帳も現況が変わってしまった現在では、発見当時の状況が明確に記されているため、貴重な資料であることを改めて認識するとともに、確認した遺構との照合ができ、大きな成果となった。



茶臼山古墳

茶臼山古墳の墳丘部分については、現在史跡「新田荘遺跡円福寺境内」として指定されている範囲に含まれている。墳頂部、墳丘裾部は寺や神社等の建物により原形が損なわれているが、茶臼山古墳は市内では天神山古墳に次いで大きく、県内でも第3位の大きさを誇っている。太田市では、今までに平成3年と平成4年に確認調査を実施しており、平成4年の調査では、周堀の墳丘裾部となる立ち上がり部分について確認している。今回の調査はちょうどその北側に隣接する場所であったが、墳丘裾部の立ち上がりは確認できなかったものの、周堀の外側の立ち上がりについて確認することができた。その結果、周堀の幅は10m程度と思われるが、古墳北東部の墳丘部分はかなり崩れているため周堀の明確な幅については、今後の調査に期待したい。





お わ り に

平成18年度の調査では、28箇所についての調査報告を行ったが、このうち住居跡が確認された遺跡は13箇所、古墳が確認された遺跡は7箇所、溝が確認された調査は1箇所であった。残りの15箇所については遺跡地内でありながら、遺構・遺物が確認されない場合や沖積地に該当していた事例であり、遺跡の範囲について検討が必要と思われた遺跡は1箇所であった。また、今回開発が進行していく中で、上強戸古墳群のように、公園緑地として保存していくための範囲確認調査などがあり、市内には遺跡の内容や範囲について確認調査が必要と思われる遺跡が数多く所在するため、これからの調査方向として検討すべき事例であると思われる。このように、市内遺跡発掘調査では地点ごとの調査データを蓄積していくことで、遺跡の範囲や内容について明らかにしていくことが大きな目的といえる。今後も周辺の調査と関連させて、遺跡の正確な把握とその保護に務めていきたい。

最後に調査に際してご協力いただいた事業主の方々、ならびに寒暖の中で発掘調査に従事された方々に深く感謝の意を表したい。

<参考文献>

太田市教育委員会 「埋蔵文化財発掘調査年報1」 昭和63・平成元年度 1991

太田市教育委員会 「埋蔵文化財発掘調査年報3」 平成3年度 1993

太田市教育委員会 「埋蔵文化財発掘調査年報4」 平成4年度 1994

太田市教育委員会 「市内遺跡XIII」 1997

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 「庚塚・上・雷遺跡」 1980

報告書抄録

フリガナ	オオタシナイイセキ
書名	太田市内遺跡3
副書名	平成18年度調査
巻次	—
シリーズ名	—
シリーズ巻名	市内遺跡
編集著者名	小宮 豪
編集機関	太田市教育委員会
編集機関所在地	〒370-0495 群馬県太田市粕川町520 TEL 0276-20-7090
発行年	平成20年3月25日
所収遺跡	茶臼山古墳ほか市内の遺跡27箇所

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
茶臼山古墳	太田市別所町388番2	10205	T0132	36°17'39"	139°20'13"	H18.7.31	80m ²	学校建設
東部地区遺跡群	太田市岩松町159番ほか地内	10205	J0112	36°15'13"	139°19'58"	H18.8.31～ H18.9.8	420m ²	区画整理
上遺跡	太田市鳥山上町2249番1ほか地内	10205	T0263	36°19'24"	139°20'46"	H18.9.5～ H18.9.11	160m ²	土地分譲
牛沢稲荷山古墳	太田市牛沢町138番1地内	10205	T0031	36°15'26"	139°21'32"	H18.9.28～ H18.10.2	100m ²	宅地造成
上強戸古墳群	太田市上強戸町2028-1ほか	10205	T0109	36°20'8"	139°21'42"	H18.10.18	111m ²	公園建設
境ヶ谷戸遺跡	太田市新田市新野井町1989番3地	10205	N0024	36°19'6"	139°18'50"	H18.11.6	48m ²	鉄塔建設
塚井遺跡	太田市沖之郷町984番ほか地内	10205	T0454	36°17'10"	139°25'46"	H18.11.9～ H18.12.15	735m ²	遊水池建設
村田・本郷遺跡	太田市新村田町	10205	N0029	36°18'31"	139°19'27"	H18.12.15～ H18.12.18	200m ²	道路建設
杉ノ下遺跡	太田市岩瀬川町53番1ほか	10205	T0352	36°16'16"	139°21'58"	H19.1.10～ H19.1.12	290m ²	集合住宅
大日山古墳群	太田市石原町118番2	10205	T0087	36°17'31"	139°24'19"	H19.1.16～ H19.1.19	410m ²	ドライブイン
上江田城館跡	太田市新田上江田町	10205	N0429	36°17'43"	139°17'12"	H19.2.1～ H19.3.15	200m ²	道路建設
北明泉寺遺跡	太田市飯塚町759-1	10205	T0202	36°16'37"	139°23'18"	H19.2.5	45m ²	集合住宅
安良岡古墳群	太田市台之郷町1550番	10205	T0246	36°18'34"	139°24'11"	H19.3.15～ H19.3.16	600m ²	集合住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
茶臼山古墳	古墳	古墳時代	古墳周堀	五輪塔	
東部地区遺跡群	集落	古墳～平安時代	住居跡・溝・土坑	土師器	発掘調査実施
上遺跡	集落	古墳・奈良時代	住居跡・土坑	土師器	
牛沢稲荷山古墳	古墳・集落	古墳時代	住居跡	土師器片	
上強戸古墳群	古墳	古墳時代	古墳	円筒埴輪片	範囲確認調査
境ヶ谷戸遺跡	集落	奈良・平安時代	住居跡・溝	土師器片	
塚井遺跡	集落	古墳～平安時代	住居跡・溝・土坑	土師器・須恵器	発掘調査実施
村田・本郷遺跡	集落	古墳・中世	住居跡・溝・土坑	土師器片	発掘調査実施
杉ノ下遺跡	集落	古墳～平安時代	住居跡・溝・土坑	土師器・須恵器	
大日山古墳群	古墳	古墳時代	古墳	土師器片・埴輪片	
上江田城館跡	古墳・館跡	古墳・中世	古墳・溝	円筒埴輪	
北明泉寺遺跡	集落	古墳時代	住居跡・溝	土師器片	
安良岡古墳群	古墳	古墳時代	方形周溝墓	土師器	発掘調査実施

太田市内遺跡 3

平成20年 3 月24日 印刷

平成20年 3 月25日 発行

編集・発行 群馬県太田市教育委員会

群馬県太田市粕川町520

電話 0276-20-7090

印刷 サンフォート